大学の世界展開力強化事業（令和４年度採択）
令和５年度フォローアップ調査票

大学名 （〇が代表大学）	東北大学			
主な交流先	英国			
事業名	【和文】	レジリエントな社会を創造する日英米大学の国際連携		
	【英文】	International Collaboration between Japanese, British, and American Universities to Create Resilient Societies.		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	（氏　名）	山口　昌弘	（所属・職名）	副学長（教育改革・国際戦略）
	（交替年月日）			

		大学名		国名
		（日本語表記）	（英語表記）	
海外相手大学追加調書分 相手大学名 ※追加調書を提出した大学のみ記入	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用
https://web.tohoku.ac.jp/resilientsocieties/

１．取組内容の進捗状況 【（1）と（2）で２ページ以内、（3）（4）で2ページ以内、（5）（6）で合わせて１ページ以内】

本事業における2022年度の取組内容について記入してください。

（1）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

①－１ 交流プログラムの内容

長年の協定校であるヨーク大学と連携して、交換留学生を派遣するとともに、本学学生のために特別に開発された短期留学プログラムを開催し、学生20名を派遣した。留学生の受入れでは、ヨーク大学、イーストアングリア大学から中長期の交換留学生を５名受入れた。以上より、当初の目標数を大幅に上回る学生交流を実施することができた。今後は、現在数が少ない英国からの留学生の受入れを増やしながら、着実に目標を達成していく予定である。

1～3月の間、戦略的パートナーであるユニバーシティ・カレッジ・ロンドンと相互に教職員が訪問しあい、共同大学院プログラム創設やその基盤となる学生交流の強化、新規インターンシップ受入れプログラム等に関する協議を重ねた。１月には米国・ワシントン大学、2月には英国・ヨーク大学及びイーストアングリア大学にもそれぞれ大学執行部や教職員が訪問し、教育連携の推進や学生交流の促進について具体的な意見交換を行った。今後はこれらのプログラムの実現に向けて、更なる協議や必要手続きを進める予定である。

【特に優れた取組】

既存の交流プログラムの拡充により、目標数を大きく上回る派遣・受入れ双方向の学生交流を実現することができた。また、大学院プログラムの創設や短期留学プログラム、インターンシッププログラム等の開発のため、連携大学との相互訪問を通じて協議を着実に進めることができた。

①－２ 学生主体の国際交流プログラム

2～３月に連携大学の学生を対象とした短期オンラインプログラムを開催し、英国の連携３大学から学生を受入れた。本学学生によるプレゼンテーションを含む、学生間の交流や意見交換の機会を毎セッションで設けたことから、双方の学生にとって貴重な文化交流、学びの経験になった。プログラム参加学生からのフィードバックを今後の新規プログラム開発等に活用していく予定である。

３月に本学で開催された世界防災フォーラムにはユニバーシティ・カレッジ・ロンドンとワシントン大学から合計６名が参加し、学生主体の意見交換ワークショップを実施した。2023年度以降についても、引き続き交流プログラムの参加学生による成果発表のイベントやワークショップ等を計画している。

【特に優れた取組】

連携大学を対象としたオンラインプログラムを開催し、本学学生による発表やそれに対する意見交換など、相互交流による学びを提供した。世界防災フォーラムにおいて、連携校からの学生主体の意見交換ワークショップを実施した。

①－３ オンライン（「JV-Campus」等）を活用したプログラム
連携大学の学生を対象とした短期留学プログラムの開発のため、試験的なオンラインプログラムを開催し、英国の連携３大学から学生を受入れた。時差の関係で開講可能時間が限られるという困難はあったが、日本人学生も交えた双方向型のセッションへの満足度は高く、参考となる希望トピックや形態等についてフィードバックを得ることができた。今後のJV-Campus等での発信に向けて、学内のオープンオンライン教育開発に関する蓄積を参照し、著作権の対策等を含めた必要な準備を進めていく予定である。

【特に優れた取組】
連携大学の学生を対象とした短期留学プログラムの開発のため、オンラインを利用した短期留学受入れプログラムを試験的に実施した。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成
事業採択後、運営委員会及び実施委員会を設置し、それぞれ第１回の委員会を開催した。また、学内部局を跨ぐ担当者による頻繁な打ち合わせの機会を持ち、情報共有や意見交換を通じて合意形成、目的意識の共有を行っている。さらに、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドンとの共同大学院プログラム構想の具体化、英国連携大学の他２校との学生交流プログラムの新規立ち上げ、新たな共同研究協力などの議論を進展させるとともに、既存プログラムの拡充や従来少なかった英国連携校の学生参加増を着実に実現している。
米国・ワシントン大学とは、共同設置のAcademic Open Space主催により1月に共同ワークショップを開催し、アントレプレナーシップ教育等、両大学が日米大学連携の先駆的な事例を形成することで合意した。
今後もこれらの委員会や学内コミュニケーションを重ねながら計画を実行するとともに、外部評価委員会による評価を実施し、事業による大学間交流の質を保証していく。

【特に優れた取組】
質の保証を伴った魅力的な大学間交流を実現するため、学内ガバナンスにより運営体制を整えるとともに、部局間の日常的連携により合意形成・目的共有をしながら取り組みを進めることができた。また、各連携大学との複数回の協議を通して、双方向の意見のすり合わせなど、質保証の伴った交流の基盤を作った。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

実渡航の再開に伴い、海外経験の乏しい学生の派遣・受入れとなるため、これまで以上に丁寧なサポートを大学をあげて行っている。具体的には、派遣前に事前研修、保険加入の他に危機管理研修、相談会等を行って、事件事故を未然に防ぐ対策をとっている。また実渡航の事前事後に研修を開催し、留学プログラムの学びをより深いものにする仕組みを作っている。外国人留学生の受入れでは、2022年に新たに開設された国際サポートセンターにより、渡航の前段階から来日に至まで、発生する諸手続の支援や情報提供などの一括したサポートを提供した。来日後はプログラム別のオリエンテーションやウェルカムウィークの開催でスムーズな学生生活への導入を図り、その後は留学生ヘルプデスクやメンターによる日常的なサポート・相談体制をとっている。他にも国際混住寮や学生団体による多種多様な国際交流イベントなど、本学で充実した時間を過ごせるよう環境整備を行っている。帰国前に準備のためのガイダンスも実施している。2023年度以降もこのような総合的かつ充実した学びと生活の支援を行っていく予定である。

【特に優れた取組】

日本人学生の派遣では、留学プログラムの学びを深める事前学習・事後学習だけでなく、学生の安全を確保する環境整備を行っている。留学生の受入れでは、国際サポートセンターやグローバルラーニングセンター、学生団体が一丸となって、渡日前から滞在中、帰国までの総合的なサポートを提供している。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

事業紹介や各種取り組みの発信、イベント案内を行うことができる本事業専用のウェブサイトを開設した。今後は更なるコンテンツの充実を図る予定である。3月に開催された世界防災フォーラムにおいては、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン及びワシントン大学との学生主体の意見交換ワークショップを実施したほか、本事業主催のセッションを開催し共同研究の成果を発表、レジリエンス社会の創造という本事業のヴィジョンを世界に伝えるとともに、本学災害科学国際研究所の研究・教育両面における国際協力・交流のさらなる推進につなげた。フォーラム直前には、連携大学やその他の様々な国から集まった災害科学に携わる学生・研究者ら20名とともに東日本大震災被災地フィールドワークを実施した。世界からの学生・研究者に、震災被害だけでなく、三陸沿岸地域の文化、歴史、地形、災害観光、復興の状況など、東北について多くのことを伝える機会となった。2023年度にはグローバル・レジリエントをテーマとした本事業の成果報告シンポジウムを開催する予定であるほか、JV-Campusの活用も念頭に、更なる情報発信・成果の普及を図っていく。

【特に優れた取組】

事業情報や成果を社会に発信し、普及させることを目的としたウェブサイトを開設した。世界防災フォーラムにおいては、英国連携校とのセッションを主催し、本事業のヴィジョンの発信を行ったほか、学生主体の意見交換ワークショップや被災地へのフィールドワークを実施した。

（2）特記すべき成果

短期及び中長期の派遣・受入れプログラムを行い、連携大学との相互の学生交流計画を着実に実現している。特に、戦略的パートナーであるユニバーシティ・カレッジ・ロンドンとは、レジリエンス社会創造・共同大学院プログラムの創設やその基盤となる学生交流の強化、新規のインターンシップ受入れプログラム等に関する協議を前進させている。その他の連携３大学にも個別訪問し、教育連携の強化や学生交流の増加に向けた具体的な取り組みを進めることができている。

３月に開催された世界防災フォーラムに連携大学から学生・研究者を招へいし、学生主体の意見交換ワークショップを実施したほか、本事業主催のセッションにおいて共同研究の成果を発表、レジリエンス社会の創造という本事業のヴィジョンと専門知を世界に発信した。

（3）オンラインを活用した工夫・改善点

主に英国の連携校の学生をターゲットに、オンラインの短期トライアルコースを開催した。英国の学生、日本の学生双方が参加可能な時間帯にオンラインで設定することで、費用や安全面で実渡航の難しさがある状況の中、気軽に試すことができるプログラムとして利用を促進することができた。

連携大学の実務担当者と、実渡航訪問中の限られた時間では十分に議論できないことやプログラムの詳細に関して打ち合わせを行ったり、事業に派生して生まれた新たな共同研究の計画に関する打ち合わせなどでオンライン会議システムを活用している。実際の学生交流では、短期受入れプログラムに利用したのみであるため、より多くの対象に向けた発信の可能性を検討する必要がある。

２．交流学生数の実績等 【（１）（２）はそれぞれ６ページ以内、（３）は１ページ】

（１）交流する学生数について

①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	8	10	20	20	30	35	40	45	47	50	145	160
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	3		10	10	15	20	20	25	22	30	70	85
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	5	5	10	5	10	5	10	5	10	5	45	25
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）		5		5	5	10	10	15	15	15	30	50

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	8	10	20	20	30	35	40	45	47	50	145	160
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	3	0	10	10	15	20	20	25	22	30	70	85
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	5	5	10	5	10	5	10	5	10	5	45	25
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	5	0	5	5	10	10	15	15	15	30	50

②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	21	16	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）	21	11								
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生（以下「オンライン」）	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	B	B 5	B	B	B	B	B	B	B	B
実渡航とオンライン受講を行った学生（以下「ハイブリッド」）										
達成目標に対する実績の割合	263%	160%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

③：【交流形態別　内訳】（計画）

●申請時の計画調書記載人数

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			8	0	12	0	15	0	20	0	25	0
	実渡航	A(学部生)	3		2		5		10		10	
	オンライン	A(学部生)	5		10		10		10		10	
	ハイブリッド	A(学部生)									5	
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	8	5	15	20	20	25	22	28
	実渡航	A(短)(学部生または大学院生)			8		10	10	10	10	12	13
	オンライン	A(学部生)										
	ハイブリッド	A(短)(学部生または大学院生)				5	5	10	10	15	10	15
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	10	0	15	0	15	0	20	0	22
	実渡航	A(学部生)				10		10		15		17
	オンライン	A(学部生)		5		5		5		5		5
	ハイブリッド	A(学部生)		5								
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											

●海外相手大学追加調書分

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											

●合計

			2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数			8	0	12	0	15	0	20	0	25	0
	実渡航		3	0	2	0	5	0	10	0	10	0
	オンライン		5	0	10	0	10	0	10	0	10	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	5	0
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	8	5	15	20	20	25	22	28
	実渡航		0	0	8	0	10	10	10	10	12	13
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	5	5	10	10	15	10	15
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数			0	10	0	15	0	15	0	20	0	22
	実渡航		0	0	0	10	0	10	0	15	0	17
	オンライン		0	5	0	5	0	5	0	5	0	5
	ハイブリッド		0	5	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

④：【交流形態別　内訳】（実績）

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			16	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		16									
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			1	5	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		1	5								
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			4	11	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		4	6								
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B 5	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

・英国・米国連携校との中長期海外派遣プログラム：英国連携校のヨーク大学へ１名交換留学を送り出した。
・英国・米国連携校との短期海外派遣プログラム：英国連携校のヨーク大学で、本学学生向けの4週間の短期プログラムを開催。20人の学生が実渡航で参加した。次年度以降は、より多様性・公正性・包摂性（DEI）に焦点を当てたプログラムへ移行することでヨーク大学と合意ができている。
・実渡航の再開に伴い、海外経験の乏しい学生の派遣となるため、これまで以上に丁寧なサポートを大学をあげて行っている。具体的には、派遣前に事前研修、保険加入の他に危機管理研修や相談会を行って、事件事故を未然に防ぐ対策をとっている。
・2023年度は連携４大学全てへの派遣を実現すべく、連携校との協力や広報の強化を進めている。
・ユニバーシティ・カレッジ・ロンドンとのレジリエンス社会創造共同大学院プログラム構想の議論を進展させている。

【特に優れた取組】
目標数を大きく上回る短期、中長期の留学派遣の実現することができた。留学する学生には、渡航前に事前研修、危機管理研修や相談会を行って、安全に渡航できるよう支援を行っている。
連携大学との相互訪問を重ね、既存の交流プログラムのコンテンツをレジリエンスや多様性・公正性・包摂性（DEI）の推進により沿ったものに移行することができた。共同大学院プログラムの構想についても協議が進められている。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

・英国・米国連携校との中長期受入れプログラム：英国連携校のヨーク大学から１名、イーストアングリア大学から４名の学生が交換留学生として渡日し、本学で学んだ。
・英国・米国連携校との短期受入れプログラム：・2月～3月に連携大学学生を対象としたオンライン留学プログラムを実施し、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン、イーストアングリア大学、ヨーク大学から5名の学生を受入れた。毎セッションで本学学生との交流、意見交換の機会を設けたことから、双方の学生にとって貴重な文化交流、学びの経験になった。2023年度には、複数の短期プログラムで連携４大学から学生を受入れることが決まっており、特に従来少なかった英国連携校の学生参加を着実に促進している。
・英国・米国連携校との短期海外受入れプログラム：3月の世界防災フォーラムのためにユニバーシティ・カレッジ・ロンドンとワシントン大学の学生が来日し、ブース出展と口頭発表の形で共同研究の成果を発表した。また、世界から集まった災害科学に携わる学生・研究者らとともに東日本大震災被災地でのフィールドワークも実施した。
・外国人留学生の受入れにあたっては、渡航前から入国管理に関する情報提供と手厚いサポートを行うとともに、来日後はプログラム別のオリエンテーションの他、新たに開設された国際サポートセンターや留学生ヘルプデスクによる受入れレポート、メンターによる相談体制をとっている。
・ユニバーシティ・カレッジ・ロンドンとのレジリエンス社会創造共同大学院プログラム構想の具体化、ヨーク大学との短期プログラムの新規立ち上げの協議が進んでいる。

【特に優れた取組】
目標数を大きく上回る短期、中長期の留学生受入れを実現することができた。
新規共同大学院プログラムや学生交流プログラムの開発のため、連携大学との相互訪問による協議を重ね、着実に議論を進展させている。

（2）インターンシップの実施状況について

①本事業で計画している交流学生のうちインターンシップに参加する学生数（計画）

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	4	3	10	8	14	11	17	13	45	35
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）			4	3	7	6	8	7	9	9	28	25
自国にてインターンシップをオンラインで参加する学生（以下「オンライン」）					2		2		2		6	0
実渡航とオンライン参加を行う学生（以下「ハイブリッド」）					1	2	4	4	6	4	11	10

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）											0	0
自国にてインターンシップをオンラインで参加する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	4	3	10	8	14	11	17	13	45	35
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	4	3	7	6	8	7	9	9	28	25
自国にてインターンシップをオンラインで参加する学生（以下「オンライン」）	0	0	0	0	2	0	2	0	2	0	6	0
実渡航とオンライン参加を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	1	2	4	4	6	4	11	10

②プログラム全体のインターンシップ参加学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）										
自国にてインターンシップをオンラインで参加した学生（以下「オンライン」）	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B
実渡航とオンライン参加を行った学生（以下「ハイブリッド」）										
達成目標に対する実績の割合	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

③：【参加形態別　内訳】（計画）

●申請時の計画調書記載人数

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	3	0	2	0	2	0
	実渡航	A(学部生)					1					
	オンライン	A(学部生)					2		2		2	
	ハイブリッド											
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	4	0	7	8	12	11	15	13
	実渡航	A(大学院生または大学院生)			4		6	6	8	7	9	9
	オンライン											
	ハイブリッド	A(大学院生または大学院生)					1	2	4	4	6	4
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	3	0	0	0	0	0	0
	実渡航	A(学部生)				3						
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											

●海外相手大学追加調書分

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											

●合計

		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	3	0	2	0	2	0
	実渡航	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	2	0	2	0	2	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	4	0	7	8	12	11	15	13
	実渡航	0	0	4	0	6	6	8	7	9	9
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	1	2	4	4	6	4
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	3	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

④：【交流形態別　内訳】（実績）

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

米国・ワシントン大学への派遣者を対象として、シアトルのスタートアップ企業でインターンシップが実現できるよう連携校と調整を行っている。

【特に優れた取組】
米国連携校とともに、スタートアップ企業の本場であるシアトルでの国際産学官連携インターンシップを計画している。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

戦略的パートナーである英国・ユニバーシティ・カレッジ・ロンドンとともに、インターンシッププログラムの新設について協議を進めている。当該インターンシップは、本学の災害科学国際研究所が受入れの窓口となり、レジリエント社会をテーマとして東日本大震災被災地でのフィールドワークなどが検討されている。

【特に優れた取組】
英国・ユニバーシティ・カレッジ・ロンドンとの災害科学に関する新規インターンシップの開発の協議が進んでいる。

（３）　その他（上記（１）（２）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

（4）本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

（ｉ）単位互換を実施する海外相手大学数【計画】　（単位：校）

	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する海外相手大学数	3	2	4	4	4	4	4	4	4	4

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【計画】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学　【大学名：東北大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
ヨーク大学	認定者数	A(学部生)	5	9	14	14	19
	認定単位数	A(学部生)	10	22	36	36	46
イーストアングリア大学	認定者数	A(学部生)	2	7	9	14	14
	認定単位数	A(学部生)	4	18	26	36	36
イーストアングリア大学	認定者数	B(大学院生)		1	2	3	3
	認定単位数	B(大学院生)		4	8	12	12
ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン	認定者数	B(大学院生)		1	1	2	4
	認定単位数	B(大学院生)		4	4	8	16
ワシントン大学	認定者数	A(学部生)	1	1	2	3	3
	認定単位数	A(学部生)	2	4	8	12	12
ワシントン大学	認定者数	B(大学院生)		1	2	4	4
	認定単位数	B(大学院生)		4	8	16	16
年度別認定者数合計			8	20	30	40	47
年度別認定単位合計			16	56	90	120	138

2. 国内連携大学　【大学名：　　大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位合計			0	0	0	0	0

【2022年度末における目標の達成状況】

（ｉ）単位互換を実施した海外相手大学数【実績】　（単位：校）

	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した海外相手大学数	1	5								

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【実績】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

（ｉ）代表申請大学　【大学名：東北大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
ヨーク大学	認定者数	A(学部生)					
	認定単位数	A(学部生)					
イーストアングリア大学	認定者数	A(学部生)					
	認定単位数	A(学部生)					
イーストアングリア大学	認定者数	B(大学院生)					
	認定単位数	B(大学院生)					
ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン	認定者数	B(大学院生)					
	認定単位数	B(大学院生)					
ワシントン大学	認定者数	A(学部生)					
	認定単位数	A(学部生)					
ワシントン大学	認定者数	B(大学院生)					
	認定単位数	B(大学院生)					
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位合計			0	0	0	0	0

2. 国内連携大学　【大学名：　　大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位合計			0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和４年度採択）
令和５年度フォローアップ調査票

<table>
<tr><td>大学名
（〇が代表大学）</td><td colspan="4">岐阜大学</td></tr>
<tr><td>主な交流先</td><td colspan="4">インド</td></tr>
<tr><td rowspan="2">事業名</td><td>【和文】</td><td colspan="3">グローカルJDP プラットフォーム形成による北東インド・東海圏における実践力のある高度人材育成</td></tr>
<tr><td>【英文】</td><td colspan="3">Education for Highly-Skilled Human Resources in Northeast India and Tokai Area based on Glocal JDP Platform</td></tr>
<tr><td rowspan="2">事業責任者
※交替年月日は変更があった場合のみ記入</td><td>（氏　名）</td><td>神原　信志</td><td>（所属・職名）</td><td>岐阜大学・副学長（国際・情報・評価（副）担当）</td></tr>
<tr><td>（交替年月日）</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="12">海外相手大学追加調書分
相手大学名

※追加調書を提出した大学のみ記入</td><td colspan="2">大学名</td><td rowspan="2">国名</td></tr>
<tr><td></td><td>（日本語表記）</td><td>（英語表記）</td></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用
https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/jdp-platform/

１．取組内容の進捗状況 【（1）と（2）で２ページ以内、（3）（4）で2ページ以内、（5）（6）で合わせて１ページ以内】

本事業における2022年度の取組内容について記入してください。

（1）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

①－１ 交流プログラムの内容

インド工科大学グワハティ校(IITG)と実施する、修士1専攻（国際連携食品科学技術専攻）、博士2専攻（国際連携統合機械工学専攻、国際連携食品科学技術専攻）のジョイント・ディグリープログラム（JDP）を中軸として、地域課題オンライン型・対面型を組合わせた学生の共修活動、JV-Campusに対応するオンデマンドビデオ教材を活用する座学、研究・産業インターンシップを組合わせた国際連携修了証型教育の構築を目指している。2022年度は、ビデオ会議の積極的な活用に加えて、教員の相互訪問を実施してプログラムのアウトラインを確定させるとともに、渡航制限の緩和を受けてウィンタースクール（IITG学生が岐阜大学で実施）及びスプリングスクール（岐阜大学学生がIITGにて実施）を、当初の予定を上回る人数で実施（当初計画5名に対し、10名で実施）した。これらの取り組みには、学生による日印企業の訪問・見学、日印の産官学が参加するJDPシンポジウムへの参加などを通じて、学修内容と社会との関わりの理解を深めることにも取り組んだ。今後、より一層の教材の充実や、学生が主体的に企画・参加する項目の内容を充実させることなどにより、質の高い修了証型教育の確立をさせていく。

【特に優れた取組】

地球課題を認識し、地域課題解決の牽引役を担うリーダーシップを有する人材を育成する修了証型教育であるグローカル・エキスパートプログラムを、IITG教員と連携し設計した。その要素の一つである産業界との連携による教育を実現するため、学生の日印双方への企業訪問および企業参加型シンポジウム参加を実現した。

①－２ 学生主体の国際交流プログラム

本事業ではジョイント・ディグリーシンポジウムを実施。これは、国際協働教育について議論するメインセッションと、学術セッション及び産官学金連携セッションの3部から構成されている。この企画・運営を可能な限り日印双方の学生が主体的に協力して実施することは、日印共同研究や日印連携プロジェクトのこれからの担い手とリーダーを育成するために効果的である。当該年度は、IITG出身教員がメンター、日印双方でJDPを履修するの学生が中心となり、学術セッションの一部をサテライトシンポジウムとしてオンラインで実施した。今後は、全体プログラムの設計段階から学生が関与することなどを実現し、国際協働を通じた創造性とデザイン力を身に着ける取り組みを展開することを目指す。

【特に優れた取組】

IITG出身の本学教員（工学部・助教）がメンターとなり、日印双方のJDP履修生が2日間にわたる学術シンポジウム（オンライン）を実施した。グローカル・エキスパートプログラムで取り扱うサステイナブル技術を中心課題として演者を選定し、運営（座長含む）も学生が主体的に行った。

①‐3 オンライン（「JV-Campus」等）を活用したプログラム

本事業の修了証型教育では、地球課題を地域における取組を通じ解決するために必要な、学生のグローカル力醸成を目指している。特に、修士課程相当の専門性修得を目指すグローカル・エキスパートプログラムでは、まず、知識基盤となるグローカル理論と専門領域における地球課題に対する取り組み例などを学ぶ必要がある。これらの科目に用いるため40本程度のJV-Campusに対応したオンデマンドビデオ教材を作成。これを実践するため、まず岐阜大学・IITG教員の相互訪問による対面での会議により、その構成（使用言語、各要素の内容など）について合意した。尚、グローカル・エキスパートは3分野（サステイナブル技術、フードサプライチェーン、減災・防災）で実施することから、双方の大学からそれぞれのコーディネーターを選定し、両者の協議により議論を加速させた。
2023年度以降は、年次計画に従いビデオ教材作製を実施する。

【特に優れた取組】

修了証型教育であるグローカル・エキスパートプログラムの3分野（サステイナブル技術、フードサプライチェーン、減災・防災）に必要なオンデマンドビデオ教材の構成を、各分野のコーディネーター教員を定め議論した。また、本プログラムのコンセプトを紹介するビデオ素材を2本作製した。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

本事業では、日本及びインドの教育プログラム基準に合致した国際連携修了証により、客観性ある質の保証がなされたプログラム開発を目指している。このプログラムは、対象分野において地球課題解決に向けた研究の取り組み例（修士相当の専門教育で取り扱う内容）などを理解し、さらに学生主体の活動、留学（日本もしくはインド）及び産業型もしくは研究型インターンシップ参加を要件としている。これらの要素を確立すれば、インドにおける新たな協定校の開拓、他大学、社会人への波及的な効果も期待できる。
日印大学フォーラム（2023年1月実施）では、IITG及びインド工科大学ハイデラバード校(IITH)学長と、本学学長による意見交換などを実施した。

【特に優れた取組】

本事業の国際連携修了証は、対象分野の修士課程修了者もJV-Campusの活用と2か月間の留学による本プログラムを通じ取得可能であり、完成後は他大学にも波及効果が期待できる。これを踏まえ、日印大学フォーラム（2023年1月）では、IITH学長と本学学長の意見交換などを実施した。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

事前教育において異文化理解を深めることや、日本人学生の英語およびインド人学生による日本語によるコミュニケーション能力を向上させることは、本プログラム参加学生の受入・派遣において極めて重要である。このような観点から、カナダのアルバータ大学、オーストラリアのグリフィス大学で実施するサマースクール（英語研修プログラム）や、岐阜大学ウィンタースクール（IITG学生などが参加）における日本語教育プログラムを開発してきた。これらの事業活動レベルをコロナ禍前の状況に戻すことは、今後同様のプログラムを充実させるためにも極めて重要であると考えている。このような観点から、渡航制限緩和後に各プログラムを再開、実施した。

【特に優れた取組】

言語や文化を学ぶビデオなどのソフト教材を用意することは、学生の国際交流のさらなる質向上に必須と考える。このような観点から、夏季英語研修プログラムへの派遣を再開するとともに、インド人受入時の日本語・日本文化教育も再開した。現地でのコロナウイルス感染症陽性者への対応も含め、コロナ禍の影響下においても実施できた。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

事業による本学の国際性向上と、事業に関連する情報公開に関しては、主に本学ホームページへの掲載や、専用ページの開設などを通じて実施した（https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/jdp-platform/）。また、スプリングプログラムへの学生の参加促進のため専用ホームページを開設した。これらに加え、本学の教育・研究や、本事業を起点とするインドとの交流促進、事業展開を希望する企業などにより構成される岐阜JDコンソーシアム（産官学金で構成するコンソーシアム）への勧誘などを積極的に実施した。また、IITHを含むインドの大学及び、本学が会長を務める全国大学JDP協議会での情報共有、JIEPP（日印教育プログラムプラットフォーム事業）での情報発信などを積極的に行った。今後も、日印企業への情報発信、他大学への波及を同協議会参加大学などとも連携して実施する必要がある。

【特に優れた取組】

本事業の成果は機関HPや機関誌での公表に加えて、本学が会長を務める全国大学JDP協議会での情報共有、東京大学が整備するJIEPPなどを通じた情報発信を行った。さらに、岐阜JDコンソーシアム参加企業への周知や、IITG訪問などを実現した。今後は、特に、企業や社会への発信を強化する予定である。

（2）特記すべき成果

学生受入・派遣に関しては、IITGとの学生交流を本事業の計画人数より増員して実施したこと、本学のJDP実施大学であるマレーシア国民大学から参加を得た（波及させた）ことは特記すべき効果である。また、産業界との教育活動に関する連携や、本事業の活動を起点とするインドでの事業展開を希望する企業が、岐阜とインド・グワハティで実施するJDPシンポジウムに参加したことも大きな成果であり、岐阜JDシンポジウムにはインド・ビジネスを進めるテラモーターズ、トヨタ中央研究所、JICAインド事務所および在インド日本大使館などが参加し、グワハティで実施したJDPシンポジウムには地域企業4社及び北東インド商工会企業が参加した。また、学生の短期派遣プログラムでは、日印双方で企業見学を実現できたことも特記すべき成果である。

（3）オンラインを活用した工夫・改善点

コロナ禍の影響が残っていた2022年度前半には、遠隔会議システムを活用することで、岐阜大学及びIITG間での迅速な議論と意思決定を可能とした。尚、日印双方の企業からの参加者が議論する場である、JDシンポジウムの産官学金連携セッションでは、翻訳や通訳が必要となる場合があるため、遠隔会議システムにおける自動翻訳機能を持つアプリケーションを導入するなどの工夫を行った。

２．交流学生数の実績等 【（1）（2）はそれぞれ６ページ以内、（3）は１ページ】

（1）交流する学生数について

①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	12	15	16	16	22	20	29	23	34	26	113	100
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	2	4	3	4	4	6	6	7	7	8	22	29
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	8	4	8	4	8	4	8	4	8	4	40	20
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	2	7	5	8	10	10	15	12	19	14	51	51

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	12	15	16	16	22	20	29	23	34	26	113	100
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	2	4	3	4	4	6	6	7	7	8	22	29
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	8	4	8	4	8	4	8	4	8	4	40	20
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	2	7	5	8	10	10	15	12	19	14	51	51

②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	20	21	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）	10	12								
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生（以下「オンライン」）	A 0	A 0	A	A	A	A	A	A	A	A
	B 9	B 4	B	B	B	B	B	B	B	B
実渡航とオンライン受講を行った学生（以下「ハイブリッド」）	1	5								
達成目標に対する実績の割合	167%	140%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

③：【交流形態別　内訳】（計画）

●申請時の計画調書記載人数

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	2	0	5	1	8	1	9	1
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド		0	0	2	0	5	1	8	1	9	1
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			2	7	3	8	5	9	7	11	10	13
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド	B(大学院生)	2	7	3	8	5	9	7	11	10	13
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			2	4	3	4	4	6	6	7	7	8
	実渡航	A(学部生)	2	4	3	4	4	6	6	7	7	8
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			8	4	8	4	8	4	8	4	8	4
	実渡航											
	オンライン	A(学部生)	8	4	8	4	8	4	8	4	8	4
	ハイブリッド											
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											

●海外相手大学追加調書分

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											

●合計

		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	2	0	5	1	8	1	9	1
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	2	0	5	1	8	1	9	1
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		2	7	3	8	5	9	7	11	10	13
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	2	7	3	8	5	9	7	11	10	13
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		2	4	3	4	4	6	6	7	7	8
	実渡航	2	4	3	4	4	6	6	7	7	8
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		8	4	8	4	8	4	8	4	8	4
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	8	4	8	4	8	4	8	4	8	4
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

④：【交流形態別　内訳】（実績）

		学生別	2022年度				2023年度				2024年度				2025年度				2026年度			
			派遣		受入		派遣		受入		派遣		受入		派遣		受入		派遣		受入	
【交流形態別　内訳】																						
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	
	実渡航																					
	オンライン		A		A		A		A		A		A		A		A		A		A	
			B		B		B		B		B		B		B		B		B		B	
	ハイブリッド																					
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	
	実渡航																					
	オンライン		A		A		A		A		A		A		A		A		A		A	
			B		B		B		B		B		B		B		B		B		B	
	ハイブリッド	B(大学院生)	0		0																	
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			1		11		0		0		0		0		0		0		0		0	
	実渡航				6																	
	オンライン		A		A		A		A		A		A		A		A		A		A	
			B		B		B		B		B		B		B		B		B		B	
	ハイブリッド	B(大学院生)	1		5																	
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			10		6		0		0		0		0		0		0		0		0	
	実渡航	A(学部生)	10		6																	
	オンライン		A		A		A		A		A		A		A		A		A		A	
			B		B		B		B		B		B		B		B		B		B	
	ハイブリッド																					
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			9		4		0		0		0		0		0		0		0		0	
	実渡航																					
	オンライン		A		A		A		A		A		A		A		A		A		A	
		A(学部生)または大学院生	B	9	B	4	B		B		B		B		B		B		B		B	
	ハイブリッド																					
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	
	実渡航																					
	オンライン		A		A		A		A		A		A		A		A		A		A	
			B		B		B		B		B		B		B		B		B		B	
	ハイブリッド																					

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

・スプリングプログラム（参加者10名）では、インド・アッサム地域文化体験、企業見学（2社）、IITGでの研究体験を行い、今後の長期の留学プログラム進学につながるように研究室訪問等を行った。また、開催期間中に開かれたグワハティJDシンポジウムにも参加した。これらを通じて、インドにおける日本人学生に対する効果的な短期派遣プログラムを構築することができた。
なお、当プログラムは、募集人員5名に対して30名以上の応募があり、大学の別予算からの支援により募集枠をさらに5名追加して、10名で実施した。
Webサイト：https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/springschool/
・オンライン交流プログラム（共修ビデオ作製）では、作成する動画の大テーマを「Thinking about SDGs」とし、学生同士が身近に捉えられるSDG s について議論し、17項目の中から自分たちが扱うテーマの視点を定めてストーリーを作成した。約3か月に渡るオンライン交流・ビデオ共同作製、発表を通じて、遠隔参加主体の共修プログラムを構築することができた。
（本学より9名が参加）
　作品：https://www.youtube.com/playlist?list=PLrNWL5oYxiK9aHppLz9nEMlRcTuARBk3c

【特に優れた取組】
スプリングスクール期間中に開催されたグワハティJDシンポジウムでは、学生が日本企業及び北東インド企業の関係者と数日間同一行動することにより、産業への理解や学習と関連産業のつながりを体感することができたと考えられる。また、学生募集ではGPAに加えてTOEICの得点を、選抜時の客観指標として取り入れた。これを継続することにより、国際化プログラム参加学生の英語運用力の向上が期待できる。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

・ウィンタースクール（参加者6名）では、日本語授業、雅楽体験、企業見学（4社）、本学での研究体験、地域理解（多治見研修）を実施し、日本・岐阜地域を理解し、産業の理解と、今後の長期の留学プログラム進学につながるように研究室訪問等を行った。これらを通じて、国内における産学連携型の学士にも対応した国際化プログラムを構築することができた。
　報告書：https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/docs/winter_school_2022.pdf
・ウィンタースクールには、JDPの母体となる学科（化学工学など）以外の、数学、情報科学などを専門として学ぶ学生が多く参加した。
・オンライン交流プログラム（共修ビデオ作製）では、作成する動画の大テーマを「Thinking about SDGs」とし、学生同士が身近に捉えられるSDG s について議論し、17項目の中から自分たちが扱うテーマの視点を定めてストーリーを作成した。約3か月に渡るオンライン交流・ビデオ共同作製、発表を通じて、遠隔参加主体の共修プログラムを構築することができた。
（IITグワハティ校より4名が参加）
　作品：https://www.youtube.com/playlist?list=PLrNWL5oYxiK9aHppLz9nEMlRcTuARBk3c

【特に優れた取組】
ウインタースクールでは、日本語・日本文化を学ぶ機会と、企業見学（4社）、本学での研究体験、地域理解（多治見研修）を実施し、日本・岐阜地域を理解を深めた。また、東京にて、大手食品メーカーの一つである味の素（株）の中央研究所の見学や、JICA本部における見学・議論を実施し、これにはJETRO職員も同行するなど、JDと関連性が深い領域における産業、国際的な地域開発支援の実態などを学ぶことができた。なお、2023年度も同様な取り組みを実施する予定である。

（2）インターンシップの実施状況について

①本事業で計画している交流学生のうちインターンシップに参加する学生数（計画）

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	2	7	5	8	10	10	15	12	19	14	51	51
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）											0	0
自国にてインターンシップをオンラインで参加する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生（以下「ハイブリッド」）	2	7	5	8	10	10	15	12	19	14	51	51

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）											0	0
自国にてインターンシップをオンラインで参加する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	2	7	5	8	10	10	15	12	19	14	51	51
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にてインターンシップをオンラインで参加する学生（以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生（以下「ハイブリッド」）	2	7	5	8	10	10	15	12	19	14	51	51

②プログラム全体のインターンシップ参加学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	1	11	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）	1	11								
自国にてインターンシップをオンラインで参加した学生（以下「オンライン」）	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B
実渡航とオンライン参加を行った学生（以下「ハイブリッド」）										
達成目標に対する実績の割合	50%	157%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

③：【参加形態別　内訳】（計画）

●申請時の計画調書記載人数

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	2	0	5	1	8	1	9	1
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド	B(大学院生)	0	0	2	0	5	1	8	1	9	1
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			2	7	3	8	5	9	7	11	10	13
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド	B(大学院生)	2	7	3	8	5	9	7	11	10	13
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											

●海外相手大学追加調書分

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											

●合計

			2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	2	0	5	1	8	1	9	1
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	2	0	5	1	8	1	9	1
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数			2	7	3	8	5	9	7	11	10	13
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		2	7	3	8	5	9	7	11	10	13
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

④：【交流形態別　内訳】（実績）

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			1	11	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		1	11								
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

インターンシップの実績としては1名に留まった。23年度以降は、修了証授与要件を整備し、さらなる実施に向けて取り組んでいく。
【特に優れた取組】
・産業界や政府関連機関（文部科学省, JETRO, JICA等）がJDPシンポジウムに参加することで、それに参加する学生が自身のJDP修了後に国際的な環境で活躍するイメージ作りに貢献できた。
・研究型のインターンシップ期間中に、派遣学生が在籍するJDPの必修科目「国際連携グローバルインターンシップおよびセミナー」の履修の一環でインド企業へのインターンシップを行い、所定の単位を取得した。これにより、IITG側の産業型インターンシップの開発が進んだ。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

実績としては11名で、計画より上回った。23年度以降は、修了証授与要件を整備し、さらなる実施に向けて取り組んでいく。
【特に優れた取組】
・研究型のインターンシップ期間中に、受入学生が在籍するJDPの必修科目「国際連携グローバルインターンシップおよびセミナー」の履修の一環で日本企業へのインターンシップを行い、所定の単位を取得した。これにより、本学側の産業型インターンシップの開発が進んだ。

（3）　その他（上記（1）（2）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

（4）本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

（ｉ）単位互換を実施する海外相手大学数【計画】　（単位：校）

	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する海外相手大学数	1	1	1	1	1	1	1	1	5	5

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【計画】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学　【大学名：岐阜大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
インド工科大学グワハティ校	認定者数	B(大学院生)	1	3	5	5	6
	認定単位数	B(大学院生)	13	13	13	13	13
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			1	3	5	5	6
年度別認定単位合計			13	13	13	13	13

2. 国内連携大学　【大学名：　　大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位合計			0	0	0	0	0

【2022年度末における目標の達成状況】

（ｉ）単位互換を実施した海外相手大学数【実績】　（単位：校）

	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した海外相手大学数	0	0								

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【実績】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

（ｉ）代表申請大学　【大学名：岐阜大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
インド工科大学グワハティ校	認定者数		0				
	認定単位数		0				
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位合計			0	0	0	0	0

2. 国内連携大学　【大学名：　　大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位合計			0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和４年度採択）
令和５年度フォローアップ調査票

<table>
<tr><td>大学名
（〇が代表大学）</td><td colspan="4">〇名古屋大学・岐阜大学</td></tr>
<tr><td>主な交流先</td><td colspan="4">オーストラリア</td></tr>
<tr><td rowspan="2">事業名</td><td>【和文】</td><td colspan="3">ポストSDGs時代の経済安全保障に貢献できる自律協働型国際プロフェッショナル人材育成</td></tr>
<tr><td>【英文】</td><td colspan="3">Developing professionals who can work autonomously and collaboratively to contribute to economic security in a post-SDGs world</td></tr>
<tr><td rowspan="2">事業責任者
※交替年月日は変更があった場合のみ記入</td><td>（氏　名）</td><td>中園　幹生</td><td>（所属・職名）</td><td>名古屋大学大学院生命農学研究科・研究科長</td></tr>
<tr><td>（交替年月日）</td><td colspan="3">令和5年4月1日</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="11">海外相手大学追加調書分
相手大学名

※追加調書を提出した大学のみ記入</td><td colspan="3">大学名</td><td rowspan="2">国名</td></tr>
<tr><td></td><td>（日本語表記）</td><td>（英語表記）</td></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用
作成中

１．取組内容の進捗状況【（1）と（2）で２ページ以内、（3）（4）で2ページ以内、（5）（6）で合わせて１ページ以内】

本事業における2022年度の取組内容について記入してください。

（1）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

①－１ 交流プログラムの内容

令和４年度に選定された「ポストSDGs時代の経済安全保障に貢献できる自律協働型国際プロフェッショナル人材育成」は、国際的な共同研究を積極的に推進し、世界トップレベルの学術研究を展開する西オーストラリア大学、モナシュ大学、クイーンズランド大学、アデレード大学との間で、学生が主体的な共修を行う双方向性の研究教育交流プログラムを実施することにより、ポストSDGs時代のアジア太平洋経済安全保障に貢献できる自律協働型国際プロフェッショナル人材を養成する取組である。

初年度である2022年度では、本学ならびに国内連携大学である岐阜大学、西オーストラリア大学、モナシュ大学、アデレード大学との学生交流を実施した。スタディツアー (2-4週間)、短期受入・派遣（1-3カ月）、長期受入・派遣(6-12カ月)教育プログラムを実施。スタディツアーでは、サプライチェーン上の経済安全保障リスクを学ぶケーススタディとして、小麦に関する実地研修を日本およびオーストラリアで実施した。短期受入・派遣では、食・環境・医療・エネルギー・マテリアル分野に関連する研究室での実験手法やフィールドでの調査手法を学び、また短期間のResearch programを実施。長期受入・派遣では、ジョイント・ディグリープログラムや異分野融合国際共同研究による6-12カ月のResearch programを実施。いずれのプログラムにおいても、インターンシップ、国際オンライン講義、学生シンポジウムを実施。学生シンポジウムでは、日豪の学生とともに、東南アジアの学術協定校にも参加を呼びかけ、文理の枠を超えた分野横断的な知識を駆使し、課題解決に取り組む国際共同教育を提供した。次年度以降は、実渡航やハイブリッドによる学生の派遣・受入をさらに活発化していく予定である。

【特に優れた取組】

初年度のため、 1-3月までの渡航になったが、西オーストラリア大学、モナシュ大学とは計4本の実渡航をともなう短期研修・スタディツアーを実施することができた。3月末には学生シンポジウムをオンラインで開催し、それぞれの研修内容や学びについて、グループごとに発表をし、ワークショップで交流を深めた。

①－２ 学生主体の国際交流プログラム

3月末に学生シンポジウムを実施し、スタディツアー、短期派遣プログラムに参加した学生らによる成果報告を実施した。成果報告は、グループごとのプレゼンテーションを基本とし、その準備は学生主体で実施した。またシンポジウムでは、西オーストラリア大学教員による食料安全保障に関する教育セミナーの後、シンポジウム参加学生によるワークショップを実施し、オンライングループ討議や発表を行った。シンポジウム開催までの準備、当日の司会進行についても、雇用したTAが主体となって実施した。スタディツアーについては、準備の段階から学生の意見を取り入れ、プログラム内容や訪問先等、反映できる部分には柔軟に対応した。

【特に優れた取組】

学生シンポジウムにおいて、各プログラム成果報告を行うとともに、食料安全保障に関するワークショップを実施し、国や地域、分野を超えた学生の学際的連携により、課題解決に向けた国際協働能力の修得に取り組んだ。

①－３ オンライン（「JV-Campus」等）を活用したプログラム

派遣前には、各プログラムにおいて事前研修をZoomやNUCT（名古屋大学e-learningシステム）を利用して実施。専門科目の講義や危機管理教育を実施した。また、事後研修では、各プログラムにおいて成果報告を実施するとともに、全プログラム生が参加する学生シンポジウムにおいて、各プログラム生が参加し、プログラム報告を行った。学生シンポジウムはZoomを使用してオンラインで開催したため、オーストラリアの関係者や学生、海外連携大学・国内連携大学の教職員・学生の参加が可能となった。学生シンポジウムは、録画を実施したため、2022年度中に整備したJV-Campusを使用して、2023年度中に録画データを閲覧可能にする予定である。

【特に優れた取組】

各プログラムにおけるオンタイムのオンライン教育やオンラインシンポジウムを録画し、教育コンテンツの作製に取り組んだ。次年度以降は、JV-Campusを利用したこれらのコンテンツによるオンデマンド教育を実施する。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成
プログラム実施委員会の委員長兼プログラムコーディネーターを設置し、複数のプログラムを統括することにより、予算管理を含め各プログラムが円滑に運営することが可能となり、効率的かつ効果的な学生の教育、受入・派遣、単位認定等が実施できるようになった。オンライン会議により、各プログラムの今年度の実施時期や、運営方法、教育内容などについて、詳細な内容が決定できた。また、対面でも会議を実施し、次年度以降の教育プログラム、学生派遣、ジョイント・ディグリープログラム設置についての議論を深めることができ、学生にとって質の高いプログラムが提供できるようになった。

【特に優れた取組】
プログラム実施委員会を設置し、複数のプログラムを統括することにより、予算管理を含め各プログラムが円滑に運営することが可能となり、効率的ならびに効果的な学生の教育、受入・派遣、単位認定等が実施できるようになった。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備
派遣前にオリエンテーションを行い、具体的なスケジュール、現地受け入れ先の基本情報、派遣向けの準備事項、現地での注意事項などについて詳しく説明した。一部のプログラムには、教職員が同行するとともに、その他のプログラムでも担当教職員が、常にメールや電話にて情報交換を行い、参加学生にアドバイスを行った。また、本学の国際運営支援組織であるグローバル・エンゲージメントセンターが開催する危機管理研修の受講を渡航前に受講することを義務づけ、派遣学生全員が受講した。

【特に優れた取組】
派遣前の事前教育では、危機管理教育を徹底した。また、派遣および受入において、担当教職員が常に対面またはメールや電話にて情報交換を行い、参加学生にアドバイスを実施した。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及
2022年度現在、既に設置されているアデレード大学ジョイント・ディグリープログラム、西オーストラリア大学ジョイント・ディグリープログラムについては、各部局の担当者が現地大学を訪問し、プログラムの現状、課題、学生の進捗状況を共有・議論をすることができた。2023年度以降の共同講義の準備、学生の指導、派遣予定、課題などについて協議し、更なるプログラムの充実に向け、互いに協力することを確認した。
クイーンズランド大学についても担当教員らが現地大学を訪問し、将来的なジョイント・ディグリープログラムの設置に関する協議を実施した。クイーンズランド大学工学部長およびグローバルエンゲージメントチームと具体的な検討のスケジュールや検討方法などについて協議を行い、継続して調整を進めて行くことについて確認・合意した。アジア連携大学において、本プログラムの広報を実施するとともに、学生シンポジウムへの参加を呼びかけた。

【特に優れた取組】
ジョイント・ディグリープログラム、長期、短期派遣、スタディツアー、オンライン講義など各プログラムの充実に向け、オーストラリア4大学と協議するとともに、アジア連携大学において本プログラムの広報を実施した。

（2）特記すべき成果

ハイブリッドによる派遣・受入、オンラインによる派遣・受入を効果的に実施でき、のべ882名の学生が本プログラムに参加することができた。

（3）オンラインを活用した工夫・改善点

該当なし

２．交流学生数の実績等 【（1）（２）はそれぞれ６ページ以内、（３）は１ページ】

（1）交流する学生数について

①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	149	280	163	282	163	282	160	283	159	282	794	1409
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	6	9	13	10	13	10	10	11	9	10	51	50
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	135	265	138	265	138	265	138	265	138	265	687	1325
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	8	6	12	7	12	7	12	7	12	7	56	34

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	149	280	163	282	163	282	160	283	159	282	794	1409
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	6	9	13	10	13	10	10	11	9	10	51	50
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	135	265	138	265	138	265	138	265	138	265	687	1325
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	8	6	12	7	12	7	12	7	12	7	56	34

②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	274	608	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）	1	0								
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生（以下「オンライン」）	A 0 B 243	A 0 B 604	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B
実渡航とオンライン受講を行った学生（以下「ハイブリッド」）	30	4								
達成目標に対する実績の割合	184%	217%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

③：【交流形態別　内訳】（計画）

●申請時の計画調書記載人数

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			6	5	6	5	6	5	6	5	6	5
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		6	5	6	5	6	5	6	5	6	5
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			2	5	6	5	6	5	4	5	4	5
	実渡航		0	4	4	4	4	4	2	4	2	4
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		2	1	2	1	2	1	2	1	2	1
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	3	4	5	4	5	3	6	2	5
	実渡航		0	3	3	4	3	4	2	5	1	4
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	1	1	1	1	1	1	1	1
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			139	267	145	267	145	267	145	267	145	267
	実渡航		4	2	4	2	4	2	4	2	4	2
	オンライン		135	265	138	265	138	265	138	265	138	265
	ハイブリッド		0	0	3	0	3	0	3	0	3	0
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			2	0	2	0	2	0	2	0	2	0
	実渡航		2	0	2	0	2	0	2	0	2	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●海外相手大学追加調書分

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●合計

			2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数			6	5	6	5	6	5	6	5	6	5
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		6	5	6	5	6	5	6	5	6	5
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			2	5	6	5	6	5	4	5	4	5
	実渡航		0	4	4	4	4	4	2	4	2	4
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		2	1	2	1	2	1	2	1	2	1
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	3	4	5	4	5	3	6	2	5
	実渡航		0	3	3	4	3	4	2	5	1	4
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	1	1	1	1	1	1	1	1
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数			139	267	145	267	145	267	145	267	145	267
	実渡航		4	2	4	2	4	2	4	2	4	2
	オンライン		135	265	138	265	138	265	138	265	138	265
	ハイブリッド		0	0	3	0	3	0	3	0	3	0
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			2	0	2	0	2	0	2	0	2	0
	実渡航		2	0	2	0	2	0	2	0	2	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

④：【交流形態別　内訳】（実績）

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			21	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		A 0	A 0	A	A	A	A	A	A	A	A
			B 0	B 0	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド		21	0								
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		A 0	A 0	A	A	A	A	A	A	A	A
			B 0	B 0	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド		0	0								
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		A 0	A 0	A	A	A	A	A	A	A	A
			B 0	B 0	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド		0	0								
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			252	608	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		1	0								
	オンライン		A 0	A 0	A	A	A	A	A	A	A	A
			B 243	B 604	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド		8	4								
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		A 0	A 0	A	A	A	A	A	A	A	A
			B 0	B 0	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド		0	0								
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		A 0	A 0	A	A	A	A	A	A	A	A
			B 0	B 0	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド		1	0								

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

短期派遣プログラムとして、名古屋大学学生18名が西オーストラリア大学において、4名の学生がモナシュ大学において、1名の学生がアジア連携校（インドネシア国立ガジャマダ大学）において各学生の専門教育を受けるとともに各大学の学生と学生交流を実施した。また、国際オンライン講義によるオンライン派遣では、名古屋大学学生のべ232名がプログラムに参加し、専門教育を受けるとともにオーストラリアの学生と交流した。学生は経済安全保障に資する食・環境・医療に関する専門知識を身につけることができた。食料安全保障に関するスタディツアーについては、2月に西オーストラリア大学において実施。西オーストラリア大学内と周辺地域を訪問し、小麦生産、輸出入、製粉化、麺の物性などについて、フィールドツアーや講義、実習を実施した。名古屋大学学生6名、岐阜大学学生1名がスタディツアーに参加し、麺用小麦を例としたフードバリューチェーンを学ぶとともに学生交流を実施した。3月末には、オンライン開催の学生シンポジウムに参加し、それぞれの学びをグループ毎に報告し、別の短期派遣プログラムの学生との交流を図った。

【特に優れた取組】プログラムの初年度であったが、ハイブリッド派遣およびオンライン派遣において、計画以上の派遣が達成でき、効果的な国際教育を提供できた。また、年度末に実施した学生シンポジウムでは、日本、オーストラリア、東南アジアの学生が参加し、国、地域、文理の枠を超えた分野横断的な知識を駆使し、課題解決に取り組む国際共同教育を実施することができた。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

食料安全保障に関するスタディツアーについて、3月に名古屋大学・岐阜大学にて実施した。小麦生産、輸出入、製粉化、麺の物性などについて、産官学が連携してフィールドツアーや講義、実習を実施した。西オーストラリア大学学生4名がスタディツアーに参加し、2月に西オーストラリア大学にて実施されたスタディツアーに参加した名古屋大学学生6名、岐阜大学学生1名も国内のスタディツアーに参加し、オーストラリアでの小麦生産等の状況と日本国内の小麦生産等の状況を比較し、学びを広げた。また、国際オンライン講義によるオンライン受入では、オーストラリアの学生のべ600名がプログラムに参加し、専門教育を受けるとともに名古屋大学の学生と交流した。学生は、経済安全保障に資する食・環境・医療に関する専門知識を身につけることができた。

【特に優れた取組】プログラムの初年度であったが、オンライン受入において計画を大幅に超える受入数を達成でき、効果的な国際教育を提供できた。コロナ禍でオーストラリアからの学生の受入が数年間停止していたが、本プログラムをきっかけに交流が再開し、ハイブリッド受入では4名の学生を受け入れることができた。また、年度末に実施した学生シンポジウムでは、日本、オーストラリア、東南アジアの学生が参加し、国、地域、文理の枠を超えた分野横断的な知識を駆使し、課題解決に取り組む国際共同教育を実施することができた。

（2）インターンシップの実施状況について

①本事業で計画している交流学生のうちインターンシップに参加する学生数（計画）

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	8	5	8	5	8	5	8	5	8	5	40	25
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	2	0	2	0	2	0	2	0	2	0	10	0
自国にてインターンシップをオンラインで参加する学生（以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生（以下「ハイブリッド」）	6	5	6	5	6	5	6	5	6	5	30	25

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にてインターンシップをオンラインで参加する学生（以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	8	5	8	5	8	5	8	5	8	5	40	25
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	2	0	2	0	2	0	2	0	2	0	10	0
自国にてインターンシップをオンラインで参加する学生（以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生（以下「ハイブリッド」）	6	5	6	5	6	5	6	5	6	5	30	25

②プログラム全体のインターンシップ参加学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	7	4	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）	0	0								
自国にてインターンシップをオンラインで参加した学生（以下「オンライン」）	A 0	A 0	A	A	A	A	A	A	A	A
	B 0	B 0	B	B	B	B	B	B	B	B
実渡航とオンライン参加を行った学生（以下「ハイブリッド」）	7	4								
達成目標に対する実績の割合	88%	80%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

③：【参加形態別　内訳】（計画）

●申請時の計画調書記載人数

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			6	5	6	5	6	5	6	5	6	5
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		6	5	6	5	6	5	6	5	6	5
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			2	0	2	0	2	0	2	0	2	0
	実渡航		2	0	2	0	2	0	2	0	2	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●海外相手大学追加調書分

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●合計

			2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数			6	5	6	5	6	5	6	5	6	5
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		6	5	6	5	6	5	6	5	6	5
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数			2	0	2	0	2	0	2	0	2	0
	実渡航		2	0	2	0	2	0	2	0	2	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

④：【交流形態別　内訳】（実績）

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		A 0	A 0	A	A	A	A	A	A	A	A
			B 0	B 0	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド		3	0								
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		A 0	A 0	A	A	A	A	A	A	A	A
			B 0	B 0	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド		0	0								
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		A 0	A 0	A	A	A	A	A	A	A	A
			B 0	B 0	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド		0	0								
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			4	4	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		A 0	A 0	A	A	A	A	A	A	A	A
			B 0	B 0	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド		4	4								
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		A 0	A 0	A	A	A	A	A	A	A	A
			B 0	B 0	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド		0	0								
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		A 0	A 0	A	A	A	A	A	A	A	A
			B 0	B 0	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド		0	0								

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

2月に西オーストラリア大学にて実施された食料安全保障に関するスタディツアーにおいて、企業でのインターンシップにも参加した。小麦生産、輸出入、製粉化にかかる企業を訪問し、第一線で活躍する企業の現状から学ぶことができた。

【特に優れた取組】
西オーストラリアの小麦育種、生産、輸出関連企業におけるインターンシップを通じて、食の安全およびフードバリューチェーンについて効果的に学ぶことができた。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

3月に名古屋大学・岐阜大学にて実施した食料安全保障に関するスタディツアーにおいて、小麦の新種改良から小麦生産、輸出入、製粉化まで行う企業でのインターンシップを実施した。講義や実習で学んだことを企業の現場で体感することが可能となった。

【特に優れた取組】日本の製粉会社におけるインターンシップを通じて、日本における小麦の需要および流通、さらにはサプライチェーン上の経済安全保障リスクを効果的に学ぶことができた。

（3）　その他（上記（1）（2）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
該当なし		人
		人
		人
		人

（4）本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

（ｉ）単位互換を実施する海外相手大学数【計画】　（単位：校）

	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する海外相手大学数	2	4	2	4	2	4	2	4	2	4

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【計画】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学　【大学名：名古屋大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
西オーストラリア大学	認定者数	A(学部生)	3	5	5	4	4
	認定単位数	A(学部生)	2	2	2	2	2
西オーストラリア大学	認定者数	B(大学院生)	2	3	3	3	3
	認定単位数	B(大学院生)	2	2	2	2	2
アデレード大学	認定者数	A(学部生)	1	3	3	2	2
	認定単位数	A(学部生)	1	1	1	1	1
アデレード大学	認定者数	B(大学院生)	1	2	2	2	1
	認定単位数	B(大学院生)	1	1	1	1	1
クイーンズランド大学	認定者数	B(大学院生)	0	2	2	1	1
	認定単位数	B(大学院生)	0	1	1	1	1
年度別認定者数合計			7	15	15	12	11
年度別認定単位合計			6	7	7	7	7

2. 国内連携大学　【大学名：岐阜大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
西オーストラリア大学	認定者数	B(大学院生)	1	1	1	1	1
	認定単位数	B(大学院生)	1	1	1	1	1
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			1	1	1	1	1
年度別認定単位合計			1	1	1	1	1

【2022年度末における目標の達成状況】

（ｉ）単位互換を実施した海外相手大学数【実績】　（単位：校）

	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した海外相手大学数	1									

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【実績】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

（ｉ）代表申請大学　【大学名：名古屋大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
西オーストラリア大学	認定者数	A(学部生)	18				
	認定単位数	A(学部生)	2				
西オーストラリア大学	認定者数	A(取学部生または大学院生)	2				
	認定単位数	A(取学部生または大学院生)	1				
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			20	0	0	0	0
年度別認定単位合計			3	0	0	0	0

2. 国内連携大学　【大学名：岐阜大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
西オーストラリア大学	認定者数	A(学部生)	1				
	認定単位数	A(学部生)	1				
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			1	0	0	0	0
年度別認定単位合計			1	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和４年度採択）
令和５年度フォローアップ調査票

<table>
<tr><td>大学名
（○が代表大学）</td><td colspan="4">神戸大学</td></tr>
<tr><td>主な交流先</td><td colspan="4">オーストラリア</td></tr>
<tr><td rowspan="2">事業名</td><td>【和文】</td><td colspan="3">世界的課題解決に向けた工学系グローバル人材育成のための国際共修/協働学修プログラム</td></tr>
<tr><td>【英文】</td><td colspan="3">International Educational Program for Developing Global Human Resources in Engineering for Solving Global Issues</td></tr>
<tr><td rowspan="2">事業責任者
※交替年月日は変更があった場合のみ記入</td><td>（氏　名）</td><td>大村 直人</td><td>（所属・職名）</td><td>理事・副学長</td></tr>
<tr><td>（交替年月日）</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="11">海外相手大学追加調書分
相手大学名

※追加調書を提出した大学のみ記入</td><td colspan="3">大学名</td><td rowspan="2">国名</td></tr>
<tr><td></td><td>（日本語表記）</td><td>（英語表記）</td></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用
http://www.eng.kobe-u.ac.jp/sekaitenkai/（作成中、2023年7月中に完成・公開予定）

１．取組内容の進捗状況【（1）と（2）で２ページ以内、（3）（4）で2ページ以内、（5）（6）で合わせて１ページ以内】

本事業における2022年度の取組内容について記入してください。

（1）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

①‐１ 交流プログラムの内容

本プログラムは、世界的な課題の解決に資する複眼的視点とリーダーシップを有する工学系グローバル人材の養成を目的としている。2022年度は10日間、本交流プログラムの中核であるロイヤルメルボルン工科大学（RMIT）を訪問した。今後は、参加した学生が派遣からの帰国後も継続的に交流プログラムに関わることのできる体制を構築していくことが求められる。

【特に優れた取組】

実渡航でのオーストラリア派遣において、英語による工学系講義の受講や、市民工学系や化学工学系の研究室への訪問とともに、オーストラリア連邦科学産業研究機構（CSIRO）や、オーストラリア原子力科学技術機構 (Australian Nuclear Science and Technology Organisation) の国立シンクロトロン放射施設訪問などの、キャンパス内外での学修を組み合わせたプログラムを実施した。

①‐２ 学生主体の国際交流プログラム

海外相手大学の学生を含んだオーディエンスに向けて派遣学生が英語でのプレゼンテーションや質疑応答を行うなど、学びの場における交流が盛んに行われた。また、海外相手大学の学生には将来的に短期プログラムなどで本学にて受け入れる可能性がある学生が含まれていたことから、継続的な交流を視野に入れてインフォーマルな場でもディスカッションなどが多く見られた。

【特に優れた取組】

本プログラムは工学系グローバル人材の育成を目指し、研究留学や国際共同研究への将来的な波及を視野に入れて展開されている。派遣先にて学部学生だけでなく大学院生との交流の機会を多く持ったことで、派遣学生が大学院などでの将来的な留学や在外研究などをより身近に感じることのできるプログラムとなった。

①‐３ オンライン（「JV-Campus」等）を活用したプログラム

JV-Campusへ提供するための講義内容の構想に着手し、その第一段階として学外学生が学修に活用することを視野に入れた、化学工学系の講義動画を制作した。今後、第二段階として化学工学系以外の工学に係る講義や、日本語・日本文化などの工学以外のオンライン教材を充実させていくことが必要となる。

【特に優れた取組】

本プログラムは、カーボンニュートラル（CN）やSDGs等の世界的課題解決に資する「複眼的視点とリーダーシップをもつ次世代工学系グローバル人材」を養成することを目的としていることから、2022年度は、CNの実現に向けた世界動向や、化石燃料に頼らないエネルギーの獲得に焦点を当てた教材内容とした。今後は、神戸における「震災復興」の観点などから、SDGsと自然災害との関連についても教材

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

2022年度後期より教務・総務両面での事業運営に係る事務補佐員を雇用している。加えて、交流プログラム参加学生の支援やプログラム運営、海外相手大学等との連絡調整を担う特命教員の2023年度からの採用を決定した。海外相手大学などからの実渡航を含んだ受入という形での交流が今後本格化していくため、相手大学教職員との継続的な連携が必要である。

【特に優れた取組】

体制の整備として、PBLにて協働するバリュースクール教員やキャリア教育にて協働するキャリアセンター教員とのミーティングを実施することで、学部・研究科の枠を超えた学内におけるネットワーク構築に努めている。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

学生受入の観点からは、参加予定留学生から日本における進学や就職に対する興味関心が色濃く寄せられたことを受け、キャリア構築の観点から留学生向けの就職関連情報をキャリアセンター担当講義に組み込んでいる。学生派遣の観点からは、海外渡航学生に対する危機管理オリエンテーションの実施を継続的に行っている。

【特に優れた取組】

2023年度より本格化する受入の文脈においても、派遣終了／予定学生が積極的に参加できるような学生主体のワークショップや交流企画を拡充させることで、派遣前から派遣後にかけて継続的に交流に参加することが可能となる環境を構築している。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

神戸大学の交換留学派遣学生数は2019年度において810名であったが、世界的なコロナ感染症拡大後の2020年度は0名、2021年度は30名となった。2022年度（特に年度後半）は、感染症拡大が縮小に転じて学生の派遣が可能になったが、実渡航は122名に留まった。ここには、本プログラムに参加してRMITを訪問した学生30名は含まれていないので、アフターコロナ直後の短期の海外学生派遣に弾みをつける役割を担うことができたと言える。今後も本プログラムを通じて学生派遣を継続し、プログラム本来の役割である「実質的な国際交流」を推進していく。なお、本プログラムによる海外派遣の様子や具体的成果は、今後本学工学部のHP上で公開していく予定である。

【特に優れた取組】

新型コロナウイルス感染拡大状況により、当初はオンラインでの海外派遣を計画していたが、状況の改善により、2022年度中に30名もの多くの学生の海外実渡航を実現できたことが、何より優れた点である。特に、アフターコロナ直後であったため、学生の健康管理に関して、可能な限り想定できる範囲で対策を講じて渡航できた点は、今後の学生派遣についても大いに役立つ経験となった。

（2）特記すべき成果

2023年度より本格化する受入の文脈においても、派遣終了／予定学生が積極的に参加できるような学生主体のワークショップや交流企画を拡充させることで、派遣前から派遣後にかけて継続的に交流に参加することが可能となる環境を構築している。

（3）オンラインを活用した工夫・改善点

JV-Campusへ提供する講義動画を制作したところであり、具体的なオンライン活用は2023年度からとなる。一方、講義動画の制作において、講義資料における図やデータを他書籍から転載するに当たっては、それらの著作権を侵害する恐れがあることから、動画上でモザイク処理を施す工夫をした。ただし、講義内容の理解を阻む恐れもあることから、その対応に苦慮している。

２．交流学生数の実績等 【（1）（２）はそれぞれ６ページ以内、（３）は１ページ】

（1）交流する学生数について

①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	15	20	20	20	20	20	22	20	23	20	100	100
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	20	0	20	0	22	0	23	0	85	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	15	20	0	0	0	0	0	0	0	0	15	20
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	20	0	20	0	20	0	20	0	80

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	15	20	20	20	20	20	22	20	23	20	100	100
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	20	0	20	0	22	0	23	0	85	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	15	20	0	0	0	0	0	0	0	0	15	20
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	20	0	20	0	20	0	20	0	80

②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）	30	0								
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生（以下「オンライン」）	A 0 B 0	A 0 B 0	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B
実渡航とオンライン受講を行った学生（以下「ハイブリッド」）	0	0								
達成目標に対する実績の割合	200%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

③：【交流形態別　内訳】（計画）

●申請時の計画調書記載人数

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			15	20	20	20	20	20	22	20	23	20
	実渡航	A(学部生)	0	0	20	0	20	0	22	0	23	0
	オンライン	A(学部生)	15	20	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	20	0	20	0	20	0	20
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●海外相手大学追加調書分

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											

●合計

		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		15	20	20	20	20	20	22	20	23	20
	実渡航	0	0	20	0	20	0	22	0	23	0
	オンライン	15	20	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	20	0	20	0	20	0	20
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

④：【交流形態別　内訳】（実績）

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			30	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		30	0								
	オンライン		A 0	A 0	A	A	A	A	A	A	A	A
			B 0	B 0	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド		0	0								
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

2022年度は10日間、本交流プログラムの中核であるロイヤルメルボルン工科大学（RMIT）を訪問した。英語による工学系講義の受講とともに、大学内のラボ訪問学修を組み合わせたプログラムも実施した。

なお、本事業内で主軸となる交流プログラムは主に2年次に実施されるものであるが、対象学生は1年次に選抜される。2022年度も計16名を選抜し、当該年度後期に工学英語入門を受講するなどして、次年度に向けた準備を行った。

【特に優れた取組】

新型コロナウイルス感染拡大状況により、当初はオンラインでの海外派遣を計画していたが、状況の改善により、オーストラリアへの実渡航での派遣を実現することができた。現地では、英語による工学系講義の受講や、市民工学系や化学工学系の研究室への訪問など、キャンパス内外での学修を組み合わせたプログラムを実施した。

2022年度派遣学生による学内成果報告を新入生向けプログラム説明会（2023年4月開催）にて行った。経験したことを報告としてまとめることで派遣学生自身の事後学修の機会となると同時に、本プログラムへの応募を考える1年生の参加意欲を掻き立て、実渡航派遣を控える2年生に対しても、反省点を含めた実体験を直接伝えられる機会として機能している。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

実渡航をともなう受入は令和5年度に始動する計画であるため、2022年度はJV-Campusへ提供するための講義内容の構想に着手した。その第一段階として学外学生が学修に活用することを視野に入れた、化学工学系の講義動画を2023年度にかけて制作した。

【特に優れた取組】

2023年度に始動する、実渡航をともなう受入プログラム（サマースクール）参加予定者は、2022年度の海外派遣先だったRMITの学生が多くを占めている。そのため、構想段階から、RMITに派遣した学生が受入プログラムにも参加し、継続して交流できるよう、また、2023年度にRMITに派遣予定のプログラム生も、派遣先の学生と事前に交流できるよう、プログラムを組んでいる。

（2）インターンシップの実施状況について

①本事業で計画している交流学生のうちインターンシップに参加する学生数（計画）

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	20	10	20	10	22	10	23	10	85	40
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	20	0	20	0	22	0	23	0	85	0
自国にてインターンシップをオンラインで参加する学生（以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	10	0	10	0	10	0	10	0	40

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）											0	0
自国にてインターンシップをオンラインで参加する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	20	10	20	10	22	10	23	10	85	40
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	20	0	20	0	22	0	23	0	85	0
自国にてインターンシップをオンラインで参加する学生（以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	10	0	10	0	10	0	10	0	40

②プログラム全体のインターンシップ参加学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）	30	0								
自国にてインターンシップをオンラインで参加した学生（以下「オンライン」）	A 0 B 0	A 0 B 0	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B
実渡航とオンライン参加を行った学生（以下「ハイブリッド」）	0	0								
達成目標に対する実績の割合	-	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

③：【参加形態別　内訳】（計画）

●申請時の計画調書記載人数

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	20	10	20	10	22	10	23	10
	実渡航	A(学部生)	0	0	20	0	20	0	22	0	23	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	A(学部生)	0	0	0	10	0	10	0	10	0	10
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											

●海外相手大学追加調書分

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											

●合計

			2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数			0	0	20	10	20	10	22	10	23	10
	実渡航		0	0	20	0	20	0	22	0	23	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	10	0	10	0	10	0	10
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

④：【交流形態別　内訳】（実績）

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			30	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	A(学部生)	30									
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

オーストラリア連邦科学産業研究機構（Commonwealth Scientific and Industrial Research Organisation）やオーストラリア原子力科学技術機構 (Australian Nuclear Science and Technology Organisation) の国立シンクロトロン放射施設などを実際に訪問してのインターンシップを実施した。

【特に優れた取組】
渡航先のメルボルンはオーストラリアにおける有数の都市であり、ヴィクトリア州の中心地でもあるため、上記のような施設が多く存在している。派遣学修プログラムとも連動させることで、キャンパス内における学びとキャンパス外における学びを有機的に結びつけ、学修のさらなる深化を目指している。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

2023年度のサマースクール内におけるインターンシップに向けて、教員から企業への打診を行った。その結果、川崎重工業㈱と㈱ニプロンで、SDGsやカーボンニュートラルをテーマとした内容でのインターンシップを実施することとなった。

【特に優れた取組】
川崎重工業㈱が管理運営する、オーストラリアから水素が液体輸送されてくる日本で唯一の施設である神戸港の「液化水素荷役実証ターミナル」見学をインターンシップに組み込むことができた。インターンシップには2023年度にRMITへ派遣予定のプログラム生も参加するため、神戸の地の利を活かした国際共修の良い機会となる。

（3）　その他（上記（1）（2）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

（4）本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

（ｉ）単位互換を実施する海外相手大学数【計画】　（単位：校）

	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する海外相手大学数	1	3	2	3	2	3	3	3	3	3

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【計画】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学　【大学名：神戸大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
ロイヤルメルボルン工科大学	認定者数	A(学部生)	15	15	15	15	15
	認定単位数	A(学部生)	2	5	5	5	5
ジョージア工科大学	認定者数	A(学部生)	0	0	0	2	3
	認定単位数	A(学部生)	0	0	0	5	5
マヒドン大学	認定者数	A(学部生)	0	5	5	5	5
	認定単位数	A(学部生)	0	5	5	5	5
年度別認定者数合計			15	20	20	22	23
年度別認定単位合計			2	10	10	15	15

2. 国内連携大学　【大学名：　　大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位合計			0	0	0	0	0

【2022年度末における目標の達成状況】

（ｉ）単位互換を実施した海外相手大学数【実績】　（単位：校）

	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した海外相手大学数	1	0								

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【実績】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

（ｉ）代表申請大学　【大学名：　大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
ロイヤルメルボルン工科大学	認定者数	A(学部生)	29				
	認定単位数	A(学部生)	2				
ジョージア工科大学	認定者数	A(学部生)	0				
	認定単位数	A(学部生)	0				
マヒドン大学	認定者数	A(学部生)	0				
	認定単位数	A(学部生)	0				
年度別認定者数合計			29	0	0	0	0
年度別認定単位合計			2	0	0	0	0

2. 国内連携大学　【大学名：　　大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位合計			0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和４年度採択）
令和５年度フォローアップ調査票

<table>
<tr><td>大学名
（〇が代表大学）</td><td colspan="4">東京都市大学</td></tr>
<tr><td>主な交流先</td><td colspan="4">オーストラリア</td></tr>
<tr><td rowspan="2">事業名</td><td>【和文】</td><td colspan="3">アジア大洋州国際キャンパスにおけるカーボンニュートラル社会の実現に貢献できる人材養成プログラム</td></tr>
<tr><td>【英文】</td><td colspan="3">Human Resource Development Program Contributing to the Realization of a Carbon Neutral Society at Asia Pacific International Campus</td></tr>
<tr><td rowspan="2">事業責任者
※交替年月日は変更があった場合のみ記入</td><td>（氏　名）</td><td>田口　亮</td><td>（所属・職名）</td><td>情報工学部情報科学科・教授</td></tr>
<tr><td>（交替年月日）</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="11">海外相手大学追加調書分
相手大学名

※追加調書を提出した大学のみ記入</td><td colspan="3">大学名</td><td rowspan="2">国名</td></tr>
<tr><td></td><td>（日本語表記）</td><td>（英語表記）</td></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用
ウェブサイト作成中

１．取組内容の進捗状況【（1）と（2）で2ページ以内、（3）（4）で2ページ以内、（5）（6）で合わせて1ページ以

本事業における2022年度の取組内容について記入してください。

（1）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

①－１ 交流プログラムの内容

１．本学とエディスコーワン大学（ECU）とのジョイントディグリープログラムの設置。２．アジア・オセアニア5大学連合（AOFUA）による交流プログラム（交換留学、サマーキャンプ、ダブルディグリー、ICTオンライン教育）３．外国人教員ネットワークの設立。４．オンライン交流。５．ニューコロンボプランによるECU学生の受け入れ。６．アクションプラン2023に基づく国際化プログラムの推進。

【特に優れた取組】

本学とECUによるジョイントディグリープログラムを環境情報学研究科修士課程国際連携環境融合科学専攻に開設する。2023年6月22日に設置届出が受理された。現在、準備室を立ち上げ、開設に向けて教育内容を中心に準備室会議を継続的に行っている。

①－２ 学生主体の国際交流プログラム

AOFUAサマーキャンププログラムを実施。2019年度は本学が主催した。2022年度は、デラサール大学が主催したがコロナ禍の影響によりオンライン開催となった。TAP（東京都市大学オーストラリアプログラム）における豪州留学を2020年3月以来中断していたが、2022年8月に再開した。現地では、学生がJAPAN FESTIVALを主催し、ECU学生及び近隣住民と交流した。2023年7月にはマレーシアUTM（MJIIT)が主催し対面でのサマーキャンプの開催が決まっていて、現在、その準備を進めている。

【特に優れた取組】

AOFUAサマーキャンププログラムは、加盟する5大学の学生が一同に集まり、SDGsをテーマにグループ討議する。学部生だけでなく大学院生も参加するレベルの高いワークショップである。

①－３ オンライン（「JV-Campus」等）を活用したプログラム

2023年3月に、JV-Campus公開収録会を開催した。世田谷６大学コンソーシアム加盟大学である国士舘大学、成城大学、駒澤大学、東京農業大学から講師を派遣していただき、本学を含めた5大学の講師がJV-Campus掲出用の主に日本文化をそのテーマにした講義を行いこれを収録した。※昭和女子大学は大学行事のため欠席。

【特に優れた取組】

2022年度は、世田谷6大学コンソーシアムに協力を働きかけ、JV-Campus掲出用のコンテンツの公開収録を開催した。本学の理系科目に加え、加盟大学による文系科目の講義を提供していただいた。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

TAPやAOFUA連合による国際交流の実績を基に、本学は、ECUとのジョイントディグリープログラム国際連携環境融合科学専攻を2024年に開設する（2023年6月22日設置届出が受理された）。大学院修士課程レベルでの日豪大学によるジョイントディグリープログラムは、前例が少なく、両国にとって新たな試みである。両国の教育水準を満たす共同カリキュラムを構築する。

【特に優れた取組】

ECUとのジョイントディグリープログラムの開設に向けて、エディスコーワン大学とは、30回以上打ち合わせを重ねてきた。2023年4月には文部科学省に設置届出書を提出し6月には受理連絡をいただいた。協働開講科目の設置やアカデミックカレンダーの擦り合わせ、インターンシップ科目の設置なども含まれている。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

ECUとのジョイントディグリープログラムにはそれぞれの大学の学生が他大学のキャンパスで１セメスター留学することになる。両大学は学生の送出、受入（教育システムも含め）に対して事前にシミュレーションする必要があることから、2022年度は、そのパイロットプログラムを実施した。本学からECUに8名の学生を派遣してECUの研究室にて研究指導を体験した。また、ECUからは1名の学生を総合理工学研究科の研究室で受け入れた。

【特に優れた取組】

ジョイントディグリープログラムの開設に向けたパイロットプログラムは、年度末に実施したため、送り出しは8名、受入れは1名と不均衡であったが、参加した学生に実施したアンケートの結果を見るとおおむね満足度の高い回答を得ている。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

今般、世界展開力強化事業へ申請するに際し、本学の国際化の実績を次のとおり付記している。これらの施策は、2017年に公表したアクションプラン2023の事業内容の一部である。①海外留学の促進（TAP他留学プログラムの充実）、②大学院を中心とした受入れ留学生の増加、③産学連携・地域連携による海外大学との共同研究、④海外大学との交流システムの構築など。

【特に優れた取組】

2015年より実施しているTAPはこれまで1,800名余りをオーストラリアに派遣している。参加に際しての英語力等は問わず本学生であれば誰でも参加を認めている。1年次には100日間の英会話レッスンを行い、2年次に4ヵ月のオーストラリア留学を体験する本学独自の留学プログラムである。

（2）特記すべき成果
エディスコーワン大学とのジョイントディグリープログラム国際連携環境融合科学専攻の設置に向けた準備室会議は原則毎週開催してきた。また、エディスコーワン大学とのオンラインミーティングも原則2週間に一度の頻度で開催してきた。その結果、2023年4月に文科省に設置届出書を提出し6月に受理報告をいただいたところである。

（3）オンラインを活用した工夫・改善点
AOFUAサマーキャンププログラム（2022年8月実施）は、コロナ禍の影響により全日程（3日間）をオンラインで実施した。ホスト大学は、フィリピンのデラサール大学であり、本学、マレーシア日本国際工科院、エディスコーワン大学、タマサート大学シリントーン国際部から各大学5名の学生が参加した。SDGsをテーマに問題解決のワークショップを行ったが、学生同士がお互いに助け合う姿を見ることができた。

２．交流学生数の実績等 【（1）（２）はそれぞれ６ページ以内、（３）は１ページ】

（1）交流する学生数について

①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	22	17	7	2	10	0	10	25	10	5	59	49
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	7	2	7	2	5	0	0	20	5	0	24	24
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	15	0	0	0	0	0	5	0	0	0	20	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	15	0	0	5	0	5	5	5	5	15	25

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	22	17	7	2	10	0	10	25	10	5	59	49
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	7	2	7	2	5	0	0	20	5	0	24	24
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	15	0	0	0	0	0	5	0	0	0	20	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	15	0	0	5	0	5	5	5	5	15	25

②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	8	1	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）	8	1								
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生（以下「オンライン」）	A 0 B 0	A 0 B 0	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B
実渡航とオンライン受講を行った学生（以下「ハイブリッド」）	0	0								
達成目標に対する実績の割合	36%	6%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

③：【交流形態別　内訳】（計画）

●申請時の計画調書記載人数

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	5	0	5	5	5	5
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	5	0	5	5	5	5
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			20	15	5	0	5	0	5	20	5	0
	実渡航		5	0	5	0	5	0	0	20	5	0
	オンライン		15	0	0	0	0	0	5	0	0	0
	ハイブリッド		0	15	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			2	2	2	2	0	0	0	0	0	0
	実渡航		2	2	2	2	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●海外相手大学追加調書分

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											

●合計

		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	5	0	5	5	5	5
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	5	0	5	5	5	5
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		20	15	5	0	5	0	5	20	5	0
	実渡航	5	0	5	0	5	0	0	20	5	0
	オンライン	15	0	0	0	0	0	5	0	0	0
	ハイブリッド	0	15	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		2	2	2	2	0	0	0	0	0	0
	実渡航	2	2	2	2	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

④：【交流形態別　内訳】（実績）

		学生別	2022年度				2023年度				2024年度				2025年度				2026年度			
			派遣		受入		派遣		受入		派遣		受入		派遣		受入		派遣		受入	
【交流形態別　内訳】																						
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	
	実渡航		0		0																	
	オンライン		A	0	A	0	A		A		A		A		A		A		A		A	
			B	0	B	0	B		B		B		B		B		B		B		B	
	ハイブリッド																					
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	
	実渡航		0		0																	
	オンライン		A	0	A	0	A		A		A		A		A		A		A		A	
			B	0	B	0	B		B		B		B		B		B		B		B	
	ハイブリッド																					
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	
	実渡航		0		0																	
	オンライン		A	0	A	0	A		A		A		A		A		A		A		A	
			B	0	B	0	B		B		B		B		B		B		B		B	
	ハイブリッド																					
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0		1		0		0		0		0		0		0		0		0	
	実渡航		0		1																	
	オンライン		A	0	A	0	A		A		A		A		A		A		A		A	
			B	0	B	0	B		B		B		B		B		B		B		B	
	ハイブリッド		0		0																	
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			8		0		0		0		0		0		0		0		0		0	
	実渡航		8		0																	
	オンライン		A	0	A	0	A		A		A		A		A		A		A		A	
			B	0	B	0	B		B		B		B		B		B		B		B	
	ハイブリッド		0		0																	
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	
	実渡航		0		0																	
	オンライン		A	0	A	0	A		A		A		A		A		A		A		A	
			B	0	B	0	B		B		B		B		B		B		B		B	
	ハイブリッド		0		0																	

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

2023年2月6日から3月31日まで、JDパイロットプログラムとして、8名の学生をECUに派遣した。ECU附設の英語学校にて他国からの留学生と共に英語研修プログラムを受講すると共に、JDPによる連携予定であるECU環境科学専攻の研究室や実験室での体験授業/実習を受けた。

【特に優れた取組】
本学とエディスコーワン大学（ECU）とのジョイントディグリープログラム（JDP）国際連携環境融合科学専攻の開設（2024年4月予定）に向けて、2022年度は、パイロットプログラムを実施した。パイロットプログラムでは両大学院の学生が他大学院のキャンパスで教育を受けることから、学生の受入（生活環境の整備を含め）、送出のシミュレーションを行うことを主な目的としている。学内で参加者を募集した結果、18名の応募があり8名を選抜した。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

2023年3月19日から3月30日まで、JDパイロットプログラムとして、１名のECU学生を本学で受け入れた。環境情報学研究科では2つの研究室が中心に本学学生との交流を含めた企画を実施した。さらに、総合理工学研究科の3つ研究室ではECU学生は自らの専門に関わる研究の体験を中心とした活動を行った。

【特に優れた取組】
2023年2月6日~3月31日の間、ECUに滞在し、語学研修、実験室体験及び研究室体験を行った。帰国後のアンケートでは、全員（100%）がプログラム内容に満足しており、その効果もあり、75%（6名）が国際環境融合科学連携専攻への進学を目指しているとの回答を得た。

（2）インターンシップの実施状況について

①本事業で計画している交流学生のうちインターンシップに参加する学生数（計画）

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	5	0	5	5	5	5	15	10
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	0	0	5	0	5	5	5	5	15	10
自国にてインターンシップをオンラインで参加する学生（以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）											0	0
自国にてインターンシップをオンラインで参加する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	5	0	5	5	5	5	15	10
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	0	0	5	0	5	5	5	5	15	10
自国にてインターンシップをオンラインで参加する学生（以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

②プログラム全体のインターンシップ参加学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）	0	0								
自国にてインターンシップをオンラインで参加した学生（以下「オンライン」）	A 0	A 0	A	A	A	A	A	A	A	A
	B 0	B 0	B	B	B	B	B	B	B	B
実渡航とオンライン参加を行った学生（以下「ハイブリッド」）	0	0								
達成目標に対する実績の割合	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

③：【参加形態別　内訳】（計画）

●申請時の計画調書記載人数

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	5	0	5	5	5	5
	実渡航		0	0	0	0	5	0	5	5	5	5
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●海外相手大学追加調書分

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											

●合計

			2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	5	0	5	5	5	5
	実渡航		0	0	0	0	5	0	5	5	5	5
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

④：【交流形態別　内訳】（実績）

		学生別	2022年度				2023年度				2024年度				2025年度				2026年度			
			派遣		受入		派遣		受入		派遣		受入		派遣		受入		派遣		受入	
【交流形態別　内訳】																						
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	
	実渡航		0		0																	
	オンライン		A	0	A	0	A		A		A		A		A		A		A		A	
			B	0	B	0	B		B		B		B		B		B		B		B	
	ハイブリッド		0																			
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	
	実渡航		0		0																	
	オンライン		A	0	A	0	A		A		A		A		A		A		A		A	
			B	0	B		B		B		B		B		B		B		B		B	
	ハイブリッド		0		0																	
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	
	実渡航		0		0																	
	オンライン		A	0	A	0	A		A		A		A		A		A		A		A	
			B	0	B	0	B		B		B		B		B		B		B		B	
	ハイブリッド		0		0																	
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	
	実渡航		0		0																	
	オンライン		A	0	A	0	A		A		A		A		A		A		A		A	
			B	0	B	0	B		B		B		B		B		B		B		B	
	ハイブリッド		0		0																	
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	
	実渡航		0		0																	
	オンライン		A	0	A	0	A		A		A		A		A		A		A		A	
			B	0	B	0	B		B		B		B		B		B		B		B	
	ハイブリッド		0		0																	
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	
	実渡航		0		0																	
	オンライン		A	0	A	0	A		A		A		A		A		A		A		A	
			B	0	B	0	B		B		B		B		B		B		B		B	
	ハイブリッド		0		0																	

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

インターンシップについて、今年度の実施計画は特に予定していないので、実績はない。

【特に優れた取組】
今年度は、計画予定が無いので、実績もない。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

インターンシップについて、今年度の実施計画は特に予定していないので、実績はない。

【特に優れた取組】
今年度は、計画予定が無いので、実績もない。

（3）　その他（上記（1）（2）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

（4）本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

（ｉ）単位互換を実施する海外相手大学数【計画】　（単位：校）

	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する海外相手大学数	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【計画】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学　【大学名：東京都市大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
ECU（JD）	認定者数	B(大学院生)	0	0	5	5	5
	認定単位数		0	0	10	10	10
ECU（交換留学）	認定者数	B(大学院生)	1	1	1	1	1
	認定単位数		4	4	4	4	4
UTM/SIIT/DLSU	認定者数	B(大学院生)	1	1	1	1	1
	認定単位数		4	4	4	4	4
年度別認定者数合計			2	2	7	7	7
年度別認定単位合計			8	8	18	18	18

2. 国内連携大学　【大学名：東京都市大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
	認定者数		0	0	0	0	0
	認定単位数		0	0	0	0	0
	認定者数		0	0	0	0	0
	認定単位数		0	0	0	0	0
	認定者数		0	0	0	0	0
	認定単位数		0	0	0	0	0
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位合計			0	0	0	0	0

【2022年度末における目標の達成状況】

（ｉ）単位互換を実施した海外相手大学数【実績】　（単位：校）

	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した海外相手大学数	0	0								

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【実績】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

（ｉ）代表申請大学　【大学名：東京都市大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
ECU（JD）	認定者数	B(大学院生)	0				
	認定単位数		0				
ECU（単位互換）	認定者数	B(大学院生)	0				
	認定単位数		0				
UTM/SIIT/DLSU	認定者数	B(大学院生)	0				
	認定単位数		0				
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位合計			0	0	0	0	0

2. 国内連携大学　【大学名：東京都市大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
	認定者数		0				
	認定単位数		0				
	認定者数		0				
	認定単位数		0				
	認定者数		0				
	認定単位数		0				
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位合計			0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和４年度採択）
令和５年度フォローアップ調査票

<table>
<tr><td>大学名
（〇が代表大学）</td><td colspan="4">長岡技術科学大学</td></tr>
<tr><td>主な交流先</td><td colspan="4">英国・インド</td></tr>
<tr><td rowspan="2">事業名</td><td>【和文】</td><td colspan="3">マルチディメンジョン・キャンパスでのデュアルインターンシップを活用した国際協働学習プログラム</td></tr>
<tr><td>【英文】</td><td colspan="3">International Cooperative Educational Program using Dual Internship on Multidimensional Campus</td></tr>
<tr><td rowspan="2">事業責任者
※交替年月日は変更があった場合のみ記入</td><td>（氏　名）</td><td>高橋　修</td><td>（所属・職名）</td><td>副学長（国際連携・校友会担当）</td></tr>
<tr><td>（交替年月日）</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="11">海外相手大学追加調書分
相手大学名

※追加調書を提出した大学のみ記入</td><td colspan="3">大学名</td><td rowspan="2">国名</td></tr>
<tr><td></td><td>（日本語表記）</td><td>（英語表記）</td></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用
https://www.nagaokaut.ac.jp/project/uk-india/index.html

１．取組内容の進捗状況【（1）と（2）で2ページ以内、（3）（4）で2ページ以内、（5）（6）で合わせて1ページ以

本事業における2022年度の取組内容について記入してください。

（1）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

①－1 交流プログラムの内容

海外の連携大学へ教員を派遣し、本事業における各種取組に関して打合せや意見交換を行うとともに、単位互換に関するカリキュラム情報等の収集を行った。また、連携大学が参加したキックオフミーティングの開催、本学とIITマドラスが主催したJSPS二国間交流事業日印シンポジウムへの本学教員の参加・研究発表を行った。バーチャル・キャンパス（VC）のプロトタイプを作成、試行し、今後の運用に向けて課題整理を行った。これらの活動により、次年度以降のマルチディメンジョン・キャンパス（XC）の構築、デュアルインターンシップの実施に向けた基盤を整備、構築して準備を整えた。また、次年度以降にリサーチインターンシップを本格的に実施するため、本学の大学院生が海外連携大学で研究指導等を受けることを目的とした派遣を試行的に実施し、質の保証を伴う単位取得も行なった。同様に、研究交流を目的としてIITマドラスの学生を短期で本学に受け入れた。

【特に優れた取組】

キックオフミーティングを開催し、本学及び連携大学に本取組を広く周知した。また、キックオフミーティングでの研究紹介、JSPS二国間交流事業日印シンポジウムへの本学教員の参加・研究発表を通じて、国際共同研究の推進及び海外インターンシップの派遣・受入先の開拓へと繋げた。

①－2 学生主体の国際交流プログラム

本学や国内外の大学、高専、企業・研究機関等が連携して実施した教育研究成果を発信・共有し、グローバルな社会課題を解決する方法について議論することを目的に、本学学生と高専生が中心となって企画・運営する国際会議STI-Gigakuを実施し、本事業の実施担当者による事業の説明及び現地の本学コーディネータによるインドでのオンライン授業の現状等について情報提供を行った。本学学生及び将来本学へ進学する高専生に対して、留学プログラムに参加することの効果的な啓蒙活動となった。次年度以降、メタバースを活用した仮想研究室による交流を行うため、バーチャル・キャンパス（VC）構築に必要な設備の導入、基本設計を行った。

【特に優れた取組】

留学生との交流を希望する日本人学生を登録する制度（GlobUS）を新たに設け、運用を開始し、交流プログラムの実施体制を整えた。今後、本事業での交流プログラムにこれを活用することによって、参加学生の増加、活動の活発化が期待される。

①－３ オンライン（「JV-Campus」等）を活用したプログラム

本事業での研究トピックスである「DXものづくり」及び「次世代EV」に関連する授業コンテンツについて、本学および海外連携大学の制作・保有状況を調査した。本事業で作成した授業コンテンツをJV-Campusに公開できるように、JV-Campusについて情報収集を行った。ニュースレターの内容の確認やオンライン説明会への参加により、契約条件やコンテンツの要件について調査した。

【特に優れた取組】

コロナ禍の影響により、本学では2020年度と2021年度は授業の多くをオンラインやハイブリッド形式で行った。その際に録画した授業の画像データをもとに、「DXものづくり」及び「次世代EV」に関連する授業コンテンツの内容確認と整理を行った。あわせて、海外連携大学で所有している同様のコンテンツについて情報収集を行い、次年度以降に編集作業が開始できるように環境を整備した。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

(1) 海外連携大学での科目履修の準備；IITマドラスキャンパス内のリサーチパークにある先端ものづくり研究所（AMTDC）と、DXものづくりに関する研究及び教育で連携し、学部生の「実務訓練」や大学院生の「リサーチインターンシップ」での受入を行う。「実務訓練」、「リサーチインターンシップ」は単位取得を伴う科目であるため、内容、指導・実施体制、成績評価の方法等に関して確認した。安全管理や受入手続き等に関しては、本学コーディネータによる支援を受けられる体制とした。

(2) 日本語教育に関する準備；本学の日本語教員がIITマドラスを訪問し、現地及び本学での日本語教育のレベル、内容、達成目標、コンテンツの利用やオンライン授業について意見交換し、2023年度からのインド人学生の受入れに関わる日本語教育の準備を進める体制が整った。

(3) 共同研究の推進；本学の教員がIITマドラス及びヨーク大学を訪問し、共同研究の可能性について意見交換を行った。リモート機器を活用した共同研究やエネルギ関係の共同研究を推進することとなり、今後は修士学生のリサーチインターンシップや博士学生の共同指導などへ発展させる。

(4) 単位互換協定による科目履修制度の整備；IITマドラスとはすでに単位互換協定を締結しているが、コロナ禍で途絶えていたため、再開に向けてIITマドラス及び本学の両校で対応科目等の見直しを行うこととした。ヨーク大学に関しては、ヨーク大学側で対応科目を選定し単位互換制度の構築を目指すとともに、オンラインを活用した共同科目の設置を検討することとなった。

【特に優れた取組】

AMTDCの協力による「実務訓練（8単位科目）」及び「リサーチインターンシップ（8単位科目）」を2023年度より実施する。内容、実施体制、成績評価法などを擦り合わせたことにより、質の保証を伴う学生交流の枠組みを構築することができた。なお、AMTDCでは産学連携による共同研究、日系企業が関連しているプロジェクトも実施しており、今後は国際的な産学連携技術者教育へと発展させる。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

外国人学生が円滑に留学生活を送るため、「学生生活ガイドブック（英語版）」、「留学生のためのガイドブック（日英併記）」、「履修案内（英語版）」を作成し、留学生向け情報の充実を図った。また、次年度以降のインターンシップの本格的再開に向け海外及び日本国内での実務訓練先を開拓・確保するとともに、危機管理体制を整備した。コロナ禍で停止していた、IITマドラス内に設置している本学のオフィス及びコーディネータによる派遣・受入に関する支援を再開できる体制を整えた。国際交流プログラムでの留学生との交流を希望する日本人学生を登録する制度（GlobUS）を設け、交流プログラムの実施体制を整えた。例えばこの仕組みを活用して留学生が渡日前に日本人学生と交流し、学生生活に関する質問や心配などを相談できる。

【特に優れた取組】

コーディネータを通じて現地企業や大学研究室を訪問し、次年度以降の実務訓練及びリサーチインターンシップの受入先を確保した。あわせて国内については、本学教員が国内企業の調整、新規開拓を行い、受入先を確保した。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

事務体制の国際化のため、事務職員を対象に英語研修を実施して英語能力の向上に努めた。また、大学のホームページに事務手続きの書類や情報等を英語で掲載し、留学生の受入・派遣業務の円滑化を図った。とくに事務職員の研修に関しては、大学の国際化に資する持続的な人材育成プログラムを、2022年度に採択された国立大学経営改革促進事業で目指す若手経営人財の育成とも連携して進める。本事業の周知のため、パンフレット（日本語版）を作成した。また、パンフレット（英語版）及びホームページ（日本後版、英語版）の作成に着手した。

【特に優れた取組】

本事業の活動を通して、大学の国際化に資する持続的な人材育成プログラムを、国立大学経営改革促進事業と連携させて進めることで、全学規模でかつ継続性のある波及効果が期待できることから、事務組織を含めた大学全体のグローバル化を促進できる。

（2）特記すべき成果

外部のサポートや保障機関も導入した安全管理体制を独自に構築し、さらに本学の現地コーディネータを活用することで、本事業での学生派遣計画を具体的に進めることができた。「実務訓練」、「リサーチインターンシップ」に関しては、指導体制や成績評価など、質の保証を伴った教育プログラムとして実施できる体制を整えた。AMTDCと協力して教育・研究を推進することで、国際的な産学連携による技術者教育を実践できる体制を構築し、また、本事業終了後も産業界の協力による持続的なプログラムへと繋げることができる。IITマドラス及びヨーク大学と本学の教員による研究交流を推進する体制が整ったことから、次年度以降、リサーチインターンシップを中心とした教員と学生の交流の促進を図ることができる。DXものづくりに関する設備を導入し、リモートキャンパスを利用した教育・研究活動を推進できる体制が整った。例えば、オンライン授業やリモート機器を利用した事前・事後学習により、実際の渡航期間を短縮しつつも十分な教育効果を得られる、画期的な実験・実習科目を実現できる。

（3）オンラインを活用した工夫・改善点

海外からの参加のしやすさやコロナ禍の影響を考慮し、海外連携大学が参加したキックオフミーティングを対面とオンラインを併用して実施した。同ミーティングでは、本事業の紹介、研究紹介、今後の事業展開についての意見交換を行った。とくに、オンラインを利用したリモート・キャンパス（RC）の活用法・効果について議論した。実験・演習科目や研究は、オンラインでの実施が難しいが、本事業で導入したDXものづくりに関連したリモート機器や、本学で整備を進めてきたリモート操作可能な観察・分析装置等を活用することで、国際共同教育・共同研究を推進できる。例えば、オンライン授業やリモート機器を利用した事前・事後学習により、実際の渡航期間を短縮しつつも十分な教育効果を得られる、画期的な実験・実習科目を実現できる。また、研究面での利用により、大学院生の共同指導、複数の地域や研究機関を跨いだグローバルな共同研究を推進することができる。これらの取組は国際交流を活発化し、日本人学生の派遣、外国人留学生の受入のいずれに対しても貢献する。さらに、産学連携の機会も増えることから、本事業終了後の持続的な発展も期待される。

２．交流学生数の実績等 【（1）（２）はそれぞれ６ページ以内、（３）は１ページ】

（1）交流する学生数について

①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	2	1	15	11	26	20	39	32	39	32	121	96
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	0	0	10	6	19	13	28	21	28	21	85	61
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	5	5	7	7	11	11	11	11	34	34

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	2	1	15	11	26	20	39	32	39	32	121	96
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	0	0	10	6	19	13	28	21	28	21	85	61
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	5	5	7	7	11	11	11	11	34	34

②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）	5	1								
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生（以下「オンライン」）	A 0 B 0	A 0 B 0	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B
実渡航とオンライン受講を行った学生（以下「ハイブリッド」）	0	0								
達成目標に対する実績の割合	250%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

③：【交流形態別　内訳】（計画）

●申請時の計画調書記載人数

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	7	7	11	13	11	13
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A(学部生または大学院生)	0	0	0	0	7	7	11	13	11	13
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	9	5	13	6	21	10	21	10
	実渡航	B(大学院生)	0	0	4	0	6	0	10	0	10	0
	オンライン	A(学部生)	0	0	5	0	6	0	6	0	6	0
	ハイブリッド	A(学部生または大学院生)	0	0	0	5	1	6	5	10	5	10
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			2	1	6	6	6	6	6	6	6	6
	実渡航	B(大学院生)	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	B(大学院生)	0	0	6	6	6	6	6	6	6	6
	ハイブリッド	B(大学院生)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	1	1	3	1	3
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	B(大学院生)	0	0	0	0	0	0	1	2	1	2
	ハイブリッド	B(大学院生)	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1

●海外相手大学追加調書分

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											

●合計

			2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	7	7	11	13	11	13
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	7	7	11	13	11	13
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	9	5	13	6	21	10	21	10
	実渡航		0	0	4	0	6	0	10	0	10	0
	オンライン		0	0	5	0	6	0	6	0	6	0
	ハイブリッド		0	0	0	5	1	6	5	10	5	10
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			2	1	6	6	6	6	6	6	6	6
	実渡航		2	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	6	6	6	6	6	6	6	6
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	1	1	3	1	3
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	1	2	1	2
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	1	0	1	0	1

④：【交流形態別　内訳】（実績）

		学生別	2022年度				2023年度				2024年度				2025年度				2026年度			
			派遣		受入		派遣		受入		派遣		受入		派遣		受入		派遣		受入	
【交流形態別　内訳】																						
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			2		0		0		0		0		0		0		0		0		0	
	実渡航		2		0																	
	オンライン		A	0	A	0	A		A		A		A		A		A		A		A	
			B	0	B	0	B		B		B		B		B		B		B		B	
	ハイブリッド		0		0																	
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	
	実渡航	B(大学院生)	0		0																	
	オンライン		A	0	A	0	A		A		A		A		A		A		A		A	
			B	0	B	0	B		B		B		B		B		B		B		B	
	ハイブリッド		0		0																	
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	
	実渡航		0		0																	
	オンライン		A	0	A	0	A		A		A		A		A		A		A		A	
			B	0	B	0	B		B		B		B		B		B		B		B	
	ハイブリッド		0		0																	
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			2		1		0		0		0		0		0		0		0		0	
	実渡航	B(大学院生)	2		1																	
	オンライン		A	0	A	0	A		A		A		A		A		A		A		A	
			B	0	B	0	B		B		B		B		B		B		B		B	
	ハイブリッド		0		0																	
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			1		0		0		0		0		0		0		0		0		0	
	実渡航	B(大学院生)	1		0																	
	オンライン		A	0	A	0	A		A		A		A		A		A		A		A	
			B	0	B	0	B		B		B		B		B		B		B		B	
	ハイブリッド		0		0																	
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	
	実渡航		0		0																	
	オンライン		A	0	A	0	A		A		A		A		A		A		A		A	
			B	0	B	0	B		B		B		B		B		B		B		B	
	ハイブリッド		0		0																	

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

2022年度は初年度であり、コロナ禍での試行的な派遣であったが、大学院生5名の派遣（4名がヨーク大、1名がIITマドラス）を行い、うち2名については単位取得（リサーチインターンシップ）を伴う派遣であった。民間の安全サポート会社等も活用し、コロナ禍でも安全を確保しつつ学生派遣を行うための仕組みを構築し、大学全体として海外実務訓練やリサーチインターンシップでの派遣を開始していたため、本事業でも安全を十分に確保して学生を派遣することができた。派遣学生は海外連携大学で現地の教員から研究指導を受け、またセミナー等にも参加することで学生同士の交流も経験し、グローバルマインドの涵養、異文化理解を深めることができた。これらの派遣実績及び本事業連携大学との研究交流を開始したことから、次年度は、単位取得を伴うリサーチインターンシップ科目としての実渡航の派遣を、内容を充実させて実施する予定である。

学部生については、2022年度は実渡航を伴う派遣プログラムである海外実務訓練を、コロナ禍の影響によりインドおよび英国の受入機関では実施しないことが4月に決まっていたため、派遣ができなかった。2022年度は、次年度以降の海外実務訓練を実施するためのインドおよび英国での受入先機関の開拓・確保を図った。これにより、コロナ禍で中断していた海外実務訓練を海外連携大学所在国の受入機関で2023年度から再開することが可能となり、コロナ禍前よりも多くの学生を派遣できる見通しが立った。

【特に優れた取組】

2022年度は2名の実渡航による派遣を予定していたが、実際には予定数を大きく上回る5名を派遣することができた。これは、コロナ禍でも安全を十分に確保して学生を派遣する仕組みを構築していたことによって実現した特筆すべき取組と言える。また、5名のうち2名は、単位を取得した質の保証を伴う渡航であったことも、特筆すべき取組と言える。これらの実渡航を伴う派遣は、本事業の取組を学内の教員および学生に十分周知し、さらに学生が海外渡航を強く希望したことにも関係しており、次年度以降の本事業に関わる参加学生数も期待できる。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

2022年度は、予定通り1名の受入を行うことができた。次年度以降への本格的な受入を目指し、研究交流を目的として、試行的にIITマドラスの学生１名を短期間受け入れた（実渡航）。これにより、コロナ禍により約3年間停まっていたIITマドラスからの学生受入による学生交流・研究交流が再開され、次年度以降へ向けたリサーチインターンシップとして内容の充実、受入候補研究室の選定、実施時期などについての具体的な検討を進めた。また、日本国内の企業でのインターンシップについても受入先を調整・開拓し、次年度以降に実施できることとなった。

【特に優れた取組】

コロナ禍では、短期間の学生の受入は、安全確保や危機管理の点、また交流プログラムの実行が困難になる可能性もあることから難しい。それにも関わらず、本事業の開始年である2022年度に予定通り学生1名を受入ることができたことは、本学と協定大学との交流実績やコロナ禍であってもオンライン等を利用した交流を続けてきたことの成果によると言え、特に優れた取り組みと評価できる。受入を再開したことの意義は大きく、次年度以降の本事業のプログラムへの参加学生数が期待できる。

（2）インターンシップの実施状況について

①本事業で計画している交流学生のうちインターンシップに参加する学生数（計画）

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	2	1	9	5	13	6	21	10	21	10	66	32
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1
自国にてインターンシップをオンラインで参加する学生（以下「オンライン」）	0	0	4	0	6	0	10	0	10	0	30	0
実渡航とオンライン参加を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	5	5	7	6	11	10	11	10	34	31

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）											0	0
自国にてインターンシップをオンラインで参加する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	2	1	9	5	13	6	21	10	21	10	66	32
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1
自国にてインターンシップをオンラインで参加する学生（以下「オンライン」）	0	0	4	0	6	0	10	0	10	0	30	0
実渡航とオンライン参加を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	5	5	7	6	11	10	11	10	34	31

②プログラム全体のインターンシップ参加学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）	5	1								
自国にてインターンシップをオンラインで参加した学生（以下「オンライン」）	A 0	A 0	A	A	A	A	A	A	A	A
	B 0	B 0	B	B	B	B	B	B	B	B
実渡航とオンライン参加を行った学生（以下「ハイブリッド」）	0	0								
達成目標に対する実績の割合	250%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

③：【参加形態別　内訳】（計画）

●申請時の計画調書記載人数

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	9	5	13	6	21	10	21	10
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	B(大学院生)	0	0	4	0	6	0	10	0	10	0
	ハイブリッド	A(短大学部生または大学部生)	0	0	5	5	7	6	11	10	11	10
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			2	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	B(大学院生)	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●海外相手大学追加調書分

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											

●合計

			2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	9	5	13	6	21	10	21	10
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	4	0	6	0	10	0	10	0
	ハイブリッド		0	0	5	5	7	6	11	10	11	10
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			2	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		2	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

④：【交流形態別　内訳】（実績）

		学生別	2022年度				2023年度				2024年度				2025年度				2026年度			
			派遣		受入		派遣		受入		派遣		受入		派遣		受入		派遣		受入	
【交流形態別　内訳】																						
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			2		0		0		0		0		0		0		0		0		0	
	実渡航		2		0																	
	オンライン		A	0	A	0	A		A		A		A		A		A		A		A	
			B	0	B	0	B		B		B		B		B		B		B		B	
	ハイブリッド		0		0																	
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	
	実渡航	B(大学院生)	0		0																	
	オンライン		A	0	A	0	A		A		A		A		A		A		A		A	
			B	0	B	0	B		B		B		B		B		B		B		B	
	ハイブリッド		0		0																	
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	
	実渡航		0		0																	
	オンライン		A	0	A	0	A		A		A		A		A		A		A		A	
			B	0	B	0	B		B		B		B		B		B		B		B	
	ハイブリッド		0		0																	
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			2		1		0		0		0		0		0		0		0		0	
	実渡航	B(大学院生)	2		1																	
	オンライン		A	0	A	0	A		A		A		A		A		A		A		A	
			B	0	B	0	B		B		B		B		B		B		B		B	
	ハイブリッド		0		0																	
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			1		0		0		0		0		0		0		0		0		0	
	実渡航	B(大学院生)	1		0																	
	オンライン		A	0	A	0	A		A		A		A		A		A		A		A	
			B	0	B	0	B		B		B		B		B		B		B		B	
	ハイブリッド		0		0																	
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	
	実渡航		0		0																	
	オンライン		A	0	A	0	A		A		A		A		A		A		A		A	
			B	0	B	0	B		B		B		B		B		B		B		B	
	ハイブリッド		0		0																	

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

本事業では、学部生の「海外実務訓練」、大学院生の「リサーチインターンシップ」がインターンシップとして設定されており、いずれも実渡航を伴う交流プログラムである。

2022年度は初年度であり、コロナ禍での試行的な派遣であったが、大学院生5名の派遣（4名がヨーク大、1名がIITマドラス）を行い、うち2名については単位取得（リサーチインターンシップ）を伴う派遣であった。民間の安全サポート会社等も活用し、コロナ禍でも安全を確保しつつ学生派遣を行うための仕組みを構築し、大学全体として海外実務訓練やリサーチインターンシップでの派遣を開始していたため、本事業でも安全を十分に確保して学生を派遣することができた。派遣学生は海外連携大学で現地の教員から研究指導を受け、またセミナー等にも参加することで学生同士の交流も経験し、グローバルマインドの涵養、異文化理解を深めることができた。これらの派遣実績および本事業連携大学との研究交流を開始したことから、次年度は、単位取得を伴うリサーチインターンシップ科目としての実渡航の派遣を、内容を充実させて実施する予定である。また、ヨーク大学へ3名、IITマドラスへ4名の教員が訪問し、現地大学の研究室を訪問することで、さまざまな分野・テーマでのリサーチインターンシップの実施を可能としたことは、参加学生の選択の幅が広がり、次年度以降の本事業に関わる学生派遣の活性化につながる。

学部生については、2022年度は実渡航を伴う派遣プログラムである海外実務訓練を、コロナ禍の影響によりインドおよび英国の受入機関では実施しないことが4月に決まっていたため、派遣ができなかった。2022年度は、次年度以降の海外実務訓練を実施するためのインドおよび英国での受入先機関の開拓・確保を図った。これにより、コロナ禍で中断していた実務訓練を海外連携大学所在国の受入機関で2023年度から再開することが可能となり、コロナ禍前よりも多くの学生を派遣できる見通しが立った。特に、IITマドラスに関しては、キャンパス内のリサーチパークにある先端ものづくり研究所（AMTDC）へ、最大5名の学生を実務訓練として派遣することとなった。

【特に優れた取組】

リサーチインターンシップに関しては、ヨーク大学、IITマドラスのいずれに関しても、学生を派遣することができた。当初予定を大幅に上回る学生派遣を実施できたことは特に優れた取り組みと評価できる。また、教員交流・研究室交流も進めることができたため、次年度以降、本事業へ参加する学生の選択肢が広がり、全学への展開が進むことが期待される。

実務訓練に関しては、2022年度は行うことができなかったが、予定していた数よりも多くの数の受入先を確保することができたことは、とくに優れた取り組みである。また、IITマドラス内のリサーチパークにあるAMTDCは、産学連携で先端ものづくりを研究しており、IITマドラスの寮など施設を利用して安全に実務訓練を行うことができる体制を整えることができたこと、最大5名の派遣が可能となったことは高く評価される。実務訓練をきっかけとした交流を大学院での研究交流へと発展できる可能性が高く、交流活動の活性化が期待される。

これらリサーチインターンシップ先の研究室や実務訓練先の調整には、2014年に採択された大学の世界展開力強化事業に関連してIITマドラス内に設置した本学のオフィスとオフィスに常駐しているコーディネータの貢献が大きい。十分な安全管理・安全確保を行うことができるほか、コロナ禍で途絶えていた交流の再開も円滑に進めることができた。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

本事業では、日本国内企業での受入、本学の研究室での受入をインターンシップとして設定されており、いずれも実渡航を伴う交流プログラムである。

2022年度は、予定通り1名の受入を行うことができた。次年度以降への本格的な受入を目指し、研究交流を目的として、試行的にIITマドラスの学生１名を短期間受け入れた（実渡航）。これにより、コロナ禍により約3年間停まっていたIITマドラスからの学生受入による学生交流・研究交流が再開され、次年度以降へ向けたリサーチインターンシップとして内容の充実、受入候補研究室の選定、実施時期などについての具体的な検討を進めた。また、日本国内の企業でのインターンシップについても受入れ先を調整・開拓し、2023年度に2名の学生の受入先を確保することができた。

日本へ留学する学生の手続きに関しては、IITマドラス内に設置している本学のオフィス及びコーディネータによる支援が有効であった。また、今回の世界展開力事業では、本学の日本語教員とIITマドラスの日本語教員が連携・協力し、派遣前と派遣後の日本語教育プログラムを構築、実施する体制とした。

【特に優れた取組】

コロナ禍では、短期間の学生の受入は、安全確保や危機管理の点、また交流プログラムの実行が困難になる可能性もあることから難しい。それにも関わらず、本事業の開始年である2022年度に予定通り学生1名を受入ることができたことは、本学と協定大学との交流実績やコロナ禍であってもオンライン等を利用した交流を続けてきたことの成果によると言え、特に優れた取り組みと評価できる。受入を再開したことの意義は大きく、次年度以降の本事業のプログラムへの参加学生数が期待できる。

コロナ禍で停まっていた日本企業での留学生のインターンシップを再開するため、その受入先を開拓・確保することは難しいが、すでに2023年度へ向けて2名の受入先を確保できたことは特に優れた取り組みとして評価できる。これは、本学が開学以来行なっている実務訓練を通した産学連携での実践的技術者教育の実績に基づいており、事業期間中の日本国内企業でのインターンシップの充実のほか、事業終了後の持続性の確保にもつながることが期待される。

本学の現地オフィスおよびコーディネータを活用した留学生への支援は、学生が安心して留学できることから参加学生の増加に対する効果が大きく、特に優れた取り組みとして評価できる。

本学と現地が連携、協力して日本語教育プログラムを構築し、実施することは、優れた取組として評価できる。それぞれのプログラムや派遣先（派遣先企業、大学研究室）の必要性・要求に合わせた内容を検討しており、本事業だけではなく、他の留学プログラムにも展開できる。また、留学だけではなく、プログラム参加学生が卒業・修了後に日本企業へ就職するキャリアパスも示すことができるため、日本への定着を促す効果が期待される。

（3）　その他（上記（1）（2）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
	該当無し	人
		人
		人
		人

（4）本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

（ｉ）単位互換を実施する海外相手大学数【計画】　（単位：校）

	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する海外相手大学数	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【計画】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学　【大学名：　大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
ヨーク大学	認定者数	B(大学院生)	0	0	0	1	1
	認定単位数	B(大学院生)	0	0	0	4	4
インド工科大学マドラス校	認定者数	B(大学院生)	0	0	1	1	1
	認定単位数	B(大学院生)	0	0	4	6	6
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	1	2	2
年度別認定単位合計			0	0	4	10	10

2. 国内連携大学　【大学名：　大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位合計			0	0	0	0	0

【2022年度末における目標の達成状況】

（ｉ）単位互換を実施した海外相手大学数【実績】　（単位：校）

	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した海外相手大学数	1	1								

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【実績】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

（ｉ）代表申請大学　【大学名：　大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
ヨーク大学	認定者数	B(大学院生)	0				
	認定単位数	B(大学院生)	0				
インド工科大学マドラス校	認定者数	B(大学院生)	0				
	認定単位数	B(大学院生)	0				
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位合計			0	0	0	0	0

2. 国内連携大学　【大学名：　大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位合計			0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和４年度採択）
令和５年度フォローアップ調査票

<table>
<tr><td>大学名
（〇が代表大学）</td><td colspan="4">お茶の水女子大学</td></tr>
<tr><td>主な交流先</td><td colspan="4">英国・オーストラリア</td></tr>
<tr><td rowspan="2">事業名</td><td>【和文】</td><td colspan="3">グローバルリーダー育成のための「女子大学発」実学型EDIプログラム</td></tr>
<tr><td>【英文】</td><td colspan="3">Practice-Based EDI Program for Global Leaders</td></tr>
<tr><td rowspan="2">事業責任者
※交替年月日は変更があった場合のみ記入</td><td>（氏　名）</td><td>石井クンツ　昌子</td><td>（所属・職名）</td><td>理事・副学長
（研究・国際交流・男女共同参画担当）</td></tr>
<tr><td>（交替年月日）</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="12">海外相手大学追加調書分
相手大学名

※追加調書を提出した大学のみ記入</td><td colspan="3">大学名</td><td rowspan="2">国名</td></tr>
<tr><td></td><td>（日本語表記）</td><td>（英語表記）</td></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用
https://www.cf.ocha.ac.jp/edi/index.html

１．取組内容の進捗状況【（1）と（2）で２ページ以内、（3）（4）で2ページ以内、（5）（6）で合わせて１ページ以

本事業における2022年度の取組内容について記入してください。

（1）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

①－１ 交流プログラムの内容

本プログラムは、公平性(Equity)・多様性(Diversity)・包摂性(Inclusion)を備えた実学型グローバルリーダーの育成を目指し、以下の(1)-(4)を

本学と協定校の学位プログラムの一部として位置づけた。

(1) JV-Campusのオンライン授業群の設置：2022年度キックオフシンポジウムでの４大学（本学・イーストアングリア大学（UEA）・シドニー工科大学（UTS）・ブレシア大学(BUC)）の講演のJV-Campus掲載準備を行い、2023年度開始時に公開した。今後も「エンプロイアビリティ」「アントレプレナー」「日本語・日本事情」等を加えていく。

(2)本学サマープログラム：本学のサマープログラムは10年以上の長い歴史を有し、コロナ禍でのオンラインを経て、今年度から再び実渡航で実施する。EDIのプログラムの一部で「ジェンダー研究」「グローバルリーダーシップ」「日本語」科目を組み込んだ。

(3)実学型EDIプログラム：2022年度に学内承認を得た「全学EDI学際カリキュラム」は「ジェンダー領域」「グローバル3C領域」「キャリアデザイン領域」「日本語・日本事情」から成る。終了後「国際学生シンポジウム（グローバル化と言語教育Ⅰ）」にて学生が成果報告を行う。海外連携３大学での履修科目と合算し20単位で修了証を授与する仕組である。また英語でのインターンシップ協力企業を募り、インターン先（カルティエ、アルク等）８企業を確保した。今後も英語によるEDI科目の質量における拡充を行う予定である。

(4)協定校における指定科目：本プログラムはEDIの分野で先進的な役割を担う海外連携３大学の協力を得ており、派遣学生は交換留学制度を活用しEDIについて深く学習する。2022年度は海外連携３大学とオンラインミーティングを開催し、EDIプログラム立ち上げに関わっている教員が実際に連携３大学を訪問した。さらに、2023年3月には連携３大学から教員・学生を本学のキックオフシンポジウムと国際学生シンポジウムに招待した。その過程で連携３大学での科目認定の準備を行った。海外連携３大学からは認定科目のリストとシラバスを得ているが、今後さらに科目の拡充を図る。

【特に優れた取組】

初年度末の2023年3月に海外連携３大学の教職員と学生を本学に招き、キックオフシンポジウム及び国際学生シンポジウムを開催し、EDIプログラム運営委員会を設置し覚書の締結とEDI科目の決定を行った。シンポジウム講演は2023年度はじめにJV-Campusにて紹介し、さらにオンライン交流会やインターンシップに関する準備を行った。

①‐２ 学生主体の国際交流プログラム
本EDIプログラムの新たなイベントとして、2023年3月に海外提携大学の学生と第１回国際学生シンポジウムを対面で開催した。シンポジウムでは本学と海外連携３大学の学生が司会を務め、各々の大学のEDI科目に関して発表した。2023年度の定期的なオンライン交流会では学生が主体となり交流を深め、各年度の総括として年度末に国際学生シンポジウムを実施する予定である。

【特に優れた取組】
2023年3月に、EDIプログラムの新たなイベントとして本学の学生と海外連携３大学の学生が本学に集まり、キックオフシンポジウムと第１回国際学生シンポジウムを２日間にわたり開催した。また2023年度の定期的なオンライン交流会では学生が主体となり交流を深め、各年度末には国際学生シンポジウムを実施する予定である。

①‐３ オンライン （「JV-Campus」等）を活用したプログラム
本プログラム開始前の2022年にUEAと４回オンライン交流会を開催し、本学学生24名、UEA学生23名が参加し、EDIプログラム参加を呼びかけた。さらにプログラム紹介や留学生による大学案内をJV-Campusに掲載した。キックオフシンポジウムでの5講演もJV-Campusに掲載する準備を進め、2023年度に入り掲載した。また定期的オンライン交流会の準備も進め、2023年度に入り海外連携３大学と開催されている。

【特に優れた取組】
EDIプログラムの開始に伴い、プログラム紹介や留学生による大学案内をJV-Campusに掲載した。また2022年度は、キックオフシンポジウムでの５講演のJV-Campus掲載準備を進め、2023年度に入り掲載された。JV-Campusのコンテンツを今後拡大することにより、EDIのテーマを含む大学授業の拡充と他大学への本プロジェクトの発信が期待できる。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成
本学では協定校との単位互換制度があり、海外連携大学はECTS（European Credit Transfer System）を導入しており円滑に単位互換ができる。本学では質の伴う修了証を授与するため、2023年1月に「全学EDI学際カリキュラム」として学務部会から承認を得た。2022年度には参加大学の教職員による運営委員会を設置し、交流促進の覚書を策定しEDI科目の特定を行った。キックオフシンポジウムでは連携大学の教員がEDIに関する講演を行った。2023年度にもオンライン会議を複数回開催し、本学と連携大学の学生のEDI教育の質的向上に活かす予定であり、国内外の他大学にも発信する。さらに本プログラムでは３つの評価基準を定めて成果を計る予定である。異文化コミュニケーション能力については全米大学協会やバーナード大学等のVALUEルーブリックに基づく本学の基準を定める。リーダーシップ力については本学グローバルリーダーシップ研究所が策定したリーダーシップ特性評価指標を用いる。エンプロイアビリティに関しては厚生労働省が作成したエンプロイアビリティチェックリストを使用し、本プログラムが目指すリーダーシップの向上を可視化する予定である。

【特に優れた取組】
本プログラムを学内における「全学EDI学際カリキュラム」とし、リーダーシップ能力測定の評価尺度を検討をした。連携大学の教職員で運営委員会を設置し、交流促進のための覚書を策定した。オンライン会議や相互訪問を通して、各大学の強みを活かしたEDI科目を選定し質を保証しうるプログラム設計を行った。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

日本人派遣学生と外国人受入学生のための渡航支援、渡航前の危機管理セミナーや危機管理サービスの提供の準備を行った。渡航前支援ではビザ申請の手続きや寮の手配、授業履修登録のサポートを行っている。本学の派遣学生には、派遣先と協力して情報交換を行い包括的なサポートを行っている。受入学生については、日本で安全な生活ができ、留学生同士が交流できる国際寮を手配し、留学中の不安や孤独感を解消できるように努めている。渡航前教育では、派遣・受入学生共にオンラインあるいは対面にて、留学全般において必要な知識や異文化間能力育成のための講義を実施し、異文化理解・メンタルヘルス・危機管理・出発前の手続き等を周知している。本学の派遣学生には危機管理セミナーの参加を義務付けている。日本エマージェンシーアシスタンス（EAJ）の「Overseas Student Safety Management Assistance」（総合危機管理サービス）と提携し、海外滞在中の事件・事故に対して24時間の日本語・英語対応を提供する。これらにより円滑にプログラムを運営し、派遣・受入学生が安全に渡航し充実した留学生活を送るための協力体制を形成するように努めている。

【特に優れた取組】

派遣・受入学生のための渡航前支援ではビザ申請手続きや入寮申請等の包括的サポートをしている。受入学生が安全な生活ができ留学生同士が交流できる国際寮を手配した。危機管理サービスと提携し、海外滞在中の問題に24時間日本語・英語対応を提供する。このように派遣・受入学生が充実した留学生活を送るための協力体制を整えている。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

大学の国際化推進のため、国際本部の下にEDIワーキンググループを設置し、国際教育センターが中心となり、グローバルリーダーシップ研究所、外国語教育センター、グローバル協力センター、グローバル文化学環、英語圏言語文化コース教員、国際課、学務課が連携してプログラム運営を行っている。本学のEDI関連授業のシラバスを日英で表示し、海外からの学生受入に必要となる情報（危機管理、感染症対策等）を中心に様々な書類の英訳なども推進した。EDIプログラムのホームページ、Instagram、学習管理システム（Moodle)、Slack、大学公式Twitter、学内メーリングリスト等による情報を公開している。またJV-Campusを構築し、プログラム内容と連携大学のEDI科目の内容紹介を国内外の連携大学に発信することで、成果の普及に努める。

【特に優れた取組】

大学の国際化推進のために国際教育センターが中心となりプログラム基盤を学内に整備し、EDI関連授業のシラバスを日英で表示し海外からの学生受入に必要となる情報の英訳等を推進した。Webpage、Instagram、Slack、大学公式Twitter等で情報公開を行っている。さらにJV-Campusを用いて国内外の連携大学に発信し、成果の普及に努める。

（2）特記すべき成果
EDIプログラム初年度末の2023年3月に本学と海外連携３大学の教職員・学生が本学に集まり、キックオフシンポジウムと第１回国際学生シンポジウムを開催した。2023年度に海外連携３大学とオンライン講演会やオンライン学生交流を定期的に開催する準備を行い、2023年度6月に３回実施し、7月に１回実施予定である。また、学内の各部署と連携してEDI関連科目のシラバスの日英併記を推進し、JV-Campusを用いた情報発信を進め、大学の国際化にむけた環境を整備した。

（3）オンラインを活用した工夫・改善点
本学は2018～2022年度の間、大学の世界展開力強化事業のCOILプログラムに採択された。そしてオンライン交流を活用して学生の英語力を強化し、実渡航の事前準備につなげて留学の動機づけや意欲を高めるプログラムを提供し、実渡航を補完するものとしてのオンラインのリソースを活用してきた。また、自国にいながらにして海外の教室とつなぎ、海外大学の教員の講義・講演などに参加できる機会を提供し「キャンパスのグローバル化」や「留学の日常化」を促進してきた。感染症が世界的に蔓延した際には、実渡航の代わりとなる交流プログラムを企画し、これらをコロナ禍においても継続し発展させてきた。これまでは海外連携大学が主に韓国、中国などのアジア、ポーランドなどの東欧の大学であり、英語圏はヴァッサー大学、ゴンザカ大学などに限られていたが、本EDIプログラムでは新たにイーストアングリア大学（イギリス）・ブレシア大学（カナダ）・シドニー工科大学（オーストラリア）に拡大し、2023年度には既にオンライン講演会・オンライン交流会の定期実施につなげている。

２．交流学生数の実績等 【（1）（2）はそれぞれ６ページ以内、（3）は１ページ】

（1）交流する学生数について

①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	50	54	118	176	139	183	194	242	203	251	704	906
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	2	2	3	3	4	4	5	5	14	14
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	50	50	100	150	100	150	150	200	150	200	550	750
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	4	16	24	36	30	40	38	48	46	140	142

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	50	54	118	176	139	183	194	242	203	251	704	906
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	2	2	3	3	4	4	5	5	14	14
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	50	50	100	150	100	150	150	200	150	200	550	750
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	4	16	24	36	30	40	38	48	46	140	142

②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	6	7	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）										
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生（以下「オンライン」）	A B 6	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B
実渡航とオンライン受講を行った学生（以下「ハイブリッド」）		7								
達成目標に対する実績の割合	12%	13%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

③：【交流形態別　内訳】（計画）

●申請時の計画調書記載人数

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	8	16	26	20	28	26	34	32
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド			4	8	16	26	20	28	26	34	32
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	10	10	13	13	16	16	19	19
	実渡航				2	2	3	3	4	4	5	5
	オンライン											
	ハイブリッド				8	8	10	10	12	12	14	14
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			50	50	100	150	100	150	150	200	150	200
	実渡航											
	オンライン		50	50	100	150	100	150	150	200	150	200
	ハイブリッド											
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											

●海外相手大学追加調書分

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											

●合計

		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	0	8	16	26	20	28	26	34	32
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	8	16	26	20	28	26	34	32
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	10	10	13	13	16	16	19	19
	実渡航	0	0	2	2	3	3	4	4	5	5
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	8	8	10	10	12	12	14	14
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		50	50	100	150	100	150	150	200	150	200
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	50	50	100	150	100	150	150	200	150	200
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

④：【交流形態別　内訳】（実績）

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			6	7	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B　6	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド			7								
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

派遣学生（EDIプログラム海外連携大学への交換留学）については、EDIプログラム採択以前に、2022年度にプレシア大学に１名、シドニー工科大学に１名、合計２名の学生が交換留学で派遣されている。EDIプログラム採択以前の2022年度に、本学とイーストアングリア大学との間で行われたオンライン交流プログラムに24名の学生が参加した。このプログラムは指定の条件を満たすことで、多文化交流実習Ⅲの２単位を得ることが可能となっている。 実渡航とオンラインのハイブリッドに該当する学生の募集・決定が、2022年度末であったために2022年度の参加者はいない状況であったが、2023年2月にEDIプログラムに参加予定の学生は実渡航に向けて英語資格試験（TOEFL・IELTS)のオンライン集中講座に参加した上でTOEFL-ITP, IELTSプログレスチェック試験を受験しEDIプログラム参加に備えてきた。そしてオンラインプログラムの履修や実渡航は2023年度夏以降に開始予定となっている。これらのEDI派遣予定の5名とEDI以外の本学派遣予定学生１名、合わせて6名が2022年度末に本学で実施されたキックオフシンポジウム及び国際学生シンポジウムに参加したが、実渡航の数値は0となっている。但しキックオフシンポジウムや国際学生シンポジウムに先立ち、派遣予定である海外連携大学の学生と、来日までの約半月間に複数回のオンライン交流会を実施した。また2022年度に準備を行っていたEDIプログラム海外連携大学とのオンライン講演会・オンライン交流会は2023年度に入り複数回実施されている。

【特に優れた取組】
2022年度に選抜された第１期学生は、2023年度6〜7月に、海外連携３大学との間のオンライン講演会・オンライン交流会に参加している。各海外連携３大学の講師によるEDI関連講義・質疑応答、出席学生間の交流セッションで構成され、後半の交流セッションは参加学生主体で行われる。プログラムの企画・事前準備、講演後の質疑応答、派遣学生による司会・所属大学紹介、身近なテーマに関する意見交換などを通じ、受入学生と派遣予定学生を含む本学学生との間の相互理解を促進し、派遣学生の留学生活のイメージを明確化し、実践的な英語力を高め、留学先でのスムーズな適応につなげる。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

EDIプログラム受入学生については、2022年度末に開催されたキックオフシンポジウムと国際学生シンポジウムの参加のために来日した7名の学生がいる（イーストアングリア大学２名、シドニー工科大学３名、プレシア大学２名）。EDIプログラムの参加者は本来ハイブリッド型に区分されるが、プログラムの本格的な開始が2023年度からとなっているため、これらの学生は上記の内訳の④にカウントされている。EDIプログラム採択以前の2022年度には、本学とイーストアングリア大学との間で行われたオンライン交流プログラムに23名の学生が参加した。ただし、海外連携大学では授業の一部とされておらず単位取得につながらないプログラムである。実渡航とオンラインのハイブリッドに該当する学生は、募集・決定が2022年度末であったため、2022年度の参加者数は0であったが、オンラインプログラム履修や実渡航は2023年度夏に開始予定となっており、８名の受入学生が既に決定し、具体的調整に入っている。

【特に優れた取組】
2022年度に参加が決定した第１期生は2023年の6〜7月に、本学や他の海外連携大学との間でオンライン講演会・オンライン交流会に参加している。各海外連携大学講師によるEDI関連講義、質疑応答、出席学生間の交流セッションで構成され、後半の交流セッションは参加学生主体で行われる。プログラムの企画・事前準備、講演後の質疑応答、学生による所属大学紹介、身近なテーマに関する意見交換などを通じ、受入学生と派遣予定学生を含む本学学生との間の相互理解を促進し、本学での学生生活に関する受入学生のイメージを明確化し、来日後のスムーズな適応につなげる予定である。

（2）インターンシップの実施状況について

①本事業で計画している交流学生のうちインターンシップに参加する学生数（計画）

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	8	8	10	10	12	12	14	14	44	44
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）											0	0
自国にてインターンシップをオンラインで参加する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生（以下「ハイブリッド」）			8	8	10	10	12	12	14	14	44	44

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）											0	0
自国にてインターンシップをオンラインで参加する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	8	8	10	10	12	12	14	14	44	44
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にてインターンシップをオンラインで参加する学生（以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	8	8	10	10	12	12	14	14	44	44

②プログラム全体のインターンシップ参加学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）										
自国にてインターンシップをオンラインで参加した学生（以下「オンライン」）	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B
実渡航とオンライン参加を行った学生（以下「ハイブリッド」）										
達成目標に対する実績の割合	#DIV/0!	#DIV/0!	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

③：【参加形態別　内訳】（計画）

●申請時の計画調書記載人数

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	8	8	10	10	12	12	14	14
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド				8	8	10	10	12	12	14	14
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											

●海外相手大学追加調書分

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											

●合計

		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	8	8	10	10	12	12	14	14
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	8	8	10	10	12	12	14	14
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

④：【交流形態別　内訳】（実績）

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

2022年に決定した第１期派遣生が実際に派遣されるのは2023年度であり、国内もしくは海外でのインターンシップ参加は2022年度に実施されていない。

【特に優れた取組】
2022年度は、EDIプログラムの海外連携大学に２名の学生が交換留学で派遣されたが、単位認定を伴うインターンシップには参加しておらず、交流促進のためのボランティア活動等に参加している。第１期派遣生が実際に派遣されるのは2023年度であり、インターンシップは2022年度に実施されていないが、海外連携大学で参加可能なインターンシップ科目（単位認定可能科目）を確認済である。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

2022年度は、2023年度に海外連携大学から学生を受け入れ、本学学生とともにインターンシップを実施するための体制づくりを行った。具体的には、入学許可証を発行し、入国管理局において発行された在留資格認定証明書とともに海外連携大学に送付済である。また、留学生の滞在先となる寮の下見、仮予約、初期費用の確認を完了し、留学生に申請手続きを連絡した。7月中旬の来日にむけて6月中旬にはオンラインでEDIプログラムのオリエンテーションを実施予定であり、渡日へむけた準備、空港から寮への移動経路、EDIプログラムの日程、インターンシップ先企業の業界紹介等を予定している。インターンシップの受入企業には、宝飾ブランドのカルティエ、総合建設コンサルタントの日本工営に加えて、語学の教材出版等を行うアルク、ODA等の国際開発事業を行うパデコ、国際教育サービスのIDPエデュケーション、国際ボランティアの派遣・受入を行うNPO法人ICYEジャパン、ニュージーランドの教育を発信するニュージーランド大使館エデュケーション・ニュージーランドなどが確定しており、多様な業界から多くの企業がEDIのテーマに賛同し、インターンシップ受入先企業として協力予定である。また学内では、学務課と連携して、サマープログラムや秋学期の履修登録に向けた手続きを確認し、学生キャリア支援課と連携し、インターンシップ参加に向けた同意書等の英訳の準備を進めている。さらに、オンラインでの学生交流やオリエンテーションの実施等、目的を明確化した上で充実した渡日前教育を行うために準備した。渡日予定の受入留学生と本学学生の交流を深め、積極的に外国語を使う場面を提供し、学生自身が発案した身近なテーマについて意見交換することで、文化の違いを越えて学生同士の理解を深め、語学学習や国際理解に対する意欲を上げ、継続的に学習に取り組む環境の整備を図る。また、学生交流の企画、司会や運営を学生自身に委ねることで学生の自発性、創造的思考力、発言力、プレゼンテーション力、行動力、コミュニケーション力、統率力などの育成を図り、本プログラムの目標であるリーダーシップとエンプロイアビリティの向上を目指す。

【特に優れた取組】
2022年度は、インターンシップ実施に向けた体制づくりを行った。オンラインオリエンテーションを準備し、インターンシップ先企業の業界等を説明予定である。インターンシップには、建設業、出版業、国際開発事業、教育サービス業などの業界から多くの企業が受入先企業として協力予定であり、インターンシップ参加を通して学生の創造的思考力、プレゼンテーション力、行動力、統率力などの育成を図る。

（３）　その他（上記（１）（２）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
該当なし		人
		人
		人
		人

（4）本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

（ｉ）単位互換を実施する海外相手大学数【計画】　（単位：校）

	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する海外相手大学数	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【計画】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学　【大学名：　大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
イーストアングリア大学	認定者数	A(学部生)	0	7	13	15	18
	認定単位数	A(学部生)	0	26	42	50	60
シドニー工科大学	認定者数	A(学部生)	0	3	14	15	18
	認定単位数	A(学部生)	0	18	48	50	60
セントメアリーズ大学	認定者数	A(学部生)	0	6	6	7	8
	認定単位数	A(学部生)	0	20	20	26	28
ブレシア大学	認定者数	A(学部生)	0	2	6	7	9
	認定単位数	A(学部生)	0	12	20	26	34
年度別認定者数合計			0	18	39	44	53
年度別認定単位合計			0	56	110	126	154

【2022年度末における目標の達成状況】

（ｉ）単位互換を実施した海外相手大学数【実績】　（単位：校）

	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した海外相手大学数	0	0								

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【実績】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

（ｉ）代表申請大学　【大学名：　大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
イーストアングリア大学	認定者数	A(学部生)	0				
	認定単位数	A(学部生)	0				
シドニー工科大学	認定者数	A(学部生)	0				
	認定単位数	A(学部生)	0				
セントメアリーズ大学	認定者数	A(学部生)	0				
	認定単位数	A(学部生)	0				
ブレシア大学	認定者数	A(学部生)	0				
	認定単位数	A(学部生)	0				
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位合計			0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和４年度採択）
令和５年度フォローアップ調査票

大学名 （〇が代表大学）	東洋大学			
主な交流先	英国・オーストラリア			
事業名	【和文】	ビジネス日本語教育を通じた高度日本語人材と多文化共生グローバル人材の育成プログラム		
	【英文】	Program to develop the Japanese language ability and multicultural communication skills of international professionals through intensive business Japanese study.		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	（氏　名）	髙橋　一男	（所属・職名）	副学長・国際教育センター長
	（交替年月日）			

		大学名		国名
海外相手大学追加調書分 相手大学名 ※追加調書を提出した大学のみ記入		（日本語表記）	（英語表記）	
	1	ウズベキスタン国立世界言語大学	Uzbekistan State World Language University	ウズベキスタン
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL
※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用

https://www.toyo.ac.jp/contents/international-exchange/toyo-iuep/

１．取組内容の進捗状況【（1）と（2）で2ページ以内、（3）（4）で2ページ以内、（5）（6）で合わせて1ページ以

本事業における2022年度の取組内容について記入してください。
（1）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望
①‐1 交流プログラムの内容 インバウンドでは「日韓3+1プログラム」を通じて、8月に9人の留学生が来日し、ビジネス日本語を学んだ。2月にはうち4名が静岡県の民間企業で１ヵ月間のインターンに参加、その後は国内就職を目指し就職活動を行っている。アウトバンドでは、3月には11泊13日の「オーストラリア短期研修」を実施し、全13学部中11学部から14名の学生が参加した。長期派遣については交換留学参加学生に対し、留学前の履修計画やPBL活動の事前指導を実施した。
【特に優れた取組】 「オーストラリア短期研修」はBEVIによる異文化理解能力の伸びが著しく、本プロジェクトが進める多文化共生人材の育成に寄与したと言える。「日韓3+1プログラム」では5名が国内企業で内定を得た（2023年6月）。
①‐2 学生主体の国際交流プログラム オンライン開催の「国際学生ミーティング」では、5カ国の大学と延べ9回実施し、海外から延べ146名、本学から延べ170名の学生が参加した。3月には「東洋大学模擬国連」をオンラインで開催した。世界19の国と地域・46の教育機関から155名の学生が参加し、うち47名が委員長・大使として議論を行った。本学からは大使1名、運営ボランティア12名、聴講者25名が参加した。
【特に優れた取組】 「東洋大学模擬国連」は今年度で4回目となり、学内での認知度が上がったことにより、これまで英語学位プログラムに在籍する学生中心だったが、幅広い学部から運営スタッフ、参加者への応募が増えた。
①‐3 オンライン（「JV-Campus」等）を活用したプログラム JV-Campusと連携し、ビジネス日本語講座等のコンテンツを作成し、有料講座修了者456名に、デジタル修了書を発行した。9月にはマレーシア国民大学（UKM）と「バーチャル国際共同フィールドワーク」を行い、本学の日本人学生9名と留学生9名に、UKMの学生10名がオンラインで参加した。2022年秋学期にはUMAPを基盤とする「オンライン相互科目履修」を実施、５カ国９大学から23科目が登録され、延べ48名が履修した。
【特に優れた取組】 ビジネス日本語講座等のコンテンツは当プロジェクト連携大学には無料で公開しており、当プロジェクトに参加する学生に提供することで、オンラインによる渡日前学習の充実を図っている。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

3月にカーティン大学と本学国際学研究科との間で修士課程レベルでの「ダブルディグリー・プログラム」協定を締結した。実渡航留学・海外研修プログラムでは、留学前後に異文化適応診断（IDI）テストを実施し、変化を学生にフィードバックした。また、異文化理解コンピテンシーを測るBEVIも活用し、教育的効果の可視化に取り組んでいる。

【特に優れた取組】

本プロジェクトの連携大学であるカーティン大学とダブルディグリープログラムの締結したことにより、今後の質の保証を伴った大学間交流の発展が見込まれる。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

本プロジェクトで受け入れた留学生は、2022年1月に完成した混住型国際交流宿舎をベースに留学生活を送っている。宿舎では、レジデントアシスタントや日本人学生とイベント等を通じて活発に交流している。また、受入れ・派遣の双方とも職員による個別相談を定期的に行いサポートしている。メール対応の他、各種プログラムの相談会を複数回実施し、留学を希望する学生の不安が解消

【特に優れた取組】

オンラインによるビジネス日本語ティーチング入門講座を開発し、JV-Campusに連携することで、派遣学生が現地大学での日本語ボランティアに参加する際の資料とするなど、対面でのサポートのみならず、オンラインによる環境整備も進めている。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

本プロジェクト専用の特設Webサイトを開設し、日・英でプログラムについて公開している。また、交流プログラムの実施ごとに、JV-Campusとも連携してウェブサイトにて告知している。国際交流の現状を伝える冊子「Newsletter」を制作し、学内にプログラムの進捗状況を知らせ、国際化の推進を図っている。

【特に優れた取組】

本プロジェクトの連携大学の拡大を「特設Webサイト」により随時告知している。今後、ウズベキスタン国立世界言語大学、リージェンツ大学ロンドン、セントラル・ランカシャー大学、ブラパー大学を告知予定。

（2）特記すべき成果

カーティン大学と本学国際学研究科との間で修士課程レベルでの「ダブルディグリー・プログラム」協定を締結したことは特筆すべき成果と言える。また、当プロジェクトのキックオフ事業としてコロナ禍以降初の実渡航型オーストラリア短期研修を実施した点も大きな成果である。さらに、「日韓3+1プログラム」では国内でインターンシップを経験した留学生のうち、半数以上が国内企業の内定を得た点も当プロジェクトとして大きな成果である。

（3）オンラインを活用した工夫・改善点

連携大学のうち、２セメスター1年間の学生派遣が難しく、半年間の交換留学しかできない場合にも対応できるように、日本語オンデマンド教材を活用して、渡日前教育を実施する準備を整えた。

２．交流学生数の実績等 【（1）（２）はそれぞれ６ページ以内、（３）は１ページ】

（1）交流する学生数について

①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	155	203	323	315	324	315	325	315	336	325	1463	1473
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	5	13	23	20	24	20	25	20	36	30	113	103
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	150	190	300	295	300	293	300	292	300	290	1350	1360
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	2	0	3	0	5	0	10

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	10	0	2	3	15	3	3	3	15	3	45	12
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	10	0	2	3	15	3	3	3	15	3	45	12
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	165	203	325	318	339	318	328	318	351	328	1508	1485
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	15	13	25	23	39	23	28	23	51	33	158	115
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	150	190	300	295	300	293	300	292	300	290	1350	1360
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	2	0	3	0	5	0	10

②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	181	140	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）	38	9								
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生（以下「オンライン」）	A 0 B 143	A 0 B 131	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B
実渡航とオンライン受講を行った学生（以下「ハイブリッド」）	0	0								
達成目標に対する実績の割合	110%	69%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

③：【交流形態別　内訳】（計画）

●申請時の計画調書記載人数

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			15	33	33	40	34	40	35	40	46	50
	実渡航	A/B(学部生または大学院生)	5	13	23	20	24	20	25	20	36	30
	オンライン	A/B(学部生または大学院生)	10	20	10	20	10	20	10	20	10	20
	ハイブリッド											
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			140	170	290	270	290	270	290	270	290	270
	実渡航											
	オンライン	A/B(学部生または大学院生)	140	170	290	270	290	270	290	270	290	270
	ハイブリッド											
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	5	0	5	0	5	0	5
	実渡航											
	オンライン					5		3		2		
	ハイブリッド							2		3		5
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											

●海外相手大学追加調書分

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			10	0	0	0	12	0	0	0	12	0
	実渡航	A(学部生)	10	0	0	0	12	0	0	0	12	0
	オンライン											
	ハイブリッド											
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	2	3	3	3	3	3	3	3
	実渡航	A/B(学部生または大学院生)			2	3	3	3	3	3	3	3
	オンライン											
	ハイブリッド											
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											

●合計

		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		10	0	0	0	12	0	0	0	12	0
	実渡航	10	0	0	0	12	0	0	0	12	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		15	33	35	43	37	43	38	43	49	53
	実渡航	5	13	25	23	27	23	28	23	39	33
	オンライン	10	20	10	20	10	20	10	20	10	20
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		140	170	290	270	290	270	290	270	290	270
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	140	170	290	270	290	270	290	270	290	270
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	5	0	5	0	5	0	5
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	5	0	3	0	2	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	2	0	3	0	5
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

④：【交流形態別　内訳】（実績）

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			27	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	A(学部生)	27									
	オンライン		A 0	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B 0	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド		0									
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0									
	オンライン		A 0	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B 0	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド		0									
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			11	9	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	A(B)(学部生または大学院生)	11	9								
	オンライン		A 0	A 0	A	A	A	A	A	A	A	A
			B 0	B 0	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド		0	0								
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			143	131	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0									
	オンライン		A 0	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		A(B)(学部生または大学院生)	B 143	B 131	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド		0									
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0									
	オンライン		A 0	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B 0	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド		0									
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0									
	オンライン		A 0	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B 0	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド		0									

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

2022年度は長期留学に参加する学生1名に対し、留学先での修学に加えて、留学先大学で日本語授業内での補助や、イベント等で日本の社会・文化について英語で説明を行ったり、国際学生ミーティングへの参加する等、Project Based Learning（PBL)を行うため、渡航前から渡航中の現在も様々な指導を行っている。学生は留学先のオーストラリアで、現地の日本語クラブと東洋大学をZoomでつないでイベントを行う計画を立てたり、日本語の授業での補助を行って活動を続けている。
また、春季休暇期間中に短期海外研修を実施し、11学部14名の学生が13日間のオーストラリア研修に参加した。この研修は、「スパイス、ハーブ、そして時々胡椒－食文化にみる異文化融合のプロセス－」をテーマに「食」という身近なツールから、多民族国家として知られるオーストラリアにおいて、移民の受入れ、文化融合の歴史や過程を学ぶことを目的に実施した。参加学生は、各都市のフィールドに飛び込み、「食」を通して多文化融合の様子を体験した。

【特に優れた取組】
短期研修では、3都市、3大学を訪問し、現地大学生との交流を行う事によって、日本社会・文化について発表を行い、日本の今を伝える活動を行った。また、参加学生においては、本研修を通して、多文化を融合するとは何か、文化融合とはどのようなことなのかを考え、移民問題も含めた日本が抱える現実的な課題についての学びの共有も行った。また、今後の長期留学参加意識の醸成を育み、日本への留学促進にも繋がる活動を行うことができた。
長期留学においては、PBL活動を通して、大学の学修以外での活動を活発化することができ、留学をより充実したものにし、それが学生の将来にも繋がる経験となっている。更に、PBL活動を単位認定する制度も整え、大学での学修のひとつとして定着させることができた。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

・2022年秋学期には、来日前にオンラインで、日本での就職活動について、自己分析等について指導した。また、学生は来日後の長期休暇中である学期開始前に「ビジネス日本語講座」を履修し、BJTビジネス日本語能力テストの受験に向けてビジネス日本語力の向上を図った。
8月に来日した支援対象学生9名は、本学の運営する赤羽台キャンパスにある混住型の国際交流宿舎にて生活している。宿舎で開催されるイベントに参加するなど、レジデントアシスタントをはじめとする居住者との交流を行っている。また、国際課のスタッフが定期的に面談を行い、学習面のサポートやインターンシップへのアドバイスを行うとともに、国際教育センター所属の日本語教員が日本語力伸長の面でもサポートしている。

【特に優れた取組】
韓国から3+1プログラムとして受け入れた9名が安心して学業に専念できるよう、安定した生活環境を提供するため、2023年1月～3月の3か月間は宿舎費補助として毎月51,000円を支給した。

（2）インターンシップの実施状況について

①本事業で計画している交流学生のうちインターンシップに参加する学生数（計画）

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	5	13	23	25	24	25	25	25	36	35	113	123
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	5	13	23	20	24	20	25	20	36	30	113	103
自国にてインターンシップをオンラインで参加する学生（以下「オンライン」）				5		3		2			0	10
実渡航とオンライン参加を行う学生（以下「ハイブリッド」）						2		3		5	0	10

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	2	3	3	3	3	3	3	3	11	12
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）			2	3	3	3	3	3	3	3	11	12
自国にてインターンシップをオンラインで参加する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	5	13	25	28	27	28	28	28	39	38	124	135
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	5	13	25	23	27	23	28	23	39	33	124	115
自国にてインターンシップをオンラインで参加する学生（以下「オンライン」）	0	0	0	5	0	3	0	2	0	0	0	10
実渡航とオンライン参加を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	2	0	3	0	5	0	10

②プログラム全体のインターンシップ参加学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）	0	4								
自国にてインターンシップをオンラインで参加した学生（以下「オンライン」）	A 0	A 0	A	A	A	A	A	A	A	A
	B 0	B 0	B	B	B	B	B	B	B	B
実渡航とオンライン参加を行った学生（以下「ハイブリッド」）	0	0								
達成目標に対する実績の割合	0%	31%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

③：【参加形態別　内訳】（計画）

●申請時の計画調書記載人数

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			5	13	23	20	24	20	25	20	36	30
	実渡航	A/B/F部Ｈまたは大学院Ｈ	5	13	23	20	24	20	25	20	36	30
	オンライン											
	ハイブリッド											
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	5	0	5	0	5	0	5
	実渡航											
	オンライン	A/B/F部Ｈまたは大学院Ｈ				5		3		2		
	ハイブリッド	A/B/F部Ｈまたは大学院Ｈ						2		3		5

●海外相手大学追加調書分

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	2	3	3	3	3	3	3	3
	実渡航	A/B/F部Ｈまたは大学院Ｈ			2	3	3	3	3	3	3	3
	オンライン											
	ハイブリッド											
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											

●合計

		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		5	13	25	23	27	23	28	23	39	33
	実渡航	5	13	25	23	27	23	28	23	39	33
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	5	0	5	0	5	0	5
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	5	0	3	0	2	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	2	0	3	0	5

④：【交流形態別　内訳】（実績）

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0									
	オンライン		A 0	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B 0	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド		0									
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0									
	オンライン		A 0	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B 0	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド		0									
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	4	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	4								
	オンライン		A 0	A 0	A	A	A	A	A	A	A	A
			B 0	B 0	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド		0	0								
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0									
	オンライン		A 0	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B 0	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0									
	オンライン		A 0	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B 0	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド		0									
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0									
	オンライン		A 0	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B 0	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド		0									

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

留学先大学での日本語授業における補助や日本語サークル等への参加を通して、インターンシップ・仕事体験の機会を作り、計画を立てて活動している。今後は長期留学修了後にインターンシップ等を実施するプログラムの計画や、日本語パートナーズの募集を積極的に行うことで、多くの学生のニーズに応えられるようプログラム開発を進めている。

【特に優れた取組】
インターンシップ等の就業体験が、PBLとして単位認定される仕組みを確立したため、学生は自らの活動が卒業単位として評価されることが可能である。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

2022年度秋学期「日韓3+1プログラム」参加者のうち４名が、春休み期間を利用して、約一か月間、リゾートホテルでのインターンに参加した。インターン中は主にフロント業務を担当し、接客やビジネスマナーなどを実践した。

【特に優れた取組】
優れた留学生の獲得は先進諸国の高等教育機関において課題となっており、本学が特に注力しているビジネス日本語力強化及び日本のビジネス社会におけるマナー・習慣等を学生が身につける指導手法は、日本での就業力向上に繋がる高度人材育成モデルとして積極的に宣伝できる。

（３）　その他（上記（１）（２）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
該当なし		人
		人
		人
		人

（4）本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

（ｉ）単位互換を実施する海外相手大学数【計画】　（単位：校）

	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する海外相手大学数	3	5	8	8	8	8	8	8	11	11

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【計画】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学　【大学名：東洋大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
ヨークセントジョン大学	認定者数	A/B(学部生または大学院生)	3	12	12	12	16
	認定単位数	A/B(学部生または大学院生)	40	140	140	140	165
カーディフ大学	認定者数	A/B(学部生または大学院生)	1	1	1	1	2
	認定単位数	A/B(学部生または大学院生)	20	20	20	20	40
カーティン大学	認定者数	A/B(学部生または大学院生)		1	1	1	2
	認定単位数	A/B(学部生または大学院生)		20	20	20	40
カレッジオブニュージャージー	認定者数	A/B(学部生または大学院生)		1	1	1	2
	認定単位数	A/B(学部生または大学院生)		10	10	10	30
釜山外国語大学	認定者数	A(学部生)		1	1	1	1
	認定単位数	A(学部生)		20	20	20	20
仁荷大学	認定者数	A/B(学部生または大学院生)	1	2	2	2	2
	認定単位数	A/B(学部生または大学院生)	20	40	40	40	40
大邱大学	認定者数	A/B(学部生または大学院生)		1	1	1	1
	認定単位数	A/B(学部生または大学院生)		20	20	20	20
シーナカリンウィロート大学	認定者数	A/B(学部生または大学院生)		1	1	1	1
	認定単位数	A/B(学部生または大学院生)		20	20	20	20
チュラロンコン大学	認定者数	A/B(学部生または大学院生)					1
	認定単位数	A/B(学部生または大学院生)					20
チェンマイ大学	認定者数	A/B(学部生または大学院生)					1
	認定単位数	A/B(学部生または大学院生)					20
ダルマプルサダ大学	認定者数	A/B(学部生または大学院生)					1
	認定単位数	A/B(学部生または大学院生)					20
ウズベキスタン国立世界言語大学	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			5	20	20	20	30
年度別認定単位合計			80	290	290	290	435

【2022年度末における目標の達成状況】

（ｉ）単位互換を実施した海外相手大学数【実績】　（単位：校）

	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した海外相手大学数	5									

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【実績】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

（ｉ）代表申請大学　【大学名：東洋大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
ヨークセントジョン大学	認定者数	A(学部生)	5				
	認定単位数	A(学部生)	2名は帰国し認定手続き、3名は留学中				
カーディフ大学	認定者数	A(学部生)	2				
	認定単位数	A(学部生)	留学中				
カーティン大学	認定者数	A/B(学部生または大学院生)	16				
	認定単位数	A/B(学部生または大学院生)	14名は帰国し認定手続き中、2名は留学中				
カレッジオブニュージャージー	認定者数		0				
	認定単位数		0				
釜山外国語大学	認定者数	A(学部生)	13				
	認定単位数	A(学部生)	帰国し単位認定手続き中				
仁荷大学	認定者数		0				
	認定単位数		0				
大邱大学	認定者数		0				
	認定単位数		0				
シーナカリンウィロート大学	認定者数		0				
	認定単位数		0				
チュラロンコン大学	認定者数		0				
	認定単位数		0				
チェンマイ大学	認定者数	A(学部生)	2				
	認定単位数	A(学部生)	留学中				
ダルマプルサダ大学	認定者数		0				
	認定単位数		0				
ウズベキスタン国立世界言語大学	認定者数		0				
	認定単位数		0				
年度別認定者数合計			38	0	0	0	0
年度別認定単位合計			0	0	0	0	0

2. 国内連携大学　【大学名：　】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位合計			0	0	0	0	0

2. 国内連携大学　【大学名：　】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位合計			0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和４年度採択）
令和５年度フォローアップ調査票

大学名 （〇が代表大学）	横浜国立大学			
主な交流先	インド・オーストラリア			
事業名	【和文】	レジリエントな社会への変革をリードする産官学連携ヨコハマ国際教育プログラム		
	【英文】	YOKOHAMA International Education Program for Leading Sustainability Transformation toward a Resilient Society with Industry-Government-Academia		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	（氏　名）	椛島　洋美	（所属・職名）	副学長(国際担当)
	（交替年月日）			

		大学名		国名
		（日本語表記）	（英語表記）	
海外相手大学追加調書分 相手大学名 ※追加調書を提出した大学のみ記入	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用
https://global.ynu.ac.jp/education/education-3001/

１．取組内容の進捗状況【（1）と（2）で２ページ以内、（3）（4）で2ページ以内、（5）（6）で合わせて１ページ以

本事業における2022年度の取組内容について記入してください。

（1）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

①－１ 交流プログラムの内容

学生交流計画に基づき、９名派遣、12名受入の実渡航による相互交流を行い、各協定校学生と本学学生との国際的かつ分野横断型の学修グループによる国際協働学修、国際共同シンポジウム（対面かつオンライン併用により幅広い参加）での成果発表、横浜・神奈川地域の産官学ネットワークを活用したインダストリアルツアー等に取組み、国際教育プログラムとして始動した。2022年度は秋学期に新規科目「SXIP国際協働演習」を開講し、本学学部生を対象に単位化し、今年度は大学院生科目及び副専攻プログラムを新設するとともに、国際協働学修の課題設定にあたり産業界と連携するなど各取組みについて一層の質的向上を図り、本プログラムの更なる実質化に取組む予定である。

【特に優れた取組】

横浜・神流川地域の産官学ネットワークを活用し、印・豪の協定校と共同で、国際協働学修、インターンシップ／インダストリアルツアー、国際共同シンポジウムを実施し、持続可能な未来社会を創造するSX人材育成するための国際教育プログラム（一部単位化）を立ち上げ、2022年度から活発な実渡航（9名派遣、12名受入）による相互交流を実施した。

①－２ 学生主体の国際交流プログラム

印・豪の協定校の学生と分野横断・文理融合の国際学生チームを結成し､現代社会の諸課題の解決に向け、持続可能性を前提にした知的創造活動を、渡航による対面前からオンラインでグループ学修を行なった。これにより、コミュニケーション能力及び英語力を向上させ、国際協働能力を備えるとともに、サステナビリティ課題から事業を構想し、新しい仕組みや新技術の社会実装を目指した演習等を行い、より実践性の高い知の修得を目指した。また、国際シンポジウムでは学生参加型の企画セッション（グループ発表、ポスター発表）による学習効果が得られた。なお、外部評価委員から学生への課題設定にあたり、企業との連携に関する示唆があり、今年度は企業からの課題設定・講評を取り入れる予定である。また、学生アンケートではプログラム全般に対する高い満足度が得られたが、対面グループワーク時間の充実に関する記述もあることから、更にプログラムの内容改善を図る予定である。

【特に優れた取組】

実渡航による対面前から、国際学生チームによるオンラインで協働学修を開始し、効果的な体験・学習成果が得られた。国際協働学修の課題に対する取組みを通じ、SX人材育成に資する学習成果・語学力向上につながった。更に、国際協働学修について、外部評価委員の指摘や教員・学生アンケート等により改善点を抽出し、今後に向けて改善を図った。

①－３ オンライン（「JV-Campus」等）を活用したプログラム
オンラインコンテンツの拡充（プログラムのコンテンツをJV-Campus に搭載）に向け、本プログラムの取組みを印・豪の協定校と幅広く共有した。本プログラムで取り上げる課題を情報発信し、本事業全体の取組みを公表し、その考え方の普及につなげることができるよう拡充に向け、協定校と調整した。また、2022年に本学が採択したユネスコチェア事業と連携し、SDGsに関する著名な教員を招き、本プログラム受講生へ講義を行い、当該講義をJV-Campusに搭載した。今後、来日した学生に提供予定の日本文化に関する授業等にJV-Campusコンテンツを活用するなど更にJV-Campusを活用していく予定である。

【特に優れた取組】
協定校と連携したJV-Campusのコンテンツ拡充に向け、本プログラムの情報共有を図るとともに、ユネスコチェア事業と連携したSDGs課題に関する授業をJV-Campusに搭載するなど本プログラムでJV-Campusを持続的に活用するための準備に取り組んだ。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成
教育到達基準等を明確化して、「SXIP国際協働演習」（学部科目２単位）を新設し、本学学部生に対しては単位を付与し、協定校の修了者に対しては履修証明を発行した。また、外部評価委員会を新設し、継続的に改善する体制を整え、本プログラムの質保証体制を構築した。大学間交流の枠組み形成は、新規協定の締結に加え、部局間協定から大学間協定への拡充を行うとともに、一部の協定校とはダブルディグリー締結に向けた協議を進めた。また、シンポジウムに参加した協定校の教員と一堂に会し、次年度に向けた調整や今後の連携協力を確認するなどプログラム参加校全体の大学間交流の進展も図った。なお、対面参加できなかった協定校も、渡航時に本プログラムについて相互に情報共有するとともに、国際共同シンポジウムを対面・オンライン併用形式で実施することによって、連携体制の更なる深化に資することができた。

【特に優れた取組】
国際的かつ分野横断型学生チームによる国際協働学修により、SX 人材育成に資する学習成果・語学力向上につながった。外部評価委員会の設置によりプログラムの質に対する評価体制を整えた。また、協定校との対面協議による相互理解に加え、大学間交流協定の拡充やダブルディグリー締結の協議など交流の枠組み形成を図った。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

全学体制による企画・運営委員会を設立し、学生受入・派遣体制(公募、選定、派遣サポート、受入サポート、受入行程、宿泊等）を整え、環境整備を行なった。派遣学生は公募により面接を実施して選抜し、学生の学年や専門性を考慮し、学生の希望と合わせて最適な協定校を選択する体制を整備した。受入学生は、本学学生と協働学修によるグループ発表、文化交流、研究室ツアー、企業訪問に取組み、アンケートプログラムに対し、高い満足度を得た。

【特に優れた取組】

円滑な派遣・受入体制構築に向け、各種ルールやサポートに関し、企画・運営委員会等で頻繁に協議を重ね、初年度から実渡航を伴う交流プログラムを始動した。公募要項による選定の上、オンラインの協働学修を経て派遣し、交流を図った。また、受入学生は本学学生との国際交流チームを編成してプログラムを実施し高い満足度を得た。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

本プログラム全体の取組みについて、国際シンポジウムや産学連携セミナーによる成果普及の他、ウェブサイト、JV-Campus、協定校との連携・情報共有等によって多方面へ幅広く発信し、本プログラムの目指す方向性の普及に向けて取組んだ。本事業の採択を機に学内の国際化に対する意識・資源配分等のプライオリティが一層向上すると共に、印・豪との協定拡充により学生・研究者交流も更に進展した。また、本事業による企業連携が留学生就職支援プログラムの取組みとの相乗作用により、各々の目的で企業連携の波及効果につながっている。今後、本プログラムの取組みを全学へ拡大し、更なる学生交流の活性化及び研究者交流による国際的な共同研究の推進につながる体制の充実を図ってまいりたい。

【特に優れた取組】

本取組みを国際シンポジウムや産学連携セミナーの開催によって多方面へ普及すると共に、ウェブサイト、JV-Campus、協定校との連携・情報共有等によって幅広く発信した。印・豪との協定拡充により学生・研究者交流が進展すると共に、本取組みによる企業連携が留学生就職支援プログラムと重なり、各々に相乗効果が図られた。

（2）特記すべき成果

横浜・神流川地域の産官学ネットワークを活用し、印・豪の協定校と共同で、国際協働学修、インターンシップ／インダストリアルツアー、国際共同シンポジウムを実施し、持続可能な未来社会を創造するSX人材育成するための国際教育プログラム（一部単位化）を立ち上げ、初年度から活発な実渡航かつ単位付与を伴う相互交流を実施した。学内に企画・運営委員会や外部評価委員会等を新設し、全学体制のもと統括・運営すると共に、プログラムの質保証体制を構築した。特に、国際シンポジウムでは国際協働グループによる学生参加型の企画セッションの実施による有益な学習効果が得られ、学生アンケートでもプログラムに対する高い満足度が得られると共に、派遣学生の修了前後で語学力向上が図られた。また、印・豪との協定拡充により学生・研究者交流が大いに進展し、ダブルディグリー締結に前向きな協定校が増加した。

（3）オンラインを活用した工夫・改善点

本プログラムの3つの柱のうち、①横浜・神奈川地区インターンシップ／インダストリアルツアーは対面での実施となったが、②国際協働学修と③共同国際シンポジウムは、対面・オンライン併用形式で実施した。その結果、派遣・受入の限定的な学生交流にとどまらず、オンラインのみの学生との交流ができ、協定校とのハイブリッドな連携体制の更なる深化に資することができた。工夫した点は、６つの協定校のうち、コロナ禍等もあり受入が実現できなかった一部の協定校との交流についても、対面実施のインターンシップ・インダストリアルツアー以外のプログラム（国際協働学修や国際シンポジウム）は全てオンライン併用で実施したことにより、対面参加に限りなく同等に近い形で、SDGsに関する課題への学修・成果発表等に取り組むことができた。国際シンポジウムのスケジュールは、3か国の時差を考慮した。特に国際的な分野横断型の学生グループによるオンラインによる国際協働学修にあたっては、国際シンポジウムでのSDGｓに関する課題発表に向け、あらかじめ派遣・受入協定校毎のグループでオンラインでグループワークに取り組んだことから、各協定校学生等の来日後の対面学修、国際シンポジウムでの課題発表、文化交流（休日の観光地案内等）の際に、円滑なコミュニケーションを図り、プログラムを実施することができた。このようなオンラインでの国際協働学修によって、国際シンポジウム課題発表前から行われる事前のグループ学修による課題の相互理解及びコミュニケーションが深まり、プログラムの全体的な取組みにおける実質的な成果が大いに向上した。改善点としては、2022年度シンポジウム中の学生のポスターセッションのオンライン開催は、時差を考慮すると協定校現地時間昼休みと重なり、時間配分等の運用が困難であったことから、今年度は対面のみ実施の予定とした。

２．交流学生数の実績等 【（1）（２）はそれぞれ６ページ以内、（３）は１ページ】

（1）交流する学生数について

①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	12	12	18	18	18	18	18	18	18	18	84	84
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	12	12	18	18	0	0	0	0	0	0	30	30
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	18	18	18	18	18	18	54	54

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	12	12	18	18	18	18	18	18	18	18	84	84
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	12	12	18	18	0	0	0	0	0	0	30	30
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	18	18	18	18	18	18	54	54

②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	9	12	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）	9	12								
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生（以下「オンライン」）	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B
実渡航とオンライン受講を行った学生（以下「ハイブリッド」）										
達成目標に対する実績の割合	75%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

③：【交流形態別　内訳】（計画）

●申請時の計画調書記載人数

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			12	12	18	18	18	17	18	17	18	17
	実渡航		12	12	18	18						
	オンライン											
	ハイブリッド						18	17	18	17	18	17
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	1	0	1	0	1
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド							1		1		1
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											

●海外相手大学追加調書分

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											

●合計

			2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			12	12	18	18	18	17	18	17	18	17
	実渡航		12	12	18	18	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	18	17	18	17	18	17
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	1	0	1	0	1
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	1	0	1	0	1
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

④：【交流形態別　内訳】（実績）

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			9	10	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		9	10								
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	2								
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

2022年度は、公募により実渡航で学生を９名（インド協定校4大学、オーストラリア協定校２大学）を派遣した。
インド・オーストラリアのパートナー大学の学生とチームを組み、①現地対面・オンライン学修併用による SDGs課題に関する協働学修、②神奈川地区インダストリアルツアー・インターンシップ、③国際シンポジウムの成果発表等に取組むプログラムであることを明示して、本プログラムへの募集要項を作成した。学内掲示とホームページへの掲載で公募を行い、協力教員の呼びかけなどを通じて募集した。応募者全員と面談して、選考の結果派遣予定人数を満たす希望があったが、派遣時期や学業との重なりで実際に派遣できた数は計画を下回った。特に、受入時期が12月のクリスマスに近く、航空運賃が高騰したため、追加募集を断念した。
派遣学生の選考にあたり、以下の点に注目した。
①学生の熱意と参加希望理由②専門分野と将来性②成績や英語力
持続可能な未来社会創造する意欲を持ち、国際的に活躍する人材を目指し、積極的に取り組む参加者を選抜することができた。

【特に優れた取組】募集要項の作成から選考まで短時間での実施となったが、始まったばかりのプログラムで知名度がなかったために、協力教員のリクルートが功を奏し、応募者は定員に達した。次年度に向けての課題が数多く見つかった。それを反映して、応募条件として、
・必修科目「SXIP 国際協働演習」（学部）又は「SXIP 国際協働実践演習」（大学院）を履修すること
・派遣前に「海外安全講習」（E-learning）を履修すること・全課題に責任をもって取り組むこと
に加えて、
・派遣前に事前説明会、帰国後に事後報告会を実施して参加すること
・帰国後は研修レポートを書式に沿って作成して提出すること
・帰国前・帰国後の語学スコアを提出すること
という条件を課すことが検討された。派遣学生のレポートは大いに参考になったが、書式等を決めなかったために、不十分なレポートも散見された。次回は、事後報告会を行い、体験談を教員や低学年の学生に伝えるという方式を採用すること、また語学スコアの向上を確認することなど、多くの改善点を得ることができた。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

2022年度は、各協定校による受入学生の選抜により、実渡航で外国人学生12名をインド４大学オーストラリア1大学から受け入れた。
受入れについては、インド・オーストラリアの協定大学それぞれの担当教員に本学のそれぞれの担当教員から、選抜のお願いをした。それそれの協定大学は、独自の方法で選抜を行い、計画人数の受入れを実施することができた。応募者数は受け入れ人数を大幅に上回った大学が多かった。選にもれた学生は、次年度への応募も期待しつつ、上記の本プログラムの3本の柱のうち、①現地対面・オンライン学修併用による SDGs課題に関する協働学修、② 神奈川地区インダストリアルツアー・インターンシップへの参加はできないが、担当教員を通じて、③国際シンポジウムへのオンライン参加を呼びかけた。今回のインダストリアルツアーでは、コロナ禍の影響があり企業訪問には人数制限が設けられた。そのため、参加学生は、受入学生、引率教員、本学在学留学生、日本人学生の順に参加を優先させた。結果として日本人学生の参加は限定的となったが、受入学生は全員参加することができた。宿泊や移動に関してはほとんど問題なく対応することができたが、食事については十分な対応ができなかった。ベジタリアン学生が半数強いたが、かなり厳密なベジタリアンに対応するレストランや食材の購入場所のリサーチが足りなかった。本学留学生の協力で、問題を解決することができたが、今後の重要な課題となった。

【特に優れた取組】多くのパートナー校から受け入れ学生の引率教員がプログラムに参加や参観できた。引率教員と、日本からの派遣学生へのインターンシップの提供について話し合うことができた。本学が企画して実施したプログラムと同様のイベントをインドを訪問した日本からの派遣学生に対しても実施したり、インターンシップを開催することの意味や重要性を共有することができた。
また、今回休日を利用してカルチャーツアーを日本人学生も参加して実施した。２回とも三渓園を訪問し、加えて横浜の歴史を学ぶことができる12月は日本郵船歴史博物館、2月は横浜開港資料館を訪問した。ラビンドラナート・タゴールにゆかりのある横浜を代表する庭園の三渓園では、リラックスした雰囲気の中で、日本人学生とも英語でコミュニケーションを図ることができた。さらに、日本人学生が、横浜・神奈川の歴史を深く知らないことが判明し、世界を知るためにはまず日本を知ること、地元横浜の歴史を知ることの重要性を確認できたことも大きな収穫であった。

（２）インターンシップの実施状況について

①本事業で計画している交流学生のうちインターンシップに参加する学生数（計画）

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	12	12	18	18	18	18	18	18	18	18	84	84
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	12	12	18	18							30	30
自国にてインターンシップをオンラインで参加する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生（以下「ハイブリッド」）					18	18	18	18	18	18	54	54

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）											0	0
自国にてインターンシップをオンラインで参加する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	12	12	18	18	18	18	18	18	18	18	84	84
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	12	12	18	18	0	0	0	0	0	0	30	30
自国にてインターンシップをオンラインで参加する学生（以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	18	18	18	18	18	18	54	54

②プログラム全体のインターンシップ参加学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	6	12	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）	6	12								
自国にてインターンシップをオンラインで参加した学生（以下「オンライン」）	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B
実渡航とオンライン参加を行った学生（以下「ハイブリッド」）										
達成目標に対する実績の割合	50%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

③：【参加形態別　内訳】（計画）

●申請時の計画調書記載人数

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			12	12	18	18	18	17	18	17	18	17
	実渡航		12	12	18	18						
	オンライン											
	ハイブリッド						18	17	18	17	18	17
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	1	0	1	0	1
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド							1		1		1
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											

●海外相手大学追加調書分

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											

●合計

			2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			12	12	18	18	18	17	18	17	18	17
	実渡航		12	12	18	18	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	18	17	18	17	18	17
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	1	0	1	0	1
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	1	0	1	0	1
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

④：【交流形態別　内訳】（実績）

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数			6	10	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		6	10								
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航			2								
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

2022年度の派遣は、受入大学と引率教員の予定なども考慮してそれぞれ調整して、1月から3月に実施した。
まず、IITK（機械系2名）では、研究室インターンシップを軸に、大手航空会社への訪問が企画された。今回の参加学生は、訪問研究室と共同研究を開始できるかの可能性を確かめることも目的として派遣された。研究室の活動に参加し、学生が研究に必要な学術的なスキルを習得する機会が準備されていた。パンジャブ大学では、研究室インターンシップのほか、インダストリアルツアー（プロテクター製造企業)が企画されていた。また、インドが国際経済協力のための主要フォーラムG20の議長国を務めていたことから、大学内で関連イベントがあり、そこで持続可能な開発、健康、農業、エネルギー、環境、気候変動などのテーマの討論に加わる機会を得ることができた。アンナ大学では、一流講師による講義中心のインターンシップが計画され、研究室インターンシップと合わせて、学んだ知識を実際の事例に適用し、解決策を提案したり、チームメンバーと協力して実践的な課題に取り組むことができた。VITでは、学内のラボツアーやイベント（CHEM-A-THON)に参加するインターンシップが準備されていた。CHEM-A-THONは、学生が自分の業績をアピールし、仲間とアイデアを共有し、教授陣や研究者、業界の専門家と議論を交わすのに役立つユニークな環境を作り出すもので、論文作成の模擬体験をすることができた。また、チェンナイの企業（香料関係）へのインダストリアルツアーが企画された。
UONでは、受入教員がセンター長を務める研究所での研究室インターンシップを中心に、大学院講義に出席するなどの経験を積むことができた。
グリフィス大では、講義（ファイナ ンシャルプランニングと事業モデル）のほか、フィール ドワーク（環境NGO団体主催の活動に参加）して、研修が中心のインターンシップを実施した。
【特に優れた取組】インターンシップは、協定大学、特にインドで活発に行われており、通常、短期でも数週間から数ヶ月にわたる期間実施され、長期はそれ以上の期間に及ぶ。今回は全学生が短期の滞在であったために、研修が中心のインターンシップや講義中心のインターンシップが企画された。派遣学生に対しては、インドでは上述のように日本の大学にはないG20関連のイベントやCHEM-A-THON、インドへ進出している日本企業での実体験など、さまざま形態を体験することができた。インダストリアルツアーとインターンシップは、ともに業界や職場に関する知識や経験を得るための貴重な機会であるが、今回の長くて数日間の体験は、単なる工場見学ではなく、実際の業務の擬似体験をし、経験を通じて専門的なスキルや知識を習得することができたことは、新しい形のインターンシップとして大きな収穫であった。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

2022年度の受入れは、受入大学とそれぞれ調整して、12月と2月に実施した。
12月には、IITK（機械系2名）、アンナ大とVIT（化学工学系4名）のインダストリアルツアーの訪問先の検討を行った。学生の所属の分野は大きく2つあり、大学院生と学部学生が混ざっていたが、少人数であり、また分野横断という観点から、1グループとして分野の選択に時間を費やした。その結果、ものづくりや最先端の科学技術を実体験できる三菱みなとみらい技術館、地球シミュレータやスーパーコンピュータで海洋環境調査も行っているJAMSTEC（海洋研究開発機構）、サイエンスに立脚した基礎研究を中心に様々な材料を中心とした要素技術を見学できる三菱ケミカル（Science & Innovation Center）、サステナブルな世界の実現に向けてICTの最先端の研究開発を体験できる富士通研究所を選定し、各企業等に協力頂き、それぞれ担当者と参加学生の特徴や学習効果を考えて、資料の準備、企業説明の講師やファシリテーターの手配、現地見学の計画などを調整して、大学のカリキュラムには含まれていないような実践的なスキルや知識を補完することを依頼して、プログラムを実施した。
2月には、UON（物質材料系2名）、パンジャブ大（化学工学系２名）に別のプロジェクトで短期滞在していたVIT（化学工学系２名）のインダストリアルツアーの訪問先の検討を行った。今回も12月と同様の理由で1グループとしての訪問プログラムを設定した。インドで古くからビジネスを展開している国内唯一の鍛造用スクリュープレスメーカーの榎本機工、油圧を核に振動制御とパワー制御技術を駆使した製品をグローバルに提供しているカヤバ工業の資料館、マテリアルを中心に最先端技術の方向性を多岐にわたって紹介している東芝未来科学館、12月と同じくJAMSTEC、バイオマスによる発電事業に取り組むJFEエンジニアリングを選定し、各企業等に協力頂き、それぞれ担当者と12月と同じ目的で研修が中心のインターンシップを実施した。
【特に優れた取組】2回に分けてインダストリアルツアーを実施したが、いずれも公的研究機関のJAMSTECで、先端研究を実施に行っている研究者から、最先端の研究成果等の話を聞き、また、大手企業の展示館では日本の技術の歴史と未来の持続可能社会への技術の役割について俯瞰することができた。それぞれ2つの企業では、研究機関の経験豊富なプロフェッショナルから特定の専門分野や業界における知識を習得することができ、研修中心のインターンシップとして、成果を上げることができた。また、今回、どちらも引率教員が複数名同行できたために、日本からの派遣学生に対しても今後同様のインターンシップをインドで開催することを依頼することができた。派遣学生と同様、受入学生に対しても、研修中心のインターンシップや講義中心のインターンシップを実施することができた。

（3）　その他（上記（1）（2）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

（4）本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

（ｉ）単位互換を実施する海外相手大学数【計画】　（単位：校）

	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する海外相手大学数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【計画】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学　【大学名：横浜国立大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
Grifith University	認定者数	A(学部生)	2	4	4	4	4
	認定単位数	A(学部生)	2	4	4	4	4
University of Newcastle	認定者数	A(学部生)	0	2	2	2	2
	認定単位数	A(学部生)	0	2	2	2	2
University of Newcastle	認定者数	B(大学院生)	2	2	2	2	2
	認定単位数	B(大学院生)	2	2	2	2	2
Panjab University	認定者数	A(学部生)	0	2	2	2	2
	認定単位数	A(学部生)	0	2	2	2	2
Panjab University	認定者数	B(大学院生)	2	2	2	2	2
	認定単位数	B(大学院生)	2	2	2	2	2
IIT Kanpur	認定者数	B(大学院生)	2	2	2	2	2
	認定単位数	B(大学院生)	2	2	2	2	2
Anna University	認定者数	B(大学院生)	2	2	2	2	2
	認定単位数	B(大学院生)	2	2	2	2	2
VIT	認定者数	B(大学院生)	2	2	2	2	2
	認定単位数	B(大学院生)	2	2	2	2	2
年度別認定者数合計			12	18	18	18	18
年度別認定単位合計			12	18	18	18	18

【2022年度末における目標の達成状況】

（ｉ）単位互換を実施した海外相手大学数【実績】　（単位：校）

	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した海外相手大学数	0	0								

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【実績】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

（ｉ）代表申請大学　【大学名：横浜国立大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
Grifith University	認定者数	A(学部生)	0				
	認定単位数	A(学部生)	0				
University of Newcastle	認定者数	A(学部生)	0				
	認定単位数	A(学部生)	0				
University of Newcastle	認定者数	B(大学院生)	0				
	認定単位数	B(大学院生)	0				
Panjab University	認定者数	A(学部生)	0				
	認定単位数	A(学部生)	0				
Panjab University	認定者数	B(大学院生)	0				
	認定単位数	B(大学院生)	0				
IIT Kanpur	認定者数	B(大学院生)	0				
	認定単位数	B(大学院生)	0				
Anna University	認定者数	B(大学院生)	0				
	認定単位数	B(大学院生)	0				
VIT	認定者数	B(大学院生)	0				
	認定単位数	B(大学院生)	0				
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位合計			0	0	0	0	0

2. 国内連携大学　【大学名：　　大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位合計			0	0	0	0	0

2. 国内連携大学　【大学名：　　大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位合計			0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和４年度採択）
令和５年度フォローアップ調査票

<table>
<tr><td>大学名
（〇が代表大学）</td><td colspan="4">新潟大学</td></tr>
<tr><td>主な交流先</td><td colspan="4">インド・オーストラリア</td></tr>
<tr><td rowspan="2">事業名</td><td>【和文】</td><td colspan="3">インド太平洋地域の「仮想フィールド」を利活用したハイブリッド型フィールド科学人材育成プログラム</td></tr>
<tr><td>【英文】</td><td colspan="3">Human Resource Development Program on Field Science Research in the Indo-Pacific Region</td></tr>
<tr><td rowspan="2">事業責任者
※交替年月日は変更があった場合のみ記入</td><td>（氏　名）</td><td>坪井　望</td><td>（所属・職名）</td><td>副学長（国際交流）</td></tr>
<tr><td>（交替年月日）</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="11">海外相手大学追加調書分
相手大学名

※追加調書を提出した大学のみ記入</td><td colspan="3">大学名</td><td rowspan="2">国名</td></tr>
<tr><td></td><td>（日本語表記）</td><td>（英語表記）</td></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用
https://www.sc.niigata-u.ac.jp/s-earth/

１．取組内容の進捗状況【（1）と（2）で２ページ以内、（3）（4）で2ページ以内、（5）（6）で合わせて１ページ以内】

本事業における2022年度の取組内容について記入してください。

（1）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

①－１ 交流プログラムの内容

本事業は，自然や文化の異なるインド太平洋地域の学生が，環境に関わる課題解決へ向けて主体的に協働学習することによって，環境保全と産業発展との両立へ向けた課題を抽出し，持続可能な産業発展および資源開発に貢献できるフィールド科学人材を養成する取組である。2022年度は，運営体制の構築，シラバスの作成，受入・派遣体制の準備，各大学との交流協定締結に取り組んだ。また，2023年度からの本格実施に備え，学生のオンライン交流およびテスト派遣を実施した。

オンライン教材として活用するためのフィールド撮影が中止・延期となったため（2023年度へ予算繰越），外部評価委員会の設置・開催等含め全体的に後ろ倒しとなった。フィールド撮影に関しては，2023年7月に撮影・作成計画中である。

【特に優れた取組】

2023年2月に，インド，オーストラリア，スリランカの各大学教員と共に，2023年度の交流プログラムで訪問を予定している県内施設の視察およびフィールド巡検を行った。糸魚川市にあるフォッサマグナミュージアムは，国際的に価値のある地質遺産として認定された糸魚川ユネスコ世界ジオパークの教育・研究に関わる中核的な文化施設である。自然科学の研究および教育がどのように地域振興等へ活用されるのか理解を深めることによって，自然と人間との共生および持続可能な開発を実現する人材育成が海外学生にとっても有益となることを参加者全員で確認した。

①－２ 学生主体の国際交流プログラム

2023年2月にかけて，「①－３」で詳述するインタラクティブな学習法を用いた遠隔授業のオンライン交流プログラムを実施した。また，2022年度の現地派遣予定人数はゼロであったが，2023年3月に，ウーロンゴン大学へ本学大学院生1名のテスト派遣を実施し，現地教員のミニ講義を受講後に，ウーロンゴン大学近傍にあるウーロンゴンビーチおよびコリンズポイントパークにてフィールド実習を行った。フィールドで学生が取り組んだ内容や水準を参考に，オンライン授業・交流の内容へとフィードバックさせてゆく。

【特に優れた取組】

本事業で構築する予定の教育プラットフォームは，オンラインで学習した内容を現場（フィールド）で確かめるステップアップ形式の点が最大の特色である。参加学生は，自分の知識背景だけでなく，ミニ講義による新しい情報に基づいて現地のフィールドを視察し，現地スタッフとの議論を経て，未着手，未解明の地域課題へと取り組む新たな研究テーマの立案および解決方策の提示をした。この課題設定は，地域のフィールド科学に貢献し，国際的にも新規性を期待できるものだと現地教員から評価されている。このテスト派遣では，課題の設定および解決方策の提示までとなったが，実際の中期・長期派遣を通して，本事業の目的である「参加学生がリーダーとして取り組む地域の課題解決」は実現可能であることを例証した。

①－３ オンライン（「JV-Campus」等）を活用したプログラム

2023年2月に，インタラクティブな学習法を用いた遠隔授業のオンライン交流プログラムを実施した。地球表層環境のフィールド素材を題材とした遠隔授業に，日本から19名，インドから25名，スリランカから4名の参加があり，グループワークを含む協働学習に取り組んだ。参加者のネットワーク環境によっては音声・映像が途切れるなど技術的な問題が生じており，2023年度以降に実施する交流形式の改良に役立てる。

【特に優れた取組】

複数国の学生によるオンライン交流では，学生にとって不慣れな国際交流をどのようにして円滑に進めさせるかが課題であった。試行となるオンライン交流プログラムでは，答えの導きやすい自然に関わる課題・討論を複数セットこなすスモールステップのグループワークとすることで，課題解決に向けた討論およびプレゼンテーションを行うことができた。遠隔授業によるインタラクティブな学習法が有効であることを示すことができた。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

新潟大学と海外大学による各種運営委員会，事業統括・運営を行う理学部国際教育センターを設置した。プログラム運営に対し，学外の有識者による「外部評価委員会」を設置した。12月以降，国外連携運営委員会，新潟大学プログラム運営委員会，国際連携プログラム運営委員会を複数回開催し，事業の詳細を検討するとともに，2023年度に実施する受入・派遣の時期，人数，内容について検討し，全委員の合意を得た。特に，グループワークに関わる学生への対応やフィールドワーク中における安全および健康への配慮について課題が提示され，2023年度からの本格実施に向けて事前準備を進めている。

教育プログラムの質を保証するために，学部・大学院向けの実施要項および修了要件を制定した。新設科目の日英シラバスを作成し，単位互換を明確化した。梅雨時期に受入を実施するため，天候に応じた実施内容の検討が必要となる。

【特に優れた取組】

インド，オーストラリアの5大学（印：インド工科大学カーンプル校，インド工科大学ルールキー校，コーチン科学技術大学，豪：ウーロンゴン大学，マッコーリー大学）と大学間交流協定締結を行った。また，ペラデニア大学とはダブルディグリープログラム（DDP）協定を締結した。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

理学部国際教育センター主導の下，遠隔オンラインで国際協働学習を実施できるミーティングルームを整備した。ミーティングルームには，デジタル黒板1台，大型モニター2台を設置しており，本学学生と海外からの受入学生がグループワークをする際に利用される見込みである。

本事業は，資料や教材を活用した講義だけでなく，学習内容を実際のフィールドで確かめるオンサイトの実習も含まれる。このオンサイト実習による教育を，安全かつ効果的なものにするため，フィールドワークを実施する予定人数分のフィールド用装備（ヘルメット，沢靴，キャンプ用設備，緊急連絡用衛星携帯電話，フィールド専用防水タブレットなど）を購入した。2023年度の海外学生からの申込人数は，当初の受入人数を大幅に超過することが判明している。受入開始前までに，不足分の装備を整える必要がある。

【特に優れた取組】

オンライン学習に活用されるデジタル教材の作成に向けて，フィールドで活用できる撮影機材を購入した。これらの機材を用いて撮影したデジタル教材の一部は，2023年2月に実施したオンライン交流プログラムの試行によって活用されており，JV-Campusへの素材提供へ向けてデータを準備中である。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

2023年2月に，本事業を紹介するためのキックオフシンポジウムを開催し，海外・学外から計24名，学内の教職員・学生計43名が参加した。

事業内容を紹介するウェブサイトおよびSNSアカウント（TwitterおよびFacebook）を開設し，逐次情報の発信を行った。高校訪問や高校教師向けの講演会など，高大接続に寄与するアウトリーチ活動も実施した。

【特に優れた取組】

本事業による協定締結および学生交流に伴い，研究者の国際交流も促進されている（外国人研究者の来学15件，各国研究者との現地またはオンライン交流15件）。また，新潟県内の高校から問い合わせがあり，本事業で一部想定したフィールド実習に，高校生2名を試験的に受け入れた。

（2）特記すべき成果

2023年2月に，本事業のキックオフシンポジウムを開催した。インドの5大学，オーストラリアの1大学，スリランカの1大学を含む計7大学が現地参加をし，オーストラリアのウーロンゴン大学はオンラインで参加した。海外・学外から計24名，学内の教職員・学生計43名が参加した。事業内容，各大学の代表者による大学紹介および本事業で提供されるフィールドの説明，国際交流等に関する講演が行われた。今後，インド太平洋地域の9校と連携を深めながら，学生の相互派遣や協同学習を通じ，資源や環境を効率的に利用する持続可能な社会の構築に貢献できる国際的な人材の育成を円滑にすすめることができる。

インド，オーストラリアの5大学と大学間交流協定締結，また，ペラデニア大学とはダブルディグリープログラム（DDP）協定を締結した。

（3）オンラインを活用した工夫・改善点

オンライン交流プログラムでは，参加学生の主体的学習を促すアクティブラーニングの形式とした。大局的な課題をスモールステップで解決へと導かせるため，各セッションは，イントロダクション，講義，グループワーク，まとめの4部構成とした。参加者はグループワークを含む協働学習に取り組み，課題解決に向けた討論およびプレゼンテーションを行った。文化的背景の異なる各国学生を円滑に交流させるため，数名のチームに振り分けるブレイクアウトルーム機能を使用してグループワークを実施した。ホストとなる教員が各グループのルームに適宜入室し，進行に役立つ情報提示や討論内容の調整を行った。

オンライン交流の効果を把握するために，参加学生を対象にアンケートを実施した。その結果，目的や内容については概ね好評であったが，一部にネットワークや音声通信といった参加環境における問題が見受けられた。

２．交流学生数の実績等 【（1）（２）はそれぞれ６ページ以内、（３）は１ページ】

（1）交流する学生数について

①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	20	20	60	65	65	70	65	70	80	85	290	310
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	20	20	40	40	40	40	40	40	50	50	190	190
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	20	25	25	30	25	30	30	35	100	120

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	20	20	60	65	65	70	65	70	80	85	290	310
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	20	20	40	40	40	40	40	40	50	50	190	190
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	20	25	25	30	25	30	30	35	100	120

②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	20	29	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）	1	0								
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生（以下「オンライン」）	A B 19	A B 29	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B
実渡航とオンライン受講を行った学生（以下「ハイブリッド」）	0	0								
達成目標に対する実績の割合	100%	145%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

③：【交流形態別　内訳】（計画）

●申請時の計画調書記載人数

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	50	54	51	55	51	55	62	65
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	大学(学部を含む)	0	0	40	40	40	40	40	40	50	50
	ハイブリッド	大学(学部を含む)	0	0	10	14	11	15	11	15	12	15
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	6	7	8	10	8	10	9	13
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	大学(学部を含む)	0	0	6	7	8	10	8	10	9	13
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	4	4	6	5	6	5	9	7
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	大学(学部を含む)	0	0	4	4	6	5	6	5	9	7
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			20	20	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	大学(学部を含む)	20	20	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●海外相手大学追加調書分

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●合計

			2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	50	54	51	55	51	55	62	65
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	40	40	40	40	40	40	50	50
	ハイブリッド		0	0	10	14	11	15	11	15	12	15
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	6	7	8	10	8	10	9	13
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	6	7	8	10	8	10	9	13
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	4	4	6	5	6	5	9	7
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	4	4	6	5	6	5	9	7
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			20	20	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		20	20	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

④：【交流形態別　内訳】（実績）

		学生別	2022年度				2023年度				2024年度				2025年度				2026年度			
			派遣		受入		派遣		受入		派遣		受入		派遣		受入		派遣		受入	
【交流形態別　内訳】																						
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	
	実渡航		0		0																	
	オンライン		A	0	A	0	A		A		A		A		A		A		A		A	
			B	0	B	0	B		B		B		B		B		B		B		B	
	ハイブリッド		0		0																	
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	
	実渡航		0		0																	
	オンライン		A	0	A	0	A		A		A		A		A		A		A		A	
			B	0	B	0	B		B		B		B		B		B		B		B	
	ハイブリッド		0		0																	
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	
	実渡航		0		0																	
	オンライン		A	0	A	0	A		A		A		A		A		A		A		A	
			B	0	B	0	B		B		B		B		B		B		B		B	
	ハイブリッド		0		0																	
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			20		29		0		0		0		0		0		0		0		0	
	実渡航	B(大学院生)	1		0																	
	オンライン		A	0	A	0	A		A		A		A		A		A		A		A	
		A(学部生または大学院生)	B	19	B	29	B		B		B		B		B		B		B		B	
	ハイブリッド		0		0																	
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	
	実渡航		0		0																	
	オンライン		A	0	A	0	A		A		A		A		A		A		A		A	
			B	0	B	0	B		B		B		B		B		B		B		B	
	ハイブリッド		0		0																	
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	
	実渡航		0		0																	
	オンライン		A	0	A	0	A		A		A		A		A		A		A		A	
			B	0	B	0	B		B		B		B		B		B		B		B	
	ハイブリッド		0		0																	

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

2023年2月16～17日にかけて，インタラクティブな学習法を用いた遠隔授業のオンライン交流プログラムを実施した。この遠隔授業には，日本から19名の参加があった。授業内容は，堆積学を中心とした地球表層環境のフィールド素材を題材としたものであった。

各セッションは，イントロダクション，講義，グループワーク，まとめの4部構成であった。参加者はグループワークを含む協働学習に取り組み，課題解決に向けた討論およびプレゼンテーションを行った。オンライン交流の効果を把握するために，参加学生を対象にアンケートを実施した。その結果，目的や内容については概ね好評であったが，一部にネットワークや音声通信といった参加環境における問題が見受けられた。試行となるこのオンライン交流プログラムは，遠隔授業によるインタラクティブな学習法が有効であることを示し，2023年度以降に実施する交流形式の改良に役立つ機会となった。

【特に優れた取組】

2023年3月27～31日にかけて，ウーロンゴン大学へ本学大学院生1名のテスト派遣を実施した。まず，現地教員のミニ講義を通して，オーストラリアの自然史およびニューサウスウェールズ州の特徴について紹介があり，学内にある自然史系展示を前に解説していただいた。解説を踏まえた上で，ウーロンゴン大学近傍にあるウーロンゴンビーチおよびコリンズポイントパークにて，フィールド実習を行った。

参加学生は，自分の知識背景だけでなく，ミニ講義による新しい情報に基づいて現地のフィールドを視察し，現地スタッフとの議論を経て，未着手，未解明の地域課題へと取り組む新たな研究テーマの立案および解決方策の提示をした。この課題設定は，地域のフィールド科学に貢献し，国際的にも新規性を期待できるものだと現地教員から評価されている。このテスト派遣では，課題の設定および解決方策の提示までとなったが，実際の中期・長期派遣を通して，本事業の目的である「参加学生がリーダーとして取り組む地域の課題解決」は実現可能だといえる。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

2022年度は，オンライン交流のみ計画しており，「⑤：交流プログラム（派遣）の進捗状況のコメント」と同様に受入を実施した。このオンライン交流プログラムでは，インドから25名，スリランカから4名を受け入れた。

【特に優れた取組】

同上

（2）インターンシップの実施状況について

①本事業で計画している交流学生のうちインターンシップに参加する学生数（計画）

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	20	25	25	30	25	30	30	35	100	120
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にてインターンシップをオンラインで参加する学生（以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	20	25	25	30	25	30	30	35	100	120

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にてインターンシップをオンラインで参加する学生（以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	20	25	25	30	25	30	30	35	100	120
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にてインターンシップをオンラインで参加する学生（以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	20	25	25	30	25	30	30	35	100	120

②プログラム全体のインターンシップ参加学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）	0	0								
自国にてインターンシップをオンラインで参加した学生（以下「オンライン」）	A 0	A 0	A	A	A	A	A	A	A	A
	B 0	B 0	B	B	B	B	B	B	B	B
実渡航とオンライン参加を行った学生（以下「ハイブリッド」）	0	0								
達成目標に対する実績の割合	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

③：【参加形態別　内訳】（計画）

●申請時の計画調書記載人数

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	20	25	25	30	25	30	30	35
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	20	25	25	30	25	30	30	35
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●海外相手大学追加調書分

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●合計

		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	0	20	25	25	30	25	30	30	35
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	20	25	25	30	25	30	30	35
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

④：【交流形態別　内訳】（実績）

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		A 0	A 0	A	A	A	A	A	A	A	A
			B 0	B 0	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド		0	0								
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

2022年度は，2023年度からの本格的に実施するフィールド系企業にて企業見学会あるいはインターンシップに向けて，各国大学から訪問先の候補となる企業，官公庁の検討を行った。具体的な内容は，国外プログラム運営委員会と受入先となる企業の調整後に決定される見込み。

【特に優れた取組】
同上

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

新潟県内にある複数のフィールド系企業と協議し，受入先および実施内容を決定した。

【特に優れた取組】
新潟県糸魚川市は，国際的な地質遺産として認定された糸魚川ユネスコ世界ジオパークに加え，それら自然資源を社会に活用・還元させており，本事業の目指す持続可能な地域開発のモデルとなる都市である。2022年度は，糸魚川市の取り組む産官連携を，本事業のフィールド実習先およびインターンシップ先として決定した。本学と連携して人材育成に取り組む素地を整えた。

（3） その他（上記（1）（2）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

（4）本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

（ｉ）単位互換を実施する海外相手大学数【計画】　（単位：校）

	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する海外相手大学数	0	0	9	9	9	9	9	9	9	9

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【計画】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学　【大学名：　大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
短期・中期・長期オンライン型プログラム（インド理科大学院大学, インド）	認定者数	A/B(学部または大学院生)	0	26	0	2	3
	認定単位数	A/B(学部または大学院生)	0	28	0	6	6
短期・中期・長期オンライン型プログラム（コーチン科学技術大学, インド）	認定者数	A/B(学部または大学院生)	0	2	0	25	5
	認定単位数	A/B(学部または大学院生)	0	2	0	27	10
短期・中期・長期オンライン型プログラム（インド工科大学ルールキー校, インド）	認定者数	A/B(学部または大学院生)	0	0	4	0	19
	認定単位数	A/B(学部または大学院生)	0	0	6	0	21
短期・中期・長期オンライン型プログラム（インド工科大学カーンプル校, インド）	認定者数	A/B(学部または大学院生)	0	0	27	0	3
	認定単位数	A/B(学部または大学院生)	0	0	32	0	6
短期・中期・長期オンライン型プログラム（インド宇宙科学技術大学, インド）	認定者数	A/B(学部または大学院生)	0	2	0	2	19
	認定単位数	A/B(学部または大学院生)	0	2	0	3	23
短期・中期・長期オンライン型プログラム（ペラデニア大学, スリランカ）	認定者数	A/B(学部または大学院生)	0	0	14	16	1
	認定単位数	A/B(学部または大学院生)	0	0	17	19	4
短期・中期・長期オンライン型プログラム（カーティン大学, オーストラリア）	認定者数	A/B(学部または大学院生)	0	26	2	2	26
	認定単位数	A/B(学部または大学院生)	0	34	6	6	34
短期・中期・長期オンライン型プログラム（ウーロンゴン大学, オーストラリア）	認定者数	A/B(学部または大学院生)	0	2	16	2	2
	認定単位数	A/B(学部または大学院生)	0	6	24	6	6
短期・中期・長期オンライン型プログラム（マッコーリー大学, オーストラリア）	認定者数	A/B(学部または大学院生)	0	2	2	16	2
	認定単位数	A/B(学部または大学院生)	0	6	6	24	6
年度別認定者数合計			0	60	65	65	80
年度別認定単位合計			0	78	91	91	116

【2022年度末における目標の達成状況】

（ｉ）単位互換を実施した海外相手大学数【実績】　（単位：校）

	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した海外相手大学数	0	0								

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【実績】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

（ｉ）代表申請大学　【大学名：　大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
短期・中期・長期オンライン型プログラム（インド理科大学院大学, インド）	認定者数		0				
	認定単位数		0				
短期・中期・長期オンライン型プログラム（コーチン科学技術大学, インド）	認定者数		0				
	認定単位数		0				
短期・中期・長期オンライン型プログラム（インド工科大学ルールキー校, インド）	認定者数		0				
	認定単位数		0				
短期・中期・長期オンライン型プログラム（インド工科大学カーンプル校, インド）	認定者数		0				
	認定単位数		0				
短期・中期・長期オンライン型プログラム（インド宇宙科学技術大学, インド）	認定者数		0				
	認定単位数		0				
短期・中期・長期オンライン型プログラム（ペラデニア大学, スリランカ）	認定者数		0				
	認定単位数		0				
短期・中期・長期オンライン型プログラム（カーティン大学, オーストラリア）	認定者数		0				
	認定単位数		0				
短期・中期・長期オンライン型プログラム（ウーロンゴン大学, オーストラリア）	認定者数		0				
	認定単位数		0				
短期・中期・長期オンライン型プログラム（マッコーリー大学, オーストラリア）	認定者数		0				
	認定単位数		0				
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位合計			0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和４年度採択）
令和５年度フォローアップ調査票

大学名 （○が代表大学）	国立大学法人千葉大学			
主な交流先	英国・インド・オーストラリア			
事業名	【和文】	グローバル地域ケアIPEプラス創生人材の育成プログラム（GRIP Program）		
	【英文】	Global & Regional Interprofessional Education Plus Program（GRIP Program）		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	（氏　名）	諏訪　さゆり	（所属・職名）	大学院看護学研究院長
	（交替年月日）			

海外相手大学追加調書分 相手大学名 ※追加調書を提出した大学のみ記入	大学名			国名
		（日本語表記）	（英語表記）	
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用
https://www.n.chiba-u.jp/grip/about.html

１．取組内容の進捗状況 【（１）と（２）で２ページ以内、（３）（４）で2ページ以内、（５）（６）で合わせて１ページ

本事業における2022年度の取組内容について記入してください。
（１）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望
①－１ 交流プログラムの内容 本プログラムは日本、インド、イギリス、オーストラリアからの多様な専門性を持つ学生がチームを形成し、相互に学び合いながら自国や渡航国の社会課題解決に取り組むものである。2022年度はインドのシンビオシス国際大学（SIU）と連携し、トライアルとして派遣・受入各10名、計20名の学生交換を実施した。インドでは「貧困や障害等の困難な状況下の子どもの支援」を、日本では「高齢者の健康と地域包括ケアシステム」をテーマとして、各参加学生は関連施設や組織での活動に参加した。事後学習として両国の参加学生らによる成果発表会をMetaverseプラットフォームにて開催した。参加学生は渡航先および自国内でも相互がバディとして演習等に同行・同席するなどして交流し、共同学習を実施した。課題として、①SIU学生の多様性の確保、②事前学習および準備の時間不足、③現地演習における学習デザイン及びマテリアルの洗練、④日印間での使用デバイス、学習管理システム(LMS)の互換性の確保が明確となった。これらを踏まえ、2023年度実施についてSIUとの調整を開始した。外部評価委員会による評価会議は2023年6月に予定している。同時に2025年度以降のプログラム実施に向け準備に着手した。
【特に優れた取組】 日本とインドの参加学生は渡航先での現地演習の他、自国内においてもバディとして相互に演習に同行・同席し、前後にはMetaverseプラットフォーム上にて共同学習を行うといった、実渡航より長期かつ多様な形式での国際共同学習となるプログラムを開発・提供した。
①－２ 学生主体の国際交流プログラム 事前学習では日印双方の参加学生作成の自己紹介動画または文書を閲覧し、学生間の交流を推進し、さらに、渡航先での現地演習では日印の学生がバディを組んで行動した。加えてMetaverseを学生が自由に利用できるようにオンライン上の学習室として設置・提供した。学生の負担増のリスクがあり、2023年度はそれを考慮した上でバディ学生の人数や同行時間の調整を行うこととしている。
【特に優れた取組】 参加学生が渡航先のみならず、自国内での受入学生のフィールド演習に同行するバディ方式が豊富な交流の機会・時間を提供することなり、かつオンライン上の学習室であるMetaverseプラットフォーム設置・提供が学生の主体的な交流を推進した。

①－3 オンライン（「JV-Campus」等）を活用したプログラム

JV-Campusには事前学習コンテンツを掲載・公開済みであり、活用していく方針である。本学利用の学習管理システムLMSにて本事業を展開するため、SIU学生及び教職員のアカウントを取得するなどしたが、SIU側がログイン困難として、急遽、他のグループチャットシステム使用に変更した。日印の参加学生や関係者が、現地演習および前後もチャットや資料を共有できるように設定し、運用した。Metaverseは渡航前・中・後においてオリエンテーションや学生同士の自主的な共同学習、日印共同の学習成果発表会の場として活用した。課題としてLMS使用のためのログイン困難などが明らかとなった。これに対して、日本の担当者がSIUに6月に赴き、ログインやLMSの使用法を直接、指導することとしている。

【特に優れた取組】

予定していたLMSが使用不可となった時点で柔軟に他のツール使用に切り替え、結果として参加学生全員を関係者全員が支援できる運用体制へと変更した。Metaverseプラットフォームの構築・提供によって参加学生の自主的交流が進み、さらに学生および関係者が新たなオンラインでの学習活動を体験するに至った。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

本プログラムは、一部の学部間だけでなく全学での学生交流を目標としており、さらに本学が核となって複数海外提携大学との連携を行う点が特徴である。そのため、SIU（インド）の国際教育センター（SCIE）の他、レスター大学（イギリス）、モナシュ大学（オーストラリア）の専門職連携教育（IPE）のステークホルダー、学部長、統括部長らとミーティングを重ね、連携枠組みについて合意を得た。さらにこれらの関係者も含めてプログラム評価委員会を組織した。2023年度以降の事業実施のために調整を継続中である。

【特に優れた取組】

本学を中心として3カ国の提携大学と全学対象の学生交換を実施するために、各大学の国際教育あるいは専門職連携教育等のステークホルダーや責任者らとミーティングを重ねて連携枠組みについて合意に至り、さらにプログラム評価委員会を組織した。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

受入/派遣双方において、滞在中の生活については現地駐在の実績ある民間コーディネート事業者を活用し、日英印3カ国語にて24時間対応できる連絡支援体制を構築した。その他、学生同士のバディ方式による互助、グループチャットを活用した即時での全体的支援体制を整備・運用した。現地演習時に学生が使用するWi-Fiルーターや学内演習時の専用教室も準備した。課題として、2023年度は新たに英国の大学が加わり参加学生数も増えることから、新たな支援体制の構築が必要であり、関係者との調整を開始した。

【特に優れた取組】

学生同士のバディ方式による相互支援、3カ国語対応可能な現地駐在民間コーディネーターの活用、コーディネーターも含めた学生・教員等によるグループチャットによる情報共有ならびに遠隔での支援体制の構築・実施が有効であった。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

本事業の実施にあたり、SIUとは大学間協定締結に至り、2022年度の本事業においては全学総動員体制にて学生派遣・受入を行う等さらなる国際化を牽引した。本事業に関する情報は専用Webサイトを作成・公開し、随時更新している。成果の公開・普及に関しては、採択率40％の専門職連携教育の国際学会での演題発表に応募した結果採択され、2023年11月に本事業の紹介と2022年度の効果検証等について発表を行う予定である。さらなる公開・普及を課題として、高校等での出前講義等や他の協定大学での紹介、近隣の大型商業施設等との提携により周知と普及を同時にはかる方策をとっている。

【特に優れた取組】

事業開始と同時に専用Webサイトを開設し、本学の関係サイトも併せて広く情報を公開した。本学近隣の多様な施設や組織との共同により多方面への情報発信を行った。学修プログラムとしても、採択率40％の専門職連携教育の国際学会において応募演題が採択され、世界の専門家に向け、成果も含めた発表を行う予定である。

（2）特記すべき成果

1. 初年度の準備時間が非常に短いトライアル版であったが、計画通りに各大学10名の学生交換を行い、渡航先国の特徴とも言える社会課題解決のための活動にチームで取り組んだ。同時に具体的な課題もクリアとなり、トライアルとして十分な成果を得た。2. 特に本学からの派遣学生については、4学部および1研究科からの参加という、本事業の目的である多様な専門性を有する学生のチーム形成に近いものであった。今後はさらに多様性を拡張し、受入学生についても多様性の担保を進める。3. 日印双方の学生は、渡航先においても自国においても、バディとして演習活動に同行・同席し、各学生の実渡航期間は約10日間であるが、渡航先・自国内におけるバディとしての活動と学習はその2倍の期間であり、効率的な留学体験となった。4. 3のバディ方式により、参加学生は受入学生とともに自国内の社会課題について学習し、解決のための活動にともに参加することにより、渡航国のみならず自国についても相対的に学習を行う貴重な機会となった。5. Metaverseプラットフォームの導入により、仮想空間上での24時間解放学習室という機能を学生に提供した。学生は物理的な距離を越えて自主的にMetaverse上で集合して学習を行った。またMetaverseプラットフォームの存在と機能に参加学生自身も驚いており、新たな学習体験機会の提供となった。今後は、学生による活用アイディアなども収集し、反映する予定である。6. グループチャットシステムを用いることにより、リアルタイムかつ遠隔にて、学習活動および滞在中の支援体制を構築することができた。7. カウンターパートであるSIU、本学事業担当者、民間コーディネート事業者、さらには学生同士のバディ方式による互助も活用し、学生は安全に本プログラムでの活動を終える事ができた。

（3）オンラインを活用した工夫・改善点

1. 工夫1）オンライン学習管理システムLMSの導入による学習プロセスの可視化と管理：本学において使用中のLMSを本事業においても日印の参加学生を対象に使用する計画としてビジターアカウント取得、英語でのコース設定等を実施したが、SIU側のログイン困難があり、次項のグループチャットの使用へと柔軟に変更した。

工夫2）グループチャットの導入による即時支援とコミュニケーションおよび体験の共有：1とは別に、参加学生個々とのやりとりや参加学生全体での情報共有をスムーズかつ即時性を持って実施するために、本学利用のLMSの機能でもあるグループチャットを導入した。日印の参加学生及び関係教職員も含めて同チャット上でコミュニケーションを行うことにより、即時的に遠隔においても支援や学習成果の共有を行うことができた。

工夫3）Metaverseプラットフォーム導入による仮想の24時間開放型学習室の提供：Metaverseプラットフォームは最終のオンライン学習成果発表会開催や学生同士の自主的な交流ツールとして導入した。セキュリティとともに利用者の利便性を優先し、Webベースのプラットフォームを選定した。渡航前・中・後も学生同士による主体的な利用が見られた。特に本プログラムは全学部・大学院から学生が参加することから、Metaverseでは物理的距離を越えて集合できる点、テレビ会議ツールと異なり、ネット上の空間として常時存在するため学生はいつでも入室・利用可能な点、入室者やその活動も把握可能である点など、利便性が高く、有効であった。レイアウトやデザインもカスタム可能であり、参加学生の写真をオブジェクトとして臨場感が高まるようにした。

2. 改善点LMSへのログインやMetaverseプラットフォームの入室・利用法など、ある程度のインストラクションが必要である。2023年度はLMSへのログインは必須としてMetaverseプラットフォームについてもインストラクションを何度も行い、さらに使用を促すような仕組み作りを行っていく。また、オンライン学習ツールとして、SIUの学生が有料のofficeアプリケーションを利用できないという状況があり、無料のオンラインアプリケーションへと変更するなどして対応した。今後もその点に配慮してLMSでのコース設定等を行う。

２．交流学生数の実績等 【（1）（２）はそれぞれ６ページ以内、（３）は１ページ】

（1）交流する学生数について

①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	10	10	15	15	20	20	30	30	40	40	115	115
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	10	10	15	15	20	20	30	30	40	40	115	115

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	10	10	15	15	20	20	30	30	40	40	115	115
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	10	10	15	15	20	20	30	30	40	40	115	115

②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）										
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生（以下「オンライン」）	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B
実渡航とオンライン受講を行った学生（以下「ハイブリッド」）	10	10								
達成目標に対する実績の割合	100%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

③：【交流形態別　内訳】（計画）

●申請時の計画調書記載人数

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			10	0	15	3	20	3	30	5	40	8
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド		10		15	3	20	3	30	5	40	8
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	10	0	12	0	17	0	25	0	32
	実渡航		0	0								
	オンライン											
	ハイブリッド			10		12		17		25		32
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											

●海外相手大学追加調書分

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											

●合計

			2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			10	0	15	3	20	3	30	5	40	8
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		10	0	15	3	20	3	30	5	40	8
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	10	0	12	0	17	0	25	0	32
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	10	0	12	0	17	0	25	0	32
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

④：【交流形態別　内訳】（実績）

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			10	10	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド		10	10								
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド		0	0								
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

2022年度はインドのシンビオシス国際大学（SIU）と連携し、トライアルとして、派遣・受入各10名、計20名の学生交換を計画し、実施した。千葉大学からは4学部、1研究科より学生10名を派遣した。参加学生は、2023年2月13日～2月22日の間、シンビオシス国際大学のあるプネ（インド）に滞在し、困難な状況にある子ども達への支援をテーマとして、現地の障害児/者、ならびに生活困窮状況にある子どもへの支援を行う施設・組織を訪問し、支援活動に参加した。学生はチームとして社会課題の背景要因ならびに新たな支援法について考察し、学習成果として発表した。本プログラムによる単位取得希望者は2名であり、その全員が本学の当該科目による2単位を認定された。

【特に優れた取組】
全学より参加学生を募集し、参加学生の多様性を担保できた。計画通り、渡航先において、実際のサービス活動に参加しながら、社会課題解決に取り組む学習活動を行った。自国内での事前事後学習も含め計画通りに実施した。単位取得希望者は、全員が認定に至った。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

SIUからは、日本入国にあたり査証を取得する必要があることから、参加学生募集を短期間で行う必要があり、トライアルとして同大学看護学部・看護学研究科の学生10名を参加学生として受け入れた。2023年2月28日～3月9日の間、日本に滞在し、千葉県および東京都において、日本の高齢者の健康と地域包括ケアシステムをテーマとして、地域の高齢者の健康を支える訪問看護ステーションや、高齢者自身が運営するカフェや自助グループ、さらにホームレス支援団体の活動や、災害準備教育としての町歩きに参加した。事前事後学習も併せて、インドとは全く異なる高齢者支援について考察し、学習成果を発表した。千葉大学はこれらSIU学生を特別聴講学生として、10名全員に当該科目の2単位を認定した。2023年度はSIUにおいても7月より参加学生を募集開始し、募集に十分な時間を取ることで学生の多様性を担保することとしている。

【特に優れた取組】
初年度であり看護系学生のみの参加となったが学部生・研究科学生という多様性を確保した。計画通り、日本において、日本の特徴的な高齢者に関する社会課題解決に取り組む学習活動を行った。自国内での事前事後学習も含め計画通りに実施し、参加学生全員が単位認定に至った。

（2）インターンシップの実施状況について

①本事業で計画している交流学生のうちインターンシップに参加する学生数（計画）

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	2	2	2	2	2	2	6	6
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）											0	0
自国にてインターンシップをオンラインで参加する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	2	2	2	2	2	2	6	6

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）											0	0
自国にてインターンシップをオンラインで参加する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	2	2	2	2	2	2	6	6
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にてインターンシップをオンラインで参加する学生（以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	2	2	2	2	2	2	6	6

②プログラム全体のインターンシップ参加学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）										
自国にてインターンシップをオンラインで参加した学生（以下「オンライン」）	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B
実渡航とオンライン参加を行った学生（以下「ハイブリッド」）	0	0								
達成目標に対する実績の割合	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

③：【参加形態別　内訳】（計画）

●申請時の計画調書記載人数

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	2	0	2	0	2	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド						2		2		2	
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	2	0	2	0	2
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド							2		2		2
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											

●海外相手大学追加調書分

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											

●合計

		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	2	0	2	0	2	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	2	0	2	0	2	0
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	2	0	2	0	2
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	2	0	2	0	2
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

④：【交流形態別　内訳】（実績）

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド		0	0								
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド		0	0								
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

【特に優れた取組】

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

【特に優れた取組】

（3）　その他（上記（1）（2）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

（4）本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

（ｉ）単位互換を実施する海外相手大学数【計画】　（単位：校）

	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する海外相手大学数	1	0	2	1	3	3	3	3	3	3

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【計画】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学　【大学名：千葉大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
シンビオシス国際大学	認定者数		2	2	2	2	2
	認定単位数		1	1	2	2	2
レスター大学	認定者数			1	1	1	1
	認定単位数			1	1	2	2
モナシュ大学	認定者数				1	1	1
	認定単位数				1	1	2
年度別認定者数合計			2	3	4	4	4
年度別認定単位合計			1	2	4	5	6

【2022年度末における目標の達成状況】

（ｉ）単位互換を実施した海外相手大学数【実績】　（単位：校）

	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した海外相手大学数	0	1								

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【実績】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

（ｉ）代表申請大学　【大学名：千葉大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
シンビオシス国際大学	認定者数		0				
	認定単位数		0				
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位合計			0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和４年度採択）
令和５年度フォローアップ調査票

<table>
<tr><td>大学名
（〇が代表大学）</td><td colspan="4">東京藝術大学</td></tr>
<tr><td>主な交流先</td><td colspan="4">英国・インド・オーストラリア</td></tr>
<tr><td rowspan="2">事業名</td><td>【和文】</td><td colspan="3">Shared Campus（国際共創キャンパス）を活用した日英豪印 SDGs × ARTs グローバルリーダー養成プログラムー世界を幸福にするイノベーション創出ー</td></tr>
<tr><td>【英文】</td><td colspan="3">Japan-UK-Australia-India SDGs x ARTs Global Leadership Initiative collaboration with Shared Campus (International Co-Creation Campus)
-Creating innovations for world happiness-</td></tr>
<tr><td rowspan="2">事業責任者
※交替年月日は変更があった場合のみ記入</td><td>（氏　名）</td><td>今村　有策</td><td>（所属・職名）</td><td>美術研究科・教授</td></tr>
<tr><td>（交替年月日）</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="11">海外相手大学追加調書分
相手大学名

※追加調書を提出した大学のみ記入</td><td colspan="3">大学名</td><td rowspan="2">国名</td></tr>
<tr><td></td><td>（日本語表記）</td><td>（英語表記）</td></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用
https://indo-pacific.geidai.ac.jp/

１．取組内容の進捗状況【（1）と（2）で２ページ以内、（3）（4）で2ページ以内、（5）（6）で合わせて１ページ以内】

本事業における2022年度の取組内容について記入してください。

（1）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

①‐１ 交流プログラムの内容

相手大学であるロンドン芸術大学（UAL）、ナショナル・インスティトュート・オブ・デザイン（NID）、モナッシュ大学（MONASH）と共に、芸術とクリエイティビティを通じて環境問題に取り組むための国際共同カリキュラムの開発に取り組んだ。

派遣事業：UALへ国際芸術創造研究科（GA）から大学院生８名、研究生１名、音楽学部音楽環境創造科からは学部生が２名参加し、ワークショップ及びフィールドワークを行った。

受入事業：UALより教員1名をオンライン招へい、NIDから学生2名（修士課程1名、学部生1名）と教員1名、MONASHからは学生2名（博士課程1名、修士課程1名）と教員1名を招へいし、陶芸ワークショップや就農体験を通じて、芸術からの環境問題や気候変動問題に取り組む共同プログラムを行った。

【特に優れた取組】

「SDGs x ARTs」国際カリキュラムを順調に実施することができたことに加え、受入プログラム農体験はインターンとしての役割も兼ねた。

①‐２ 学生主体の国際交流プログラム

上記の受入プログラムの成果発表では、プログラム参加学生たちによるプログラムを通じた学びや作品が発表され、各学生の出身国・地域の環境問題と地域固有の土地や気候をアートの視点から読み解く多様な発表内容が共有された。相手国のイギリス、インド、オーストラリアの他、本学の参加学生の出身地であるタイや中国、オーストリア等、また本学学生の留学予定先であるコスタリカなど、各国の環境問題や地域特有の知識を学生たちの発表を介して集合することで、まさにグローバルな場でありながらもローカルの視点を行き来する学生たちの主体性が発揮された場となった。なお、派遣プログラムにおいても、学生主体によるフィールドワークなどを行った。

【特に優れた取組】

特に受入プログラム期間中は学生主体での成果発表、プレゼンテーション企画の他に、海外学生の東京滞在に関して学生自身が自主的にサポートやガイドを引き受けたり、エクスカージョンで出会ったゲストや他大学学生との出会いを通じて、プログラムの枠を超えた国際交流の活動が生まれていた。

①‐３ オンライン（「JV-Campus」等）を活用したプログラム

本学グローバルサポートセンターの開講科目「日本の芸術・文化を英語で学ぶ」の工芸分野について、15分×３回の授業内容を撮影した。授業では日本の陶磁器の歴史的変遷を紹介し、輸出産業として始まったものが工芸文化として各国に親しまれる様になった過程を解説した。

【特に優れた取組】

本授業については英語字幕に加えて、独自に中国語の字幕版を用意する予定であり、2023年度前期中に公開予定である。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

各プログラムにおいて、専任教員による事前事後の学習プロセスを設け、教育の質保証の強度を高めることができた。個別には、派遣プログラムでの課題発見型のフィールドワーク実施と、ワークショップではロンドン芸術大学を中心に開発している教育評価システム「REBEL」（http://rebel-tool.org）に触れることで、質的な評価体系を基にした交流プログラムのあり方を体験する機会となった。受入プログラムに関しては、3月におこなった「SDGs x ARTs」国際カリキュラムの成果発表において、参加学生たちによるプレゼンテーション、作品の発表が行われ、インド、オーストリア、また留学生を含む本学学生の出身国の各地の環境問題についての共有、土地や気候など地域固有の環境についてアートの視点から読み解く作品発表が行われた。

【特に優れた取組】

「REBEL(レベル)」は、個人やグループが自らの学習経験をもとにした能力（Capability ）・適正（competency）を含めた包括的で質的な評価システムを特徴としており、ロンドンでのワークショップ報告では、REBELを用いることで学生同士の水平的な相互評価、数値化されない質的な会話や議論の促進といった一定の効果が認められた。このように「REBEL」は、普段とは異なる多岐にわたるトピックへの関心、議論を作り出すための有効なツールとして今後の大学教育への応用がさらに期待されており、大学での通常授業での応用も検討している。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

交流プログラムの核となる「セメスター・コース」および「サマー・コース」の計画・実施・管理等を総合的に担う役割として、英語による指導が可能な専任教員を新たに1名雇用し、将来的な取組への関与も含め、包括的なマネジメントを行っています。また、学生派遣/受入を、グローバルサポートセンターとの協働により一体的に支援することで、大学本部グローバルサポートセンターにおいても、Ph.D取得教員を中心に、アカデミックライティングの指導や、全般的な留学支援を行っている。またGAPおよびGAでは、英語での論文指導を行っており、所属する日本人教員は全員学生との英語での指導・コミュニケーションが可能。本学教員のおよそ4割は外国での教育研究歴を有している他、芸術系大学の特性である「海外での芸術活動歴」を有する教員までを含めると、およそ8割超の教員が海外での活動実績を有しており、およそ6割を超える教員は外国語で授業を行うことが可能であるなど、国際化に対応した教員組織基盤が整っている。

【特に優れた取組】

英語でのプログラムが主となり、英語でのコミュニケーションに不安な学生がいる中、専門用語を多く伴う内容の際はグローバルサポートセンターの教員が適宜通訳者となることで、国際的なコミュニケーションの場への参加をより多様な学生に促した。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

本事業の活動については特設サイト（https://indo-pacific.geidai.ac.jp/）を設置し、事業活動の情報公開に務めている。また、派遣プロジェクトについては参加学生のフィードバックをまとめた広報冊子を作成しており、アウトプットを含めた教育プログラムの役割も果たしている。また、学長自らも広報活動を担っており、各国の芸術大学からなるShared Campusの学長級会議での紹介や、本学YouTubeチャンネルでコンテンツ化し発信を行った。

【特に優れた取組】

3月のロンドン派遣「IUEP GEIDAI 2023: Arts Mapping in London」では国際芸術創造研究科の教員３名、学生11名が参加し、ロンドン市内、ロンドン芸術大学セントラル・セント・マーチンズ校、ロンドン大学ゴールドスミス校への訪問・交流の成果を教員・学生ともにエッセイや論考として小冊子にまとめた。これによって交流プログラム各参加者の視点から、派遣事業全体のフィードバックとその成果の共有を行った。また、YouTubeなどのSNSやホームページを利用し、学外や民間企業に対しても交流活動の広報や周知を行なっている。

（２）特記すべき成果

世界展開力提携校との交流プログラムを実施したことによって、提携校のみならず他の海外美術大学ともShared Campusのネットワークを通じた交流・交換プログラムを付随的に実施することができた（例、ロンドン大学ゴールドスミス校、チューリッヒ芸大学とのプログラムの参加、協同）。このように世界展開力のネットワークを軸にしつつ、波及的にプログラムや参加校の幅が広がったことで、参加学生の教育機会と内容、選択肢をさらに拡充させることができた。

（３）オンラインを活用した工夫・改善点

パートナー校のポリシー（フライト多用に対する環境負荷配慮）による渡航制限があるケースもあったため、オンライン環境での講義・受講可能なプログラムを用意することで柔軟にオンライン、対面の切り替えを行いプログラムを実施した。また、講師はオンライン、受講学生は対面にてワークショップを行ったりするなど、遠隔でありながらも対面での教育効果を大きく損なうことなくプログラムが実施できた。

２．交流学生数の実績等 【（1）（２）はそれぞれ６ページ以内、（３）は１ページ】

（1）交流する学生数について

①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	2	6	10	21	10	21	10	21	10	21	42	90
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）			1	3	1	3	1	3	1	3	4	12
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）			3	9	3	9	3	9	3	9	12	36
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	2	6	6	9	6	9	6	9	6	9	26	42

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	2	6	10	21	10	21	10	21	10	21	42	90
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	1	3	1	3	1	3	1	3	4	12
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	0	0	3	9	3	9	3	9	3	9	12	36
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	2	6	6	9	6	9	6	9	6	9	26	42

②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	24	4	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）	10	4								
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生（以下「オンライン」）	A B 14	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B
実渡航とオンライン受講を行った学生（以下「ハイブリッド」）										
達成目標に対する実績の割合	1200%	67%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

③：【交流形態別　内訳】（計画）

●申請時の計画調書記載人数

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			2	6	6	9	6	9	6	9	6	9
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド		2	6	6	9	6	9	6	9	6	9
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	1	3	1	3	1	3	1	3
	実渡航				1	3	1	3	1	3	1	3
	オンライン											
	ハイブリッド											
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	3	9	3	9	3	9	3	9
	実渡航											
	オンライン				3	9	3	9	3	9	3	9
	ハイブリッド											
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											

●海外相手大学追加調書分

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											

●合計

		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		2	6	6	9	6	9	6	9	6	9
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	2	6	6	9	6	9	6	9	6	9
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	1	3	1	3	1	3	1	3
	実渡航	0	0	1	3	1	3	1	3	1	3
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		0	0	3	9	3	9	3	9	3	9
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	3	9	3	9	3	9	3	9
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

④：【交流形態別　内訳】（実績）

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			9	4	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		9	4								
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			15	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		1									
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B 14	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

派遣プログラムについては、ロンドン芸術大学への実渡航に国際芸術創造研究科と音楽学部音楽環境創造科の正規生１０名（これ以外に研究生が１名）が参加し、現地でのフィールドワーク及びワークショップに参加した。また派遣時にロンドン大学ゴールドスミス校にも来訪し、交流の幅を広げることができた。また、美術研究科グローバルアートプラクティス専攻および美術学部生１４名が、上記とは別にロンドン芸術大学とのオンラインプログラムに参加し、交流をすることができた。
渡航時に行った課題発見型のフィールドワーク実施に加え、ワークショップでは、ロンドン芸術大学が開発している教育評価システム「REBEL」（http://rebel-tool.org）に触れることで、質的な評価体系を基にした交流プログラムのあり方を体験する機会となった。

【特に優れた取組】
ロンドン芸術大学のHaywood教授を中心に開発している教育評価システム「Rebel(レベル)」は、個人やグループが自らの学習経験をもとにした能力（Capability ）・適正（competency）を含めた包括的で質的な評価システムを特徴としており、ロンドンでのワークショップ報告では、REBELを用いることで学生同士の水平的な相互評価、数値化されない質的な会話や議論の促進といった一定の効果が認められた。このように「REBEL」は、教員などの評価者のための評価に加えて、実際に学修を行った学生の潜在的な適性を導き出すことをも目的としており、社会に出た際も有用となるために、真に学生のための評価を行おうとしていることに価値があるといえよう。このような評価を行うことは普段とは異なる多岐にわたるトピックへの関心、議論を作り出すための有効なツールであり、ワークショップではShared Campusをはじめ世界各国で通用するようなバージョンアップについての意見交換も行い、今後の大学教育での応用も検討した。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

相手大学であるロンドン芸術大学（UAL）、ナショナル・インスティトュート・オブ・デザイン（NID）、モナッシュ大学（MONASH）と共に、芸術とクリエイティビティを通じて環境問題に取り組むための国際共同カリキュラムの開発に取り組んだ。UALより教員1名をオンライン招へい、NIDから学生2名（修士課程1名、学部生1名）と教員1名、MONASHからは学生2名（博士課程1名、修士課程1名）と教員1名を招へいし、芸術からの環境問題や気候変動問題に取り組む共同プログラムを開発、そして国際ダブルディグリーに向けて相互に学び合う機会を創出した。
主には、2023年3月15～21日にかけて「分解」や「土」をテーマに東京藝術大学上野キャンパスを拠点に「SDGs x ARTs」国際カリキュラムを実施した。農業歴史家の藤原辰史（京都大学准教授）を招きゲスト講演や、本大学の茨城県取手にあるキャンパスで実際に土を触り学生間の交流を育む陶芸ワークショップ、千葉県鴨川市にある限界集落の棚田に訪れ就農体験を行うフィールドワークなどを行った。

【特に優れた取組】
本学からは、現代アートの領域についてグローバルな枠組みで実践的な作品制作を行う大学院美術研究科グローバルアートプラクティス専攻（GAP）、市民プロジェクト・企業メセナや批評研究・文化行政などの人文社会学を教員をもとにアートと社会を繋げる人材育成を行う国際芸術創造研究科（GA）の学生を中心に、17名が参加し、成果発表では各国の環境問題に根差しアートの視点から考える解決方法を発表し互いに批評し持続可能な芸術と教育、また環境問題との向き合い方について議論を重ねた。
上記のプログラムの成果発表では、プログラム参加学生たちによるプログラムを通じた学びや作品が発表され、各学生の出身国・地域の環境問題と地域固有の土地や気候をアートの視点から読み解く多様な発表内容が共有された。相手国のイギリス、インド、オーストラリアの他、本学の参加学生の出身地であるタイや中国、オーストリア等、また本学学生の留学予定先であるコスタリカなど、各国の環境問題や地域特有の知識を学生たちの発表を介して集合することで、まさにグローバルな場でありながらもローカルの視点を行き来する学生たちの主体性が発揮された場となった。

（2）インターンシップの実施状況について

①本事業で計画している交流学生のうちインターンシップに参加する学生数（計画）

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	1	1	0	1	1	1	1	1	3	4
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	1	1	0	1	1	1	1	1	3	4
自国にてインターンシップをオンラインで参加する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）											0	0
自国にてインターンシップをオンラインで参加する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	1	1	0	1	1	1	1	1	3	4
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	1	1	0	1	1	1	1	1	3	4
自国にてインターンシップをオンラインで参加する学生（以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

②プログラム全体のインターンシップ参加学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）		4								
自国にてインターンシップをオンラインで参加した学生（以下「オンライン」）	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B
実渡航とオンライン参加を行った学生（以下「ハイブリッド」）										
達成目標に対する実績の割合	-	-	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

③：【参加形態別　内訳】（計画）

●申請時の計画調書記載人数

		学生別	2022年度 派遣	2022年度 受入	2023年度 派遣	2023年度 受入	2024年度 派遣	2024年度 受入	2025年度 派遣	2025年度 受入	2026年度 派遣	2026年度 受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	1	1	0	1	1	1	1	1
	実渡航				1	1		1	1	1	1	1
	オンライン											
	ハイブリッド											
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											

●海外相手大学追加調書分

		学生別	2022年度 派遣	2022年度 受入	2023年度 派遣	2023年度 受入	2024年度 派遣	2024年度 受入	2025年度 派遣	2025年度 受入	2026年度 派遣	2026年度 受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											

●合計

			2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	1	1	0	1	1	1	1	1
	実渡航		0	0	1	1	0	1	1	1	1	1
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

④：【交流形態別　内訳】（実績）

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	4	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航			4								
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

派遣プログラムにおいては、スタートアップとしてロンドン芸術大学に実渡航を行い、交流の足掛かりを作ることができた。コロナ禍により徐々に都市の活動も再開してきたこともあり、今後のインターン活動について期待したい。

【特に優れた取組】
フィールドワークにおいて、ロンドン市内の美術館などをリサーチしアートマネージャーとして、インターンを実施できる候補の検討も実施した。また、国際芸術創造研究科のOB・OGを通じて、日本国内でアーティストインレジデンスの活動を行っている団体ともコンタクトが取れ、今後の展開についても検討を進めた。
※参考　https://www.paradiseair.info/

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

受入プログラムにおいては、千葉県鴨川市で行った就農体験を通じて、実際の農作業に従事しインターンとしての役割を果たした。また実際に土を触り自然を通じた素材の感覚をつかむことで、SDGsにおけるArtsのあり方についても再考する良い機会を提供することができた。

【特に優れた取組】
国際芸術創造研究科のOB・OGを通じて、日本国内でアーティストインレジデンスの活動を行っている団体ともコンタクトが取れ、今後の展開についても検討を進めた。
※参考　https://www.paradiseair.info/

（3）　その他（上記（1）（2）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
	なし	人
		人
		人
		人

（4）本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

（ｉ）単位互換を実施する海外相手大学数【計画】　（単位：校）

	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する海外相手大学数	2	6	7	12	7	12	7	12	7	12

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【計画】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学　【大学名：　大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
ロンドン芸術大学（英国）	認定者数	B(大学院生)	2	4	4	4	4
	認定単位数	B(大学院生)	2	8	8	8	8
モナッシュ大学（オーストラリア）	認定者数	B(大学院生)	2	4	4	4	4
	認定単位数	B(大学院生)	2	8	8	8	8
National Institute of Design（インド）	認定者数	B(大学院生)	2	4	4	4	4
	認定単位数	B(大学院生)	2	8	8	8	8
年度別認定者数合計			6	12	12	12	12
年度別認定単位合計			6	24	24	24	24

2. 国内連携大学　【大学名：　大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位合計			0	0	0	0	0

【2022年度末における目標の達成状況】

（ｉ）単位互換を実施した海外相手大学数【実績】　（単位：校）

	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した海外相手大学数	1	2								

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【実績】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

（ｉ）代表申請大学　【大学名：　大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
ロンドン芸術大学（英国）	認定者数	A(取学部生または大学院生)	9				
	認定単位数	A(取学部生または大学院生)	22				
モナッシュ大学（オーストラリア）	認定者数						
	認定単位数						
National Institute of Design（インド）	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			9	0	0	0	0
年度別認定単位合計			22	0	0	0	0

2. 国内連携大学　【大学名：　大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位合計			0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和４年度採択）
令和５年度フォローアップ調査票

<table>
<tr><td>大学名
（〇が代表大学）</td><td colspan="4">広島大学</td></tr>
<tr><td>主な交流先</td><td colspan="4">英国・インド・オーストラリア</td></tr>
<tr><td rowspan="2">事業名</td><td>【和文】</td><td colspan="3">国際協働学習を通じて醸成するアジャイル・アントレプレナーシップ</td></tr>
<tr><td>【英文】</td><td colspan="3">Agile Entrepreneurship Development Program through International Collaborative Learning</td></tr>
<tr><td rowspan="2">事業責任者
※交替年月日は変更があった場合のみ記入</td><td>（氏　名）</td><td>金子　慎治</td><td>（所属・職名）</td><td>理事・副学長
（グローバル化担当）</td></tr>
<tr><td>（交替年月日）</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="11">海外相手大学追加調書分
相手大学名

※追加調書を提出した大学のみ記入</td><td colspan="3">大学名</td><td rowspan="2">国名</td></tr>
<tr><td></td><td>（日本語表記）</td><td>（英語表記）</td></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用
（日本語）https://agile-indopacific.hiroshima-u.ac.jp/ （英語）https://agile-indopacific.hiroshima-u.ac.jp/en/

１．取組内容の進捗状況 【（１）と（２）で２ページ以内，（３）（４）で2ページ以内，（５）（６）で合わせて１ページ以内】

本事業における2022年度の取組内容について記入してください。
（１）取組の進捗状況を踏まえた，各観点における現段階の課題と今後の展望
①－１ 交流プログラムの内容 本事業は，英国，インド，オーストラリアの４大学と協働で，国際的教養人として，多様な環境の中で活動し，異なる文化の視点を通して環境に柔軟に対応可能な能力を備え，答えのない様々な課題に対して，多様な世界の中で他者と協働して成長を続ける事ができる，アジャイル・アントレプレナーシップを備えた人材を育成するプログラムを展開する。２０２２年度はオンライン（COIL型教育）でSDGsをベースとしたUrban resilienceコースを開始し，協定大学から２名，広島大学から３名，合計５名の学生が参加した。
【特に優れた取組】 COIL型教育では，異なる文化的背景を持つ学生が，オンラインツールを利用して課題に協働で取り組むことで，グローバル人材としての資質を身に付けることができた。また，本学に加え，連携大学や外部講師を招いて講義いただくことで，多角的な視点から学生が学ぶ機会を提供できた。また，学生が疑似的に留学したような学習環境を提供することができ，ワークショップ，実渡航を伴う中長期留学プログラムへの参加意欲向上や具体的な参加イメージの構築，プログラムを通じて学生同士の協働ビジネスの構築につながった。少人数だからこそ，講師と学生がテーマに対し知識を深めることができ，学生同士の議論も活発に行うことができた。
①－２ 学生主体の国際交流プログラム 海外留学を考えている学生に向けて，留学経験者に留学体験の報告をしてもらうとともに，参加者が自由に 留学経験者と交流できる場をつくり，留学の申請から渡航までの準備を始めるきっかけにしてもらうことを目的に，学生（留学アドバイザー）が2022年10月に学内でオンライン留学促進イベントを企画，広報及び実施，報告を行った。
【特に優れた取組】 COIL型教育において，テーマであるUrban resilienceについて，学生が主体となって，グループディスカッションを行い，国ごとの施策の違いを学び合うことができた。

①－３ オンライン（「JV-Campus」等）を活用したプログラム

海外連携大学に対してJV-Campusの周知広報を実施した。各大学の英国・インド・オーストラリア国内におけるネットワークを活用し，3か国の教育機関等にも広くJV-Campusの周知を図り，個別機関Boxの取得や戦略的Boxへの講義パッケージ等の登録等を促す。本事業の採択大学幹事校として，採択校連絡会でJV-Campusの主幹校である筑波大学を招聘し，JV-Campusの最新の情報や想定される活用方法等について，採択校への情報提供を実施した。また，JV-Campusより配信する共同利用コンテンツ案の公募に参加し，申請9件に対し9件が採択された。今後は，海外連携大学と連携し，事業で実施するプログラムにて，LMSとしての利用，及び日本語や各種公開コンテンツの活用を進めていくとともに，本学の国際的プレゼンスの向上のためのプラットフォームとしての活用を図る。

【特に優れた取組】

JV Campusの周知を図るため，専用のウェブサイトにアクセスリンクを設置した。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

質の保証を伴った大学間交流を行うべく必要な項目を定めた学生交流協定のもと，プログラムを実施している。2022年11月に4か国5大学の教職員が，オンラインによるシニアマネジメント会議等，こまめなオンラインミーティングを実施した。令和5年３月には，対面でのキックオフ会議を開催し，プログラム目的の共有や，事業実施に係る協議を行い，共通理解に基づく推進体制と信頼関係を構築した。さらに学年暦及び成績評価基準の情報共有を行い，推進上の課題及び解決方法について具体的な議論を行った。

【特に優れた取組】

全ての教育取組を授業科目として提供することで，全学的なガイドラインに従った授業方法と内容，到達目標，成績評価方法・基準等による厳密な成績管理を行い教育の質を保証している。
さらに，各教育取組において，学生が修得すべき6つのコンピテンシーを到達目標として設定している。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

事業の推進を目的に，事業責任者である理事・副学長の下に事業実施部会を設置し，事業責任者，事業コーディネーター，学内教員及び事務担当者が参画する形で定例開催した。本学の国際室に，事業を専属で担当する職員を配置し，事業支援及び学内調整を行っている。本学と連携大学のキックオフ会議を通じて，スムーズな学生交流のための調整や交流プログラムについての具体的協議を行うとともに，各国の治安・感染症情報等の情報を収集する体制を整備した。また，当該プログラム用の科目を新規開設し，シラバスに沿って各プログラムを実施する環境を整えた。さらに，翌年度から実施するサマースクールの立案も開始し，実施部会および海外相手大学との協議を重ね，受入体制を整える準備ができた。

【特に優れた取組】

キックオフ会議を速やかに実施したことで，プログラムの円滑な実施と双方間の学生派遣を実施するための体制を整備することができた。本学国際室に，事業の専属職員を配置し，連携大学との連絡調整や，学生受け入れのワンストップサービスとして機能させることで，オンラインでの交流を速やかに開始することができた。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開，成果の普及

本事業の周知のため，2022年10月に学内でオンライン留学促進イベント，学外では2022年12月インド留学フェアへの参加，さらには，2023年3月に専用ウェブサイトを日英2言語で開設し，本事業の取組について情報発信を行った。

【特に優れた取組】

インド留学フェアに参加し，本プログラムの取組について参加者約50名に周知した。専用ウェブサイトを開設し，本事業の取組等の発信，派遣・受入学生との情報共有のための情報環境を整えることができた。令和5年度はCOIL型教育からセメスター留学まですべてのプログラムを実施し，成果を広く公開していく予定である。

（2）特記すべき成果

2022年度に実施したCOIL型教育は，すでに広島大学で実施しているオンラインプログラムをベースにしたものであることから，企画から実施までの検討を簡略化することができ，初年度から実質的なプログラムをスムーズに開始することができた。事業実施部会の設置したことで，学生受け入れ・派遣のための環境整備や情報発信の確立，及びプログラムの速やかな実施に向けて体制が整った。また，各協定校の教職員とキックオフ会議を行ったことで，本学の国際展開，本事業の実施について持続的な協力関係を結ぶための理解が得られた。

（3）オンラインを活用した工夫・改善点

COIL型教育プログラムでは，広島大学に加えて，協定校及び外部教員が講義を提供することで，複数の視点から重層的な交流プログラムを実施することができた。また，学生が効率的に学習を進めるためにTAの雇用を図り，ディスカッションがスムーズに流れるように効率性とコンサルテーションを随時図ることで，オンライン学習の質の向上を図った。

２．交流学生数の実績等 【（1）（2）はそれぞれ６ページ以内、（3）は１ページ】

（1）交流する学生数について

①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	10	40	17	67	27	47	17	67	27	47	98	268
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	10	40	10	40	10	40	10	40	10	40	50	200
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	7	27	17	7	7	27	17	7	48	68

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）												
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）												
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）												

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	10	40	17	67	27	47	17	67	27	47	98	268
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	10	40	10	40	10	40	10	40	10	40	50	200
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	7	27	17	7	7	27	17	7	48	68

②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）										
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生（以下「オンライン」）	A 0 B 2	A 0 B 2	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B
実渡航とオンライン受講を行った学生（以下「ハイブリッド」）										
達成目標に対する実績の割合	20%	5%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

③：【交流形態別　内訳】（計画）

●申請時の計画調書記載人数

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	20	10	0	0	20	10	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	20	10	0	0	20	10	0
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			10	40	10	40	10	40	10	40	10	40
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		10	40	10	40	10	40	10	40	10	40
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	7	7	7	7	7	7	7	7
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	7	7	7	7	7	7	7	7
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	4	4	4	4	4	4	4	4
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	4	4	4	4	4	4	4	4
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	1	0	1	0	1	0	1
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	1	0	1	0	1	0	1
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●海外相手大学追加調書分

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●合計

			2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	20	10	0	0	20	10	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	20	10	0	0	20	10	0
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			10	40	10	40	10	40	10	40	10	40
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		10	40	10	40	10	40	10	40	10	40
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	7	7	7	7	7	7	7	7
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	7	7	7	7	7	7	7	7
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	4	4	4	4	4	4	4	4
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	4	4	4	4	4	4	4	4
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	1	0	1	0	1	0	1
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	1	0	1	0	1	0	1
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

④：【交流形態別　内訳】（実績）

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			2	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A 0	A 0	A	A	A	A	A	A	A	A
			B 2	B 2	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド		0	0								
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

2022年度は、COIL型教育を実施し、合計3名の学生がプログラムに参加し、修了要件を満たした学生をプログラムの修了者として修了証を付与した。2023年度以降は，本学での単位取得を伴うサマースクール，3か月以上のセメスター派遣プログラム，インターンシップを開始するなど，本格的な海外派遣留学プログラムを開始する。学内で実施している海外派遣留学プログラムの事例を参考に，海外相手大学への留学に当たり必要となる事前・事後研修の充実及び派遣学生の安全管理の整備等を進めていく計画である。また，単位互換についても，交流予定の大学等と引き続き協働していく予定である。

【特に優れた取組】
オンラインで実施することによって双方向のプログラムとして提供し，3カ国の学生が集う国際的な学習の場の提供を行うことができた。また，コロナ禍ではあっても，本事業が目指す学生の協働の機会を提供することが出来た。COIL型教育では，協定大学の学生と協働するだけではなく，協定大学や外部の大学より講師が講義をすることで、学生が疑似的に留学したような空間で学習できる環境を提供し、ワークショップ，実渡航を伴う中長期留学プログラムへの参加意欲向上や具体的な参加イメージの構築，プログラムを通じて出会った学生同士が起業に向けた検討を開始している。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

2022年度は、COIL型教育を実施し、合計2名の学生がプログラムに参加し、修了要件を満たした学生をプログラムの修了者として修了証を付与した。2023年度以降は，サマースクール，3か月以上のセメスター受入プログラム及びインターンシップを開始するなど，本格的な受入プログラムを開始する。受入体制及び環境整備を進めていく予定である。また，単位互換についても，交流予定の大学等と引き続き協働していく予定である。

【特に優れた取組】
オンラインで実施することによって双方向のプログラムとして提供し，3カ国の学生が集う国際的な学習の場の提供を行うことができた。また，コロナ禍ではあっても，本事業が目指す学生の協働の機会を提供することが出来た。COIL型教育では，協定大学の学生と協働するだけではなく，協定大学や外部の大学より講師が講義をすることで、学生が疑似的に留学したような空間で学習できる環境を提供し、ワークショップ，実渡航を伴う中長期留学プログラムへの参加意欲向上や具体的な参加イメージの構築につながった。

（2）インターンシップの実施状況について

①本事業で計画している交流学生のうちインターンシップに参加する学生数（計画）

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	4	5	4	5	4	5	4	5	16	20
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にてインターンシップをオンラインで参加する学生（以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	4	5	4	5	4	5	4	5	16	20

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にてインターンシップをオンラインで参加する学生（以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	4	5	4	5	4	5	4	5	16	20
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にてインターンシップをオンラインで参加する学生（以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	4	5	4	5	4	5	4	5	16	20

②プログラム全体のインターンシップ参加学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）	0	0								
自国にてインターンシップをオンラインで参加した学生（以下「オンライン」）	A 0	A 0	A	A	A	A	A	A	A	A
	B 0	B 0	B	B	B	B	B	B	B	B
実渡航とオンライン参加を行った学生（以下「ハイブリッド」）	0	0								
達成目標に対する実績の割合	#DIV/0!	#DIV/0!	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

③：【参加形態別　内訳】（計画）

●申請時の計画調書記載人数

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	4	5	4	5	4	5	4	5
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	4	5	4	5	4	5	4	5
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●海外相手大学追加調書分

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●合計

			2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	4	5	4	5	4	5	4	5
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	4	5	4	5	4	5	4	5
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

④：【交流形態別　内訳】（実績）

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		A 0	A 0	A	A	A	A	A	A	A	A
			B 0	B 0	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド		0	0								
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		A 0	A 0	A	A	A	A	A	A	A	A
			B 0	B 0	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド		0	0								
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		A 0	A 0	A	A	A	A	A	A	A	A
			B 0	B 0	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド		0	0								
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		A 0	A 0	A	A	A	A	A	A	A	A
			B 0	B 0	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド		0	0								
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		A 0	A 0	A	A	A	A	A	A	A	A
			B 0	B 0	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド		0	0								
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		A 0	A 0	A	A	A	A	A	A	A	A
			B 0	B 0	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド		0	0								

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

2022年度はインターンシッププログラムの実施なし。
【特に優れた取組】

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

2022年度はインターンシッププログラムの実施なし。
【特に優れた取組】

（3）　その他（上記（1）（2）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

（4）本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

（ｉ）単位互換を実施する海外相手大学数【計画】　（単位：校）

	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する海外相手大学数	0	0	4	4	4	4	4	4	4	4

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【計画】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学　【大学名：　大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
シェフィールド大学	認定者数	A(学部生)	0	2	2	2	2
	認定単位数	A(学部生)	0	16	16	16	16
ビルラ技術科学大学ピラニ校	認定者数	A(学部生)	0	2	2	2	2
	認定単位数	A(学部生)	0	16	16	16	16
インド経営大学院バンガロール校	認定者数	B(大学院生)	0	1	1	1	1
	認定単位数	B(大学院生)	0	8	8	8	8
ニューサウスウェールズ大学	認定者数	A(学部生)	0	2	2	2	2
	認定単位数	A(学部生)	0	16	16	16	16
年度別認定者数合計			0	7	7	7	7
年度別認定単位合計			0	56	56	56	56

2. 国内連携大学　【大学名：　大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
	認定者数		0	0	0	0	0
	認定単位数		0	0	0	0	0
	認定者数		0	0	0	0	0
	認定単位数		0	0	0	0	0
	認定者数		0	0	0	0	0
	認定単位数		0	0	0	0	0
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位合計			0	0	0	0	0

【2022年度末における目標の達成状況】

（ｉ）単位互換を実施した海外相手大学数【実績】　（単位：校）

	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した海外相手大学数	0	0								

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【実績】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

（ｉ）代表申請大学　【大学名：　大学】

相手大学名		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
シェフィールド大学	認定者数	A(学部生)	0									
	認定単位数	A(学部生)	0									
ビルラ技術科学大学ピラニ校	認定者数	A(学部生)	0									
	認定単位数	A(学部生)	0									
インド経営大学院バンガロール校	認定者数	B(大学院生)	0	0								
	認定単位数	B(大学院生)	0	0								
ニューサウスウェールズ大学	認定者数	A(学部生)	0									
	認定単位数	A(学部生)	0									
年度別認定者数合計			0		0		0		0		0	
年度別認定単位合計			0		0		0		0		0	

2. 国内連携大学　【大学名：　大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
	認定者数		0				
	認定単位数		0				
	認定者数		0				
	認定単位数		0				
	認定者数		0				
	認定単位数		0				
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位合計			0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和４年度採択）
令和５年度フォローアップ調査票

<table>
<tr><td>大学名
（〇が代表大学）</td><td colspan="4">〇 関西国際大学　神戸芸術工科大学　宮崎国際大学</td></tr>
<tr><td>主な交流先</td><td colspan="4">英国・インド・オーストラリア</td></tr>
<tr><td rowspan="2">事業名</td><td>【和文】</td><td colspan="3">産学官連携ベンチャー・エコ・システム創成による起業家育成カリキュラムの展開</td></tr>
<tr><td>【英文】</td><td colspan="3">Nurturing a Global Entrepreneurship Mindset — Start-Up Collaboration among Business
Communities, Local Governments and a University Global Network</td></tr>
<tr><td rowspan="2">事業責任者
※交替年月日は変更があった場合のみ記入</td><td>（氏　名）</td><td>芦沢　真五</td><td>（所属・職名）</td><td>法人理事・副学長</td></tr>
<tr><td>（交替年月日）</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="11">海外相手大学追加調書分
相手大学名

※追加調書を提出した大学のみ記入</td><td colspan="2" rowspan="2">大学名</td><td rowspan="2">国名</td></tr>
<tr><td>（日本語表記）</td><td>（英語表記）</td></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用
https://www.kuins.ac.jp/GlobalExpansion/index.html

１．取組内容の進捗状況【（1）と（2）で2ページ以内、（3）（4）で2ページ以内、（5）（6）で合わせて1ページ以

本事業における2022年度の取組内容について記入してください。

（1）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

①－１ 交流プログラムの内容

取組状況

・海外協力大学であるWestern Sydney University（豪）へ、関西国際大学から8名、神戸芸術工科大学から1名、宮崎国際大学から1名の合計10名を派遣した。英語で行われる起業家育成プログラムに参加し、起業に必要なプロセスを学習した。（3月1日～3月11日）

・海外協力大学であるWestern Sydney University（豪）Vancouver Island University（加）Keele University（英）University of Delhi（印）から学生15名および引率教職員5名を招へいした。関西国際大学及び神戸芸術工科大学の学生9名と共に神戸プログラムを実施し、起業に必要なプロセスを学習した。（3月14日～3月24日）

今後の展望

・2023年度も同様に、海外協力大学の4校から学生19名および引率教職員5名を招へいし、関西国際大学及び神戸芸術工科大学の学生13名と共に神戸プログラムを実施する予定である。（7月3日～7月13日）

・派遣プログラムについても、Western Sydney University（豪）へ、関西国際大学から8名、神戸芸術工科大学から2名、宮崎国際大学から2名の合計12名を派遣する予定である。（9月11日～9月21日）

その際、起業に関する英語の専門用語、フレーズ等の修得が課題となっている。

【特に優れた取組】

特になし。

①－２ 学生主体の国際交流プログラム

取組状況

・神戸プログラムの最終日となる3月24日に国際学生起業家会議を開催した。Western Sydney Universityへの研修派遣学生と神戸プログラム参加学生が合流し、5か国7大学の学生32名がグループに分かれ、起業する事業の背景と事業内容についてゲストを含めた総勢71名の前で英語によりプレゼンを行い、専門家から事業のアイデア、実現性についてコメントを得た。

今後の展望

・2023年度は、神戸プログラム最終日の7月13日に、関西国際大学にて国際学生起業家会議を開催する。

【特に優れた取組】

特記すべき成果に記入。

①－３ オンライン（「JV-Campus」等）を活用したプログラム

取組状況

・事前研修としてWestern Sydney Universityによる2回のセッションをオンラインで実施し、起業家育成プログラム「Venture Makers」の概要について学習した。海外学生とのグループワークやグループでアイデアを発表する練習もオンラインにて実施したが、双方向によるオンラインプログラムの構築までには至らなかった。

今後の展望

・「Venture Makers」を学修するための14回分のモジュールを完成させ、双方向によるオンラインプログラムとして活用する。また、そのモジュールをJV-Campusへ提供できる様に協議、調整をすすめると共に、Western Sydney Universityへ派遣する学生に対して事前学習ツールとしても活用していく。

【特に優れた取組】

特になし。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

取組状況

・プログラムの質保証を検証していくために、起業家育成国際協働カリキュラム委員会を設置した。国内連携大学、海外協力大学の担当教員及び事務局で構成し、2022年度は4回開催した。研修期間の調整、研修プログラム内容の確認、研修後のプログラム評価などを行い、プログラムの質の確保に努めている。また、海外協力大学の教員が神戸プログラムに参加できるよう配慮することにより、実際の運営を視察でき、それをもとに相互交流を活性化している。

・ウェスタン・シドニー大学との連携により、シドニープログラム参加者にはデジタルバッジが発行された。一方、JVキャンパスと協議を重ね、2023年度のマイクロクレデンシャル発行に向けた準備をすすめた。

今後の展望

・質保証の評価体制として、「質保証アセスメント外部評価委員会」を設置し、外部評価を受審する予定である。また競争的資金の運営経験をもつ「専門アドバイザリーボード」も設置し、本事業の取組内容について助言・評価を頂きプログラムの質の向上に努める。

【特に優れた取組】

特になし。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

取組状況

・外国人学生の受入のために専任の職員を配置し、渡航手配、宿舎手配、参加案内、事前研修の準備などの支援を行った。また、英語運用能力の高い学生インターンを雇用し、細かやかなサポートを行う体制も整えた。

・派遣学生に対しても同様の支援を行うとともに、英語運用能力の強化を図るため、英語講師によるプライベートレッスンの機会および英語学習のオンラインツールの活用を図った。

・UMAPとの連携をすすめ、カナダ政府によるUMAP奨学金を受給できるように提携大学との協議をすすめた。

今後の展望

英語講師を新規に1名配置し、派遣学生へのプライベートレッスン、グループレッスンを強化するとともに、英語資格試験のうち特に、IELTS試験対策について学内教員で協議を進める。

【特に優れた取組】

特になし。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

取組状況

本事業に関する特設サイトを大学ＨＰ上に公開し、事業概要、教員インタビューと共にプログラムの活動報告として参加した学生によるレポートおよび活動状況の動画を掲載した。広く一般社会に取り組み内容を公開し、成果の発信の場として運用している。

今後の展望

2023年度の取り組みについても順次情報を公開していく。

【特に優れた取組】

特になし。

（2）特記すべき成果

学生主体の国際交流プログラムとして開催した国際学生起業家会議では、5か国7大学の学生32名がグループに分かれ、起業する事業の背景、事業内容について、ゲストを含めて総勢71名の参加者の前で英語によりプレゼンし、専門家から事業のアイデア、実現性についてコメントを得た。研修成果の一環として行ったこの国際学生起業家会議を通じ、専門家によるフィードバックを受けることにより、研修内容をより深化させることができた。

（3）オンラインを活用した工夫・改善点

取組状況

・事前研修としてWestern Sydney Universityが開催した2回のオンラインセッションに、日本からの参加学生に加えて、オーストラリア、カナダ、イギリス、インドの海外協力大学の学生も積極的に参加し、グループワークを実践するなど、様々な国からの参加者が双方向にて協働学習を行うことができた。運営に関して、可能な範囲で時差を考慮して設定したが、参加が困難な学生向けに後日録画データを送信し、レビューできるよう対応した。

課題

・日本側の学生は海外学生や教員の前で発言することに躊躇している姿が散見されたため、グループワークをより少人数制にし、現地教員から答えやすい質問を日本側の学生に投げかけてもらう等、海外協力大学と事前にすり合わせを行い、改善へ繋げることが課題である。

今後の展望

・2023年度は、Western Sydney Universityへの派遣学生に対して、国内でのオリエンテーションや事前のグループレッスンの機会をより多く提供し、海外大学のオンラインによるオリエンテーションにも積極的に参加出来るよう準備を進める。

・神戸プログラム用にオンライン教育プラットフォーム「ImmerseU」を導入し、事前事後学習、ポートフォリオなどの共通ツールとして活用する。

２．交流学生数の実績等 【（1）（２）はそれぞれ６ページ以内、（３）は１ページ】

（1）交流する学生数について

①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	30	40	38	58	40	63	38	59	45	63	191	283
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	10	15	13	32	20	23	13	33	20	23	76	126
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	20	25	25	26	20	40	25	26	25	40	115	157
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	30	40	38	58	40	63	38	59	45	63	191	283
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	10	15	13	32	20	23	13	33	20	23	76	126
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	20	25	25	26	20	40	25	26	25	40	115	157
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	10	15	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）										
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生（以下「オンライン」）	A 0	A 0	A	A	A	A	A	A	A	A
	B 0	B 0	B	B	B	B	B	B	B	B
実渡航とオンライン受講を行った学生（以下「ハイブリッド」）	10	15								
達成目標に対する実績の割合	33%	38%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

③：【交流形態別　内訳】（計画）

●申請時の計画調書記載人数

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			20	24	25	33	20	38	25	28	25	38
	実渡航		10	10	10	19	10	18	10	14	10	18
	オンライン		10	14	15	14	10	20	15	14	15	20
	ハイブリッド											
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			10	16	10	20	15	20	10	26	15	20
	実渡航		0	5	0	8	5	0	0	14	5	0
	オンライン		10	11	10	12	10	20	10	12	10	20
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	3	5	5	5	3	5	5	5
	実渡航				3	5	5	5	3	5	5	5
	オンライン											
	ハイブリッド											
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											

●海外相手大学追加調書分

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											

●合計

		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		20	24	25	33	20	38	25	28	25	38
	実渡航	10	10	10	19	10	18	10	14	10	18
	オンライン	10	14	15	14	10	20	15	14	15	20
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		10	16	10	20	15	20	10	26	15	20
	実渡航	0	5	0	8	5	0	0	14	5	0
	オンライン	10	11	10	12	10	20	10	12	10	20
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	3	5	5	5	3	5	5	5
	実渡航	0	0	3	5	5	5	3	5	5	5
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

④：【交流形態別　内訳】（実績）

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			8	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド		8	2								
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			2	13	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A 0	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B 0	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド		2	13								
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

・海外協力大学であるWestern Sydney University（豪）へ、関西国際大学から8名、神戸芸術工科大学から1名、宮崎国際大学から1名の合計10名を派遣した。英語で行われる起業家育成プログラムに参加し、起業に必要なプロセスを学習した（3月1日～3月11日）。

海外連携大学とはそれぞれと大学間包括協定を締結し、今後の長期交換留学実施に向けて学生交流協定についての締結について協議を継続している。
【特に優れた取組】
特になし。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

・海外協力大学であるWestern Sydney University（豪）Vancouver Island University（加）Keele University（英）University of Delhi（印）から学生15名および引率教職員5名を招へいした。関西国際大学及び神戸芸術工科大学の学生9名と共に神戸プログラムを実施し、起業に必要なプロセスを学習した（3月14日～3月24日）。

海外連携大学とはそれぞれと大学間包括協定を締結し、今後の長期交換留学実施に向けて学生交流協定についての締結について協議を継続している。
【特に優れた取組】
神戸プログラムの最終日となる3月24日に国際学生起業家会議を開催した。Western Sydney Universityへの研修派遣学生と神戸プログラム参加学生が合流し、5か国7大学の学生32名がグループに分かれ、起業する事業の背景と事業内容についてゲストを含めた総勢71名の前で英語によりプレゼンを行い、専門家から事業のアイデア、実現性についてコメントを得た。研修成果の一環として行ったこの国際学生起業家会議を通じ、専門家によるフィードバックを受けることにより、研修内容をより深化させることができた。

（2）インターンシップの実施状況について

①本事業で計画している交流学生のうちインターンシップに参加する学生数（計画）

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	11	3	7	13	4	2	26	13	5	31	53
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	5	3	4	9	4	2	14	9	5	23	32
自国にてインターンシップをオンラインで参加する学生（以下「オンライン」）	0	6	0	3	4	0	0	12	4	0	8	21
実渡航とオンライン参加を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）											0	0
自国にてインターンシップをオンラインで参加する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	11	3	7	13	4	2	26	13	5	31	53
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	5	3	4	9	4	2	14	9	5	23	32
自国にてインターンシップをオンラインで参加する学生（以下「オンライン」）	0	6	0	3	4	0	0	12	4	0	8	21
実渡航とオンライン参加を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

②プログラム全体のインターンシップ参加学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）	0	0								
自国にてインターンシップをオンラインで参加した学生（以下「オンライン」）	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B
実渡航とオンライン参加を行った学生（以下「ハイブリッド」）										
達成目標に対する実績の割合	#DIV/0!	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

③：【参加形態別　内訳】（計画）

●申請時の計画調書記載人数

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	11	0	5	9	0	0	21	9	0
	実渡航			5	0	2	5		0	9	5	
	オンライン			6		3	4			12	4	
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	3	2	4	4	2	5	4	5
	実渡航				3	2	4	4	2	5	4	5
	オンライン											
	ハイブリッド											
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											

●海外相手大学追加調書分

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											

●合計

		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	11	0	5	9	0	0	21	9	0
	実渡航	0	5	0	2	5	0	0	9	5	0
	オンライン	0	6	0	3	4	0	0	12	4	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	3	2	4	4	2	5	4	5
	実渡航	0	0	3	2	4	4	2	5	4	5
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

④：【交流形態別　内訳】（実績）

		学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】												
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド											

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

学生交流協定の締結と並行して、Western Sydney Universityへはインターンシップに関する交流についての協定締結についても協議を行っている。現地企業におけるインターンシップ参加には高度な英語の運用能力が求められるため、長期留学派遣の実現と併せて、学生の英語運用レベル向上のため学内の学修支援サービス拡充を継続してすすめている。

【特に優れた取組】
特になし。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

・インターンシップ受入先の開拓を本学教員が中心となり行った。又企業家育成に関する国内プログラムの委任契約先、Innovation Dojo Japan合同会社ともインターンシップ受入および受入先紹介について合意に至った。第1回目の実渡航による短期プログラムで受入れた学生がプログラム参加をきっかけとして長期間に渡るインターンシップ参加を希望する事例も上がり、今後のインターンシップ受入実績に繋げていく。

【特に優れた取組】
特になし。

（3）　その他（上記（1）（2）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

（4）本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

（ｉ）単位互換を実施する海外相手大学数【計画】　（単位：校）

	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する海外相手大学数	1	4	1	4	3	4	3	4	3	4

（ii）相手大学ごとの単位互換内訳【計画】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学　【大学名：　関西国際大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
WSU-SSE	認定者数	A(学部生)	18	23	22	20	26
	認定単位数	A(学部生)	24	39	36	29	45
Keele University	認定者数	A(学部生)			1		
	認定単位数	A(学部生)			6		
Vancouver Island University	認定者数	A(学部生)					1
	認定単位数	A(学部生)					6
University of Delhi	認定者数	A(学部生)					0
	認定単位数	A(学部生)					0
年度別認定者数合計			18	23	23	20	27
年度別認定単位合計			24	39	42	29	51

2. 国内連携大学　【大学名：神戸芸術工科大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
WSU-SSE	認定者数	A(学部生)	6	8	8	8	8
	認定単位数	A(学部生)	8	13	14	11	11
Keele University	認定者数	A(学部生)				1	
	認定単位数	A(学部生)				4	
Vancouver Island University	認定者数	A(学部生)			1		1
	認定単位数	A(学部生)			4		4
University of Delhi	認定者数	A(学部生)					0
	認定単位数	A(学部生)					0
年度別認定者数合計			6	8	9	9	9
年度別認定単位合計			8	13	18	15	15

【2022年度末における目標の達成状況】

（ｉ）単位互換を実施した海外相手大学数【実績】　（単位：校）

	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した海外相手大学数	1	0								

（ii）相手大学ごとの単位互換内訳【実績】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

（ｉ）代表申請大学　【大学名：　関西国際大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
WSU-SSE	認定者数	A(学部生)	8				
	認定単位数	A(学部生)	8				
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			8	0	0	0	0
年度別認定単位合計			8	0	0	0	0

2. 国内連携大学　【大学名：神戸芸術工科大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
WSU-SSE	認定者数	A(学部生)	0				
	認定単位数	A(学部生)	0				
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位合計			0	0	0	0	0

2. 国内連携大学　【大学名：宮崎国際大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
WSU-SSE	認定者数	A(学部生)	6	7	8	8	8
	認定単位数	A(学部生)	8	9	14	11	11
Keele University	認定者数	A(学部生)					1
	認定単位数	A(学部生)					4
Vancouver Island University	認定者数	A(学部生)				1	
	認定単位数	A(学部生)				4	
University of Delhi	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			6	7	8	9	9
年度別認定単位合計			8	9	14	15	15

2. 国内連携大学　【大学名：宮崎国際大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
WSU-SSE	認定者数	A(学部生)	0				
	認定単位数	A(学部生)	0				
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位合計			0	0	0	0	0